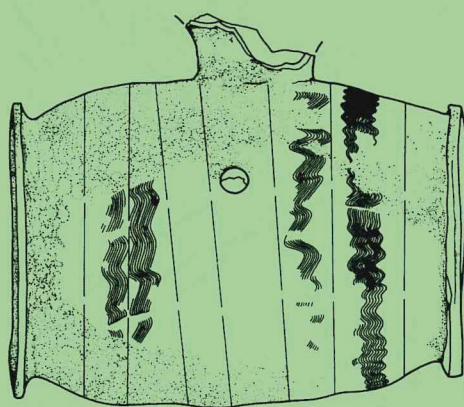


高崎市文化財調査報告書第177集

高崎情報団地Ⅱ遺跡

第3分冊

《弥生・古墳・古代・中世編》



2 0 0 2

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第177集

高崎情報団地Ⅱ遺跡

第3分冊

《弥生・古墳・古代・中世編》

2 0 0 2

高崎市教育委員会

はじめに

高崎市は、交通の要衝として古来より重要な役割を担い、また古代から文化が栄えたまちとして知られています。高崎市の遺跡は、後期旧石器時代から近代にまでわたりますが、特に古墳時代においては、国指定史跡となっている大鶴巻・浅間山・観音山・観音塚の各古墳、特別史跡の山ノ上古墳と山ノ上碑など、全国的に知られるものが存在しています。また、高崎市域には、水田遺跡も広く存在しておりますが、特に、御布呂遺跡や芦田貝戸遺跡など、整然と区画された古墳時代水田が著名です。

このように、高崎市とその周辺地域は、個々の遺跡の重要さとともに、総合的に古墳時代を復原する上で様々な情報を持った場所と考えられます。

こうした高崎市にも、開発の波が強く押し寄せています。市民が物質的に豊かな生活をおくるために、各種の開発は必要なことですが、文化財もまた、市民が心豊かな生活を送る為に必要不可欠なものであると考えます。開発行為に伴って壊される文化財をどのように保護し、また利用していくか、今後も市民とともに真剣に考え、解決していかなければならない重要課題のひとつであります。

さて、今回ここに報告いたしますのは、群馬県企業局による情報団地造成にかかわる埋蔵文化財の発掘調査成果のうち、古墳時代を中心とした弥生時代～中世の部分であります。3年間にわたる発掘調査の結果、縄文・弥生・古墳時代の住居跡や土坑、500軒あまりの住居跡を調査いたしました。前回の高崎情報団地遺跡の調査では、帆立貝形古墳を中心とする古墳群が発見されていましたが、今回、調査した地区は、こうした古墳群を築いた人々のムラが古墳群に隣接してあったことを確認することができました。さらに、古代・中世・近世の遺構・遺物も発見されています。さまざまな制約もあり、今回、必ずしも発掘調査成果の全てを紹介できるわけではありませんが、本報告書が地域史解明に少しでも役立つことができれば幸いです。

最後になりますが、長期間の発掘調査及び整理作業の期間中、御協力・御指導下さった関係諸機関の方々に深く御礼申し上げるとともに、発掘および整理作業にあたった方々の労をねぎらい、ご挨拶と致します。

平成14年3月

高崎市教育委員会

教育長 砂 田 威 夫

例言

1. 本書は、高崎情報団地造成に伴う事前調査として、群馬県高崎市教育委員会が群馬県企業局から委託を受けて実施した埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2. 今回の調査対象の西に接する地点で、高崎情報団地造成に伴う発掘調査を行っており、高崎情報団地遺跡と名づけられている。本書で扱う遺跡は、この遺跡の東に連続し、かつ遺跡としても一連であるため名称は高崎情報団地Ⅱ遺跡とした。遺跡の所在地は、群馬県高崎市中大類町2～327番地である。
3. 本書は全3分冊のうちの『弥生・古墳・古代・中世編』で、弥生時代以降の調査結果を掲載している。なお、本書に掲載した遺構・遺物についての基礎データ、写真等は、第1分冊に添付したCD-ROM中に収録してある。
4. 高崎市教育委員会がおこなった調査は、以下の経過であった。

平成9年4月1日～10年3月31日（発掘調査）

事務局：野尻弘・神戸聖語・村井田雅明・倉澤かおる

調査担当：鷲谷亨信・角田真也

平成10年4月1日～11年3月31日（発掘調査）

事務局：野尻弘・神戸聖語・倉澤かおる

調査担当：関口修・村井田雅明・小林直人

平成11年4月1日～11年11月23日（発掘調査）

事務局：野尻弘・神戸聖語・斉藤寛方

調査担当：角田真也・小林直人・成田健太郎（臨時職員）

平成11年11月24日～12年3月31日（整理作業）

事務局：野尻弘・神戸聖語・倉澤かおる・斉藤寛方

整理担当：角田真也・成田健太郎（臨時職員）

平成12年4月1日～13年3月31日（整理作業）

事務局：野尻弘・神戸聖語・倉澤かおる・斉藤寛方

整理担当：関口修・小林直人

平成13年4月1日～14年3月15日（整理作業）

事務局：野尻弘・結城千尋・斉藤寛方・片平映里

整理担当：関口修・角田真也

5. 写真撮影は、調査・整理担当者及び担当者の指示のもと小池亨・中村貢がおこなった。

6. 出土資料の分析および同定を下記の方々及び機関に依頼した（敬称略）。

石材同定……………群馬地質研究会・飯島静男

テフラ及びプラントオパール分析……………(株)古環境研究所

土器・鉄器保存処理……………(有)武蔵野文化財修復研究所

土器実測……………(有)前橋文化財研究所・(株)シン技術コンサル

遺構測量……………(株)フジテクノ・計測写真工房・(有)コスモ

7. 調査面積

1区	2,056.6㎡	2区	4,646.6㎡	3区	1,783.7㎡	4区	259.9㎡	5区	708.4㎡
6区	7,051.2㎡	7区	3,002.6㎡	8区	177.7㎡	9区西	1,699.7㎡	9区東	2,435.6㎡
10区	1,251.8㎡	11区	696.5㎡	12区	1,064.4㎡	13区	870.5㎡	14区	889.3㎡
15区	197.5㎡	16区	3,395.8㎡	17区	1,333.3㎡	18区	6,829.6㎡	19区	1,226.4㎡
合計	41,577.1㎡								

8. 発掘調査から本書刊行まで、下記の方々の御指導・御助言をいただいた。（敬称略）

五十嵐信 鹿沼栄輔 金子利美 小池浩平 坂口一 坂爪久純 田口一郎 土屋喜英 外山政子 長井正欣

9. 本書の執筆は、関口修・小林直人がおこなった。執筆に当たっては小林直人・角田真也・成田健太郎が作成した基礎データを参考に行っている。本書の編集作業は関口が中心となっておこない、角田がこれを補佐した。

10. 本遺跡の出土遺物・写真・記録類等は高崎市教育委員会で保管している。

凡例

1. 遺構および遺構図の方位は国土座標第Ⅸ系における北である。
2. 本書では、遺構のうち全体近く判明したもの、出土土器の一括性が高いものなどを選択して掲載した。なお、住居一覧表・土坑一覧表・遺物観察表・遺構写真・遺物写真・自然科学分析調査報告書等については、CD-ROM中に掲載した。
3. 住居の図化は空中写真測量及び平板測量を基本とし、一部遣り方測量によった。計測値は、カマド1/10および1/40、住居1/20・1/40の原図から起こした数値である。
4. 住居の主軸は、カマドを設置している方向とした。カマドがない住居及び炉・カマドの不明の住居は長軸を主軸とした。
5. 壁高は、竪穴住居の調査時点の残存壁高である。
6. 遺構・遺物の規模は最大部分の実測値である。
7. 土坑は、長軸を主軸とした。
8. 発掘調査及び整理にあたっては遺構の簡略記号を使用した。

竪穴住居……………SI古墳・墳墓……………SZ

掘立柱建物・柵列……………SB井戸……………SE

溝・堀……………SD小型の柱穴・杭跡……………pit

土坑・土墳墓・大型の柱穴……………SK
- なお、便宜上、調査時のまま遺構番号を確定した場合は、報告書中でも簡略記号を用いた。整理段階で遺構を検討して、遺構を統合・再定義した場合は正式名称で呼称した。
9. 内面黒色処理土器は実測図右側に「黒」と表記した。
10. 内外面黒色処理土器は実測図左右に「黒」と表記した。
11. 灰釉陶器は実測図右側に「灰」と表記し、須恵器の自然釉は点描で表現した。
12. 内面赤彩土器は実測図右側に「赤」と表記した。
13. 内外面赤彩土器は実測図左右に「赤」と表記した。
14. ススの顕著に付着した部分は墨入れで表現した。
15. 本文中または一覧表中で、浅間山・榛名山を給源とする軽石・火山灰（テフラ）を記号で表現した場合がある。また、それぞれの降下年代は、次の年代観をとった。

浅間山給源A軽石	天明3年（1783年）	……………As-A
浅間山給源B軽石	天仁元年（1108年）	……………As-B
浅間山給源C軽石	3世紀後半	……………As-C
榛名山二ツ岳給源	6世紀初頭	……………Hr-FA
榛名山二ツ岳給源	6世紀中頃	……………Hr-FP

16. 遺構図中の土層堆積状況図（セクション図）の注記番号は、任意の番号であり、堆積順を示すものではない。
17. 煩雑さを避けるため、住居や溝・館・井戸など、各遺構の後に、跡・址という言葉はつけなかったが、すべて痕跡として残っている遺構であり、現に機能していたというわけではない。

目次

はじめに・例言・凡例・目次	
第Ⅰ章 調査の方法と経過	
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査の方法	1
第 3 節 調査経過（日誌抄）	2
第Ⅱ章 遺跡の環境と概要	
第 1 節 地理的環境	5
第 2 節 歴史的環境	5
第 3 節 遺跡の概要	8
第Ⅲ章 弥生時代の遺構と遺物	
第 1 節 竪穴住居	22
第 2 節 土坑	26
第 3 節 その他の出土遺物	26
第Ⅳ章 古墳時代の遺構と遺物	
第 1 節 竪穴住居	27
第 2 節 古墳	289
第 3 節 溝	310
第 4 節 掘立柱建物	314
第 5 節 土坑	317
第 6 節 遺構外・その他の遺構出土遺物	331
第Ⅴ章 奈良・平安時代の遺構と遺物	
第 1 節 竪穴住居	338
第 2 節 道路状遺構	342
第 3 節 溝	343
第 4 節 土坑	345
第 5 節 水田	346
第 6 節 遺構外・その他の遺構出土遺物	349
第Ⅵ章 中世前半の遺構と遺物	
第 1 節 館址、堀と溝	350
第 2 節 掘立柱建物	352
第 3 節 井戸	356
第 4 節 土坑・ピット	361
第Ⅶ章 中世後半の遺構と遺物	
第 1 節 溝	363
第 2 節 掘立柱建物	368
第 3 節 井戸	370
第 4 節 水田	372
第Ⅷ章 まとめ	
第 1 節 遺跡の概要	373
第 2 節 古墳時代集落の特徴	373
第 3 節 集落と古墳、水路	376

抄 録

第Ⅰ章 調査の方法と経過

第 1 節 調査に至る経緯

今回の調査対象地は、高崎市中大類町にあり、利根川の支流である井野川の右岸となる。対象地のすぐ北には、関越自動車道の高崎インターチェンジがあり、東京都心からはおよそ100kmである。情報通信網の急速な整備と関連し、情報関連工業団地造成のための条件が揃っていることから、群馬県企業局による情報団地造成が計画された。

今回の調査対象地のすぐ西では、平成4年から6年まで群馬県企業局による情報団地造成の事前発掘として、埋蔵文化財の発掘調査が行われた。その結果、帆立貝形古墳を中心とした大小の古墳群、同時代及びその前後の居住区の一部、東山道とみられる道路状遺構、平安末の水田跡などが発見された。

平成7年度、新たな情報団地造成計画書が群馬県企業局から高崎市に提出された。大量で貴重な遺構と遺物が発見された場所とは、道路を隔てた東となる。前回の高崎情報団地遺跡の調査結果では、古墳群とその居住区が東に延びる様相を呈しており、計画の場所にも遺跡が連続することは明白であった。

高崎市教育委員会は開発者である群馬県企業局と話し合いを重ねた。しかし、既に情報団地造成の計画は最終段階まで進んでおり、用地の買収もほぼ済んでいた。結局、高崎市教育委員会では、工事着手以前の遺跡発掘調査はやむなしとの結論に達し、本調査の前に遺跡の全体像をつかむための試掘調査が必要と回答した。

両者の合意のもと、試掘調査は平成8年5月7日から5月21日まで行われた。井野川右岸近くの微高地では古墳時代を中心とする大規模な集落を、微高地から低湿地に変換する地点では古墳の周堀と埴輪の出土を確認した。また、低地部分と井野川の河川敷の一部では、浅間B軽石（As-B）に覆われた水田跡の存在を確認した。

高崎市教育委員会では、こうした試掘調査の結果報告書を企業局に提出し、再度両者間の話し合いがもたれた。そして、高崎市教育委員会が発掘担当者に市職員を充て調査を行うことで合意し、最終的な発掘調査計画が決定した。

遺跡名称については、今回対象となった地点は、高崎市中大類町字御所ノ宮・字寺之浦・字北之西・字上川原にあり、高崎市教育委員会で、遺跡の名称を名付ける際、町名とその代表的な字名の組み合わせで呼ぶのを慣例としている。しかし、前回調査した遺跡は、中大類町字御所ノ宮・字稲荷、宿大類町字万相寺・字塚ノ越にあるものの、「高崎情報団地遺跡」という名称を使用しており、今回の地点についても、煩雑な町・字名を避け、「高崎情報団地Ⅱ遺跡」と呼ぶことにした。

第 2 節 調査の方法

開発の対象地は約4.5haと広範囲である。よって、平成8年5月7日から5月21日まで試掘調査を行い、遺跡の性格とその広がりを知るデータを得た。トレンチは総数66本、幅が狭く重機が入れない場所には、テストピットを6本入れた。試掘総面積は1,318㎡である。

北西部の井野川に近い地点では、竪穴住居とみられる遺構を確認した。竪穴住居は、数多くかなり重複している傾向が見受けられた。出土する土器は5世紀を中心とした前後の時期であった。

南西部では、1108年降下とされる浅間B軽石層下の水田土壌・水田面を確認した。水田遺構の存在は確実とみられた。

水田が確認された場所と居住区の間では、古墳の周堀とみられる溝を検出した。前回の調査（高崎情報団地遺跡）で古墳が検出された東の方向にあたる。

河川敷の部分では、西半分は砂礫層で遺構は確認出来なかったが、東半部のトレンチで軽石が堆積していた。そして、その下部には水田土壌とみられる粘質土があり、水田遺構の存在が予想された。

このように、試掘調査の結果、遺跡は開発対象地域のほとんどすべてに存在することがわかったため、本調査の対象は、開発予定面積の殆ど全てとなった。

本調査においては、遺構確認の効率化のため、浅間B軽石（As-B）層上面までバックホーで掘削した。As-Bの堆積がない場所では、As-B混入土を掘削し、その後中世～古代遺構の精査及び遺構の調査をした。また、古代～縄文時代遺構については、遺構面もしくは地山層である井野川泥流層上面までバックホーで掘削し、遺構確認のための精査をおこない、検出された遺構を調査した。この際、原則として竪穴住居は、土層堆積状況を2カ所以上記録し、土坑については、1カ所以上記録するようつとめた。

図面記録は、平面図は平板と空中撮影写真実測を併用し、カマド及び土器出土状態などは必要に応じて遣り方測量とした。遺構写真は、35mmカメラを用い、モノクロ及びカラーリバーサル写真を撮影した。空中写真撮影は業者に委託し、原則として中版カメラを用い、モノクロとカラーリバーサル写真を撮影した。

国土座標及びレベル基準錨は、測量業者に委託し、調査区内の道路上に打った。ここから光波トランシットを用いて、調査区の中に調査基準杭を落とし、平板による遺構平面測量には、こうした杭を基準点として用いた。遺物の出土地点は、当初平板実測とレベリングで押さえていたが、平成9年度の中途より、光波トランシットで平面位置及び標高記録を計測の上、手作業で遺物台帳に記録することとした。

第3節 調査経過（日誌抄）

1997年（平成9年）

4月18日（金）発掘器材搬入。

4月21日（月）1区 掘削開始。浅間B軽石（As-B）下水田を追う。

5月1日（木）1区 As-B下面精査終了、畦検出。

5月6日（火）2区 表土掘削・遺構確認作業開始。

5月13日（火）2区 縄文集石確認。

5月27日（月）2区 住居精査開始。

6月3日（火）2区 西側縄文遺物包含層、調査開始。

6月9日（月）2区 1号井戸調査。

6月18日（水）2区 1号住居（古墳中期）調査終了。

7月7日（月）2区 SK14・SK18（埋め甕）調査。

7月14日（月）2区 19号住居（古墳）・33号住居（縄文）調査。

7月31日（木）2区 49号住居から磨製石斧出土。

8月21日（木）2区 50号住居、袖先端に土師器の甕。

9月3日（水）2区 調査区が水没の日が続く。終日排水。

9月4日（木）2区 4号溝から台付甕出土。

10月8日（水）2区 縄文時代のヒスイ製大珠出土。

10月9日（木）2区 空中写真撮影。

10月16日（木）3区 掘削機による表土掘削開始。

10月27日（月）3区 土坑多数検出。

10月31日（金）3区 縄文時代彩色土器出土。

11月5日（水）4区 表土掘削。

11月6日（木）3区 土坑は袋状のものが多くことが判明。

11月11日（火）5区 As-B下水田検出。

12月4日（木）3区 土坑調査、写真撮影。

12月5日（金）5区 古墳の周堀拡張。

12月19日（金）6区 掘削とAs-B下水田検出作業。

1998年（平成10年）

1月6日（火）6区 As-B下水田検出作業終了。

2月4日（水）8区 調査。

2月5日（木）7区 表土掘削。

2月9日（月）7区 洪水層下水田検出作業。

3月6日（金）7区 As-B下水田検出作業。

3月17日（火）9区 中世遺構調査。

3月18日（水）6区 中世堀掘削。

4月7日（火）6区 作業継続。

4月8日（水）6区 2・3号古墳調査再開。

4月16日（木）6区 中世大型堀調査。

4月22日（水）10区 調査開始。

5月7日（木）10区 125号住居遺物多数。

5月21日（木）11区 134号住居、覆土から滑石片。

5月27日（水）9区東 79溝（古墳後期）調査。

6月24日（水）12区 元寶通寶出土。

7月9日（木）9区西 116号住居よりハソウ出土。

7月15日（水）9区東 井戸調査。

8月10日（月）9区東 ピットより小型直刀出土。

8月18日（火）10区 79溝調査。

8月31日（月）11区 住居重複激しい。調査継続。

9月17日（木）12区 調査開始。

9月29日（火）13区 調査。

10月19日（月）13区 調査継続。

11月25日（水）14・15区表土掘削。

12月9日（水）14区調査継続。

1999年（平成11年）

1月5日（火）調査再開。

1月14日（木）14区 火葬跡調査。

1月21日（木）12区 調査継続。道路状遺構（推定東山道）調査。

2月16日（火）16区 遺構確認。

3月2日（火）12区 99溝（古墳前期）調査開始。

3月18日（木）16区 調査継続、重複激しい。

4月7日（水）調査再開。

4月14日（水）16区 古墳前期の住居検出。

5月7日（金）13区 縄文埋め甕検出。

5月10日（月）16区 99溝調査、土器大量出土。

5月25日（火）16区 中世溝（SD90）調査。

6月3日（木）17区 古墳周堀確認。（6区3号墳北）

7月8日（木）16区 90号住居付近プラン確認。

7月30日（金）18区 1号墳調査。

8月9日（月）16区・18区調査継続。

9月3日（金）18区 中世建物跡、井戸調査。

9月9日（木）16区 99溝（古墳前期）調査。

9月14日（火）16区 調査継続。

10月7日（木）19区 遺構確認。

11月23日（火）発掘作業終了

11月24日（水）整理作業本格的に開始。

11月26日（金）遺物水洗い、注記、接合、図面整理。

12月10日（金）遺構カードづくり開始。

12月16日（木）遺物出土位置（ドット図）づくり開始。

2000年（平成12年）

1月21日（金）遺物実測図継続。

2月2日（水）遺構のデータを拾い出し。

3月16日（木）土器接合作業継続。

4月5日（水）遺物洗い、土器注記。図面整理再開。

5月11日（木）14区土器復元はじめる。

6月23日（金）2区土器実測、16区土器復元。

7月26日（水）1号古墳埴輪実測、16区土器接合。

9月4日（月）18区土器実測、9区西土器接合。

11月24日（金）11区土器実測、19区土器接合。

2001年（平成13年）

1月29日（月）13区土器実測、復元。

2月26日（月）19区土器実測、復元。

3月21日（水）16区土器実測、復元。

4月6日（金）16区土器実測、縄文石器抽出。

6月22日（金）土器（縄文）実測、レイアウト、土器復元。

7月12日（木）縄文土器実測、遺物トレース。

8月21日（火）遺物写真撮影開始。

10月17日（水）遺物観察表づくり、遺物トレース、土器実測。

11月20日（火）遺物観察表づくり、遺構・遺物トレース。

12月17日（月）遺構・遺物図版づくり。

第Ⅱ章 遺跡の環境と概要

第1節 地理的環境

本遺跡（高崎情報団地Ⅱ遺跡）は、高崎市街地から東へ約4 km、遺跡のすぐ北には井野川が東流する。井野川は、高崎市を北西から南東にかけて縦断し、その両脇には微高地が広がる。発掘対象地の北部分にあたる、9・10・11・12・16区はこの微高地にのる。それに対して、南の1・4・6区はやや低い。また、東端の7区は井野川右岸の旧河川敷にあたる部分である。標高は、北部の12区付近で82m前後であり、南及び東に向かって低くなる。

北側の井野川とは別に、南には一貫堀川と一貫堀放水路とがある。一貫堀放水路は、一貫堀川と井野川をつなぐ人工的な水路である。一方、遺跡地の南西で一貫堀放水路と分岐する一貫堀川は、現在の地形でも左右に河岸段丘の地形があり、また川が大きく蛇行する痕跡が明治時代の迅速図で確認できる。一貫堀川は自然河川とみられる。この川は、地域の灌漑用をはじめとし、古来より現代まで大きな役割を担ってきたと推定される。

第2節 歴史的環境

遺跡地周辺には、縄文時代から中近世まで数多くの遺跡がある。特に井野川沿いは集落・墳墓などの密集地帯であり、発掘調査された遺跡も多い。付近の遺跡は、おおむね井野川の北では後期旧石器時代末の前橋泥流堆積物、井野川の南では、その後の井野川泥流堆積物と呼ばれる火山性泥流堆積層を基盤としている。これら堆積物は数メートル堆積しているため、後期旧石器時代の遺跡は、本遺跡の周辺では発見されていない。

1．縄文時代

井野川左岸の元島名瓦井遺跡は、平安時代の水田遺構が調査された幾分低湿な土地である。水田跡を調査後、下部の状況を確認するためトレンチを設定した泥流層上部から、縄文時代草創期の有舌尖頭器が1点出土している。

前期は、宿大類山鳥・天神遺跡や宿大類村西遺跡、南大類稻荷遺跡、高崎情報団地遺跡などで土器が出土している。

中期の遺跡は、数量ともに多い。井野川右岸では、宿大類万相寺遺跡、高崎情報団地遺跡、宿大類天田遺跡、矢島町増殿遺跡、宿大類山鳥遺跡、南大類稻荷遺跡などがある。また、井野川左岸では、鈴ノ宮遺跡、元島名遺跡などが知られる。

後期は宿大類万相寺遺跡、矢島町増殿遺跡、鈴ノ宮遺跡、元島名遺跡などがある。宿大類万相寺遺跡では、後期の3軒の住居跡が発見されている。そのうちの1軒は、柄鏡形の敷石住居跡である。

2．弥生時代

弥生前期は、前期末の壺と甕の破片が一片ずつ高崎情報団地遺跡で出土している。しかし、明確な遺構は発見されていない。

弥生時代の遺構・遺物が多く発見されるようになるのは、中期後半の段階からである。本遺跡の西にある矢島竹ノ内遺跡では、この時期の壺棺が発見されている。また、鈴ノ宮遺跡では、中期末の方形周溝墓が検出されている。

後期になると遺跡地が増加する。宿大類万相寺遺跡、宿大類村西遺跡、高崎情報団地遺跡では住居跡が発見され、高崎情報団地遺跡と南大類村東遺跡、矢島竹ノ内遺跡では四隅の切れるタイプの方形周溝墓がみつまっている。また、鈴ノ宮遺跡でも弥生後期の方形周溝墓が調査されている。なお、この墓群は弥生後期から古墳前期まで継続している可能性がある。

3. 古墳時代

古墳時代前期の遺跡地は数多い。南大類稲荷遺跡では、土坑と溝が検出されている。鈴ノ宮遺跡では、住居跡が多数調査され、古墳前期の方形周溝墓が検出されている。元鳥名遺跡では、大型の古墳前期の前方後方形周溝墓が発見され、底部穿孔の赤色塗彩の壺が出土している。宿大類万相寺遺跡では、住居跡が調査されている。高崎情報団地遺跡では、古墳前期の住居跡とともに埋没土の中にAs-Cの堆積が確認される細長い溝があり、As-C降下以前の水路と理解される。溝中からは、多量の古式土師器が出土している。また、宿大類村西遺跡では、住居跡とともに方形周溝墓が発見されている。

中期は、西島相ノ沢遺跡で集落が調査され、初期須恵器や朝鮮三国系軟質土器の甑片が出土している。

後期の集落は柴崎Ⅴ遺跡で調査されている。また、掘立柱建物跡を主体とする集落が、南大類村東遺跡で発見されている。

元鳥名将軍塚は、4世紀前半築造の前方後方墳と知られている。周堀の調査で墳丘から転落した底部穿孔の装飾壺が出土している。5世紀後半から高崎情報団地遺跡で造墓活動が始まる。その中心は帆立貝形古墳である。また、柴崎吹手B・吹手西D遺跡では、6世紀中頃噴出の榛名山の角閃石安山岩（F P）を壁石とする諏訪山古墳が調査されている。

4. 奈良・平安時代

西島Ⅳ遺跡では、古墳時代の水田跡の上に掘られた南北走行の大溝から、9世紀後半頃の土器や木器とともに、木製祭祀具である斎串と人形が出土している。何らかの祭祀行為が考えられる。また、5号住居跡からは、密教仏具である三鈷杵の鑄造に関する轆の羽口と埴塙が、10世紀前半代の土器とともに発見されている。天田・川押遺跡の52号住居跡からは、10世紀後半代の羽釜とともに八稜鏡が、1号土壙墓からは、須恵器の壺を骨蔵器にした墓が発見されている。他に堅穴住居を中心とする集落の調査は、中大類金井遺跡、中大類金井分遺跡、高崎情報団地遺跡、宿大類万相寺遺跡、鈴ノ宮遺跡、元鳥名遺跡。掘立柱建物跡を中心とする集落の調査は、矢島町増殿遺跡などがある。

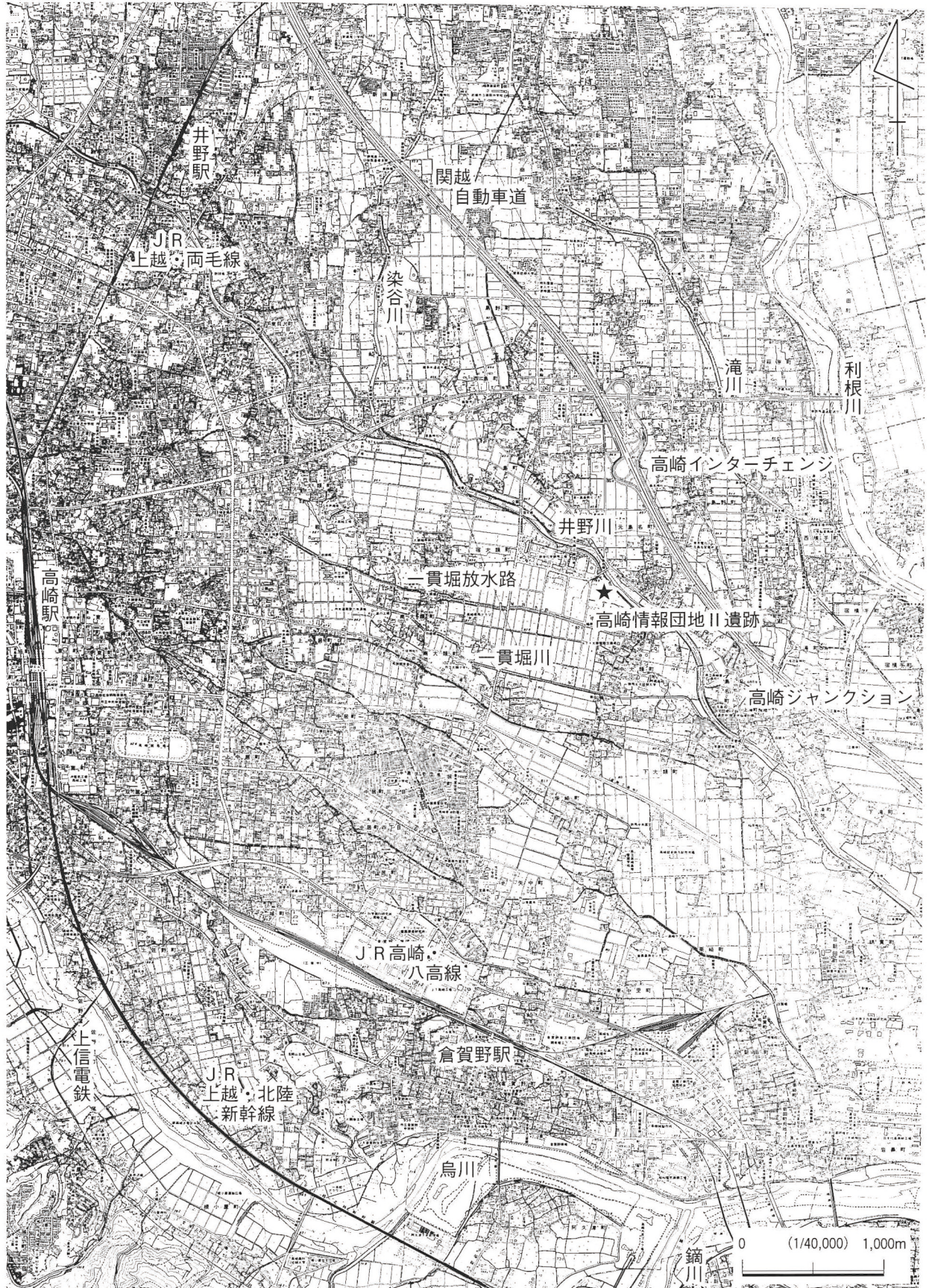
高崎情報団地遺跡では、路面幅約9mの東西に伸びる道路遺構が発見されている。両脇に側溝をもち新田町・境町・玉村町などで発見されている東山道駅路の「牛堀・矢ノ原ルート」に連なると考えられる。この道路遺構は、北溝が埋没した後に北溝を切る形で溝が掘られたが、その埋没土から世紀末から9世紀初頭に位置づけられる土器が出土している。よって、東山道駅路は7世紀後半から8世紀後半まで機能していたとされる。

新保八坂遺跡でも南北方向の両脇に側溝をもつ道路遺構が発見されている。廃棄は11世紀頃だが、道がつけられた時期については不明である。この遺構が発見された場所は、以前から指摘されていた国府道よりは東で、国府推定地からほぼ南の方向である。東山道駅路「牛堀・矢ノ原ルート」と国府の連絡路の可能性も考えられる。

付近には水田遺跡も多い。南大類東沖遺跡、南大類稲荷遺跡、宿大類天神久保遺跡、宿大類山鳥・天神遺跡等である。これらは、天仁元（1108）年の噴火と推定されている浅間B軽石に覆われた水田遺構である。そして、中大類沖田遺跡では、分水路とみられる溝群が確認されている。一方、南大類東沖遺跡では、浅間B軽石埋没水田の下部で平安時代初頭の洪水堆積物に埋没した水田跡が発見されている。

5. 中世

南大類村南遺跡では、中世の堀跡と井戸が、高崎情報団地遺跡では館址の一部が調査されている。井戸、土坑、堀切などが検出され、軟質陶器とともに滑石製鍋などの遺物が出土している。宿大類村西遺跡では、大類城の北半部が調査され、この城が複郭構造をとっていたことが確認された。宿大類村北館址では館址の大部分が調査され、その内部の様子が明らかになった。天田Ⅱ遺跡は館址の南部が調査され、館址内から建物跡などが発見されている。宿大類村西遺跡では、中世館址から銅鏡と平安期の小金銅像が出土している。



第1図 高崎情報団地Ⅱ遺跡位置図

第3節 遺跡の概要

1. 縄文時代

縄文時代の遺構は、対象地中央の、3区、3区拡張区に集中して存在する。谷地及び谷地の両端である。竪穴住居は総数で34軒、土坑はほかに2区、8区、16区、18区などにあるが合計128基、また、集石遺構、埋甕などを検出した。

土坑は3区と3区拡張区6区などで発見された。3区ならびに3区拡張区の土坑の中からは磨製石斧、小型土器、赤と黒の漆で彩色された浅鉢なども出土している。この場所が水に浸かった状態であったため、漆が残ったと考えられる。詳細は、第一分冊縄文時代編をご参照頂きたい。

2. 弥生時代

9区で3軒、10区で1軒、弥生時代の竪穴住居を検出した。9区の3軒のうち1軒は弥生中期末～後期初頭、ほかは弥生後期である。また、3区拡張区で土坑を1基検出した。

3. 古墳時代

古墳は4基検出した。5区1号墳、6区2号墳、6区3号墳、2区4号墳である。規模は直径20m程度であり、どの古墳も主体部は検出されなかった。築造時期は、5区1号墳が6世紀後半、6区2号墳は5世紀末、3号墳は6世紀初頭と考えられる。また、2区の4号墳は5世紀末と考えられる。

溝はいくつか検出された。99号溝と名付けられた古墳時代前期の溝は、発掘区の北西端から南東端まで続いており、大規模なものであった。詳細は第2分冊をご参照頂きたい。

古墳時代の住居は、古墳前期から後期まで460軒検出された。

4. 奈良・平安時代

奈良時代の住居は検出されなかった。16区40号土坑は8世紀の後半代である。平安時代の住居は5軒検出された。そのうち18区のものは平安時代でもかなり末で、粗雑なつくりで酸化焰焼成の羽釜と土釜を伴う。また、11世紀後半に位置づけられる口縁が玉縁の中国製白磁碗が17区の小穴から出土している。

12区で東西走行の道路状遺構が検出された。西隣の高崎情報団地遺跡で発見された道路状遺構は、「東山道駅路 牛堀・矢ノ原ルート」と考えられている。今回発見したもの、この東山道駅路の一部と推定される。

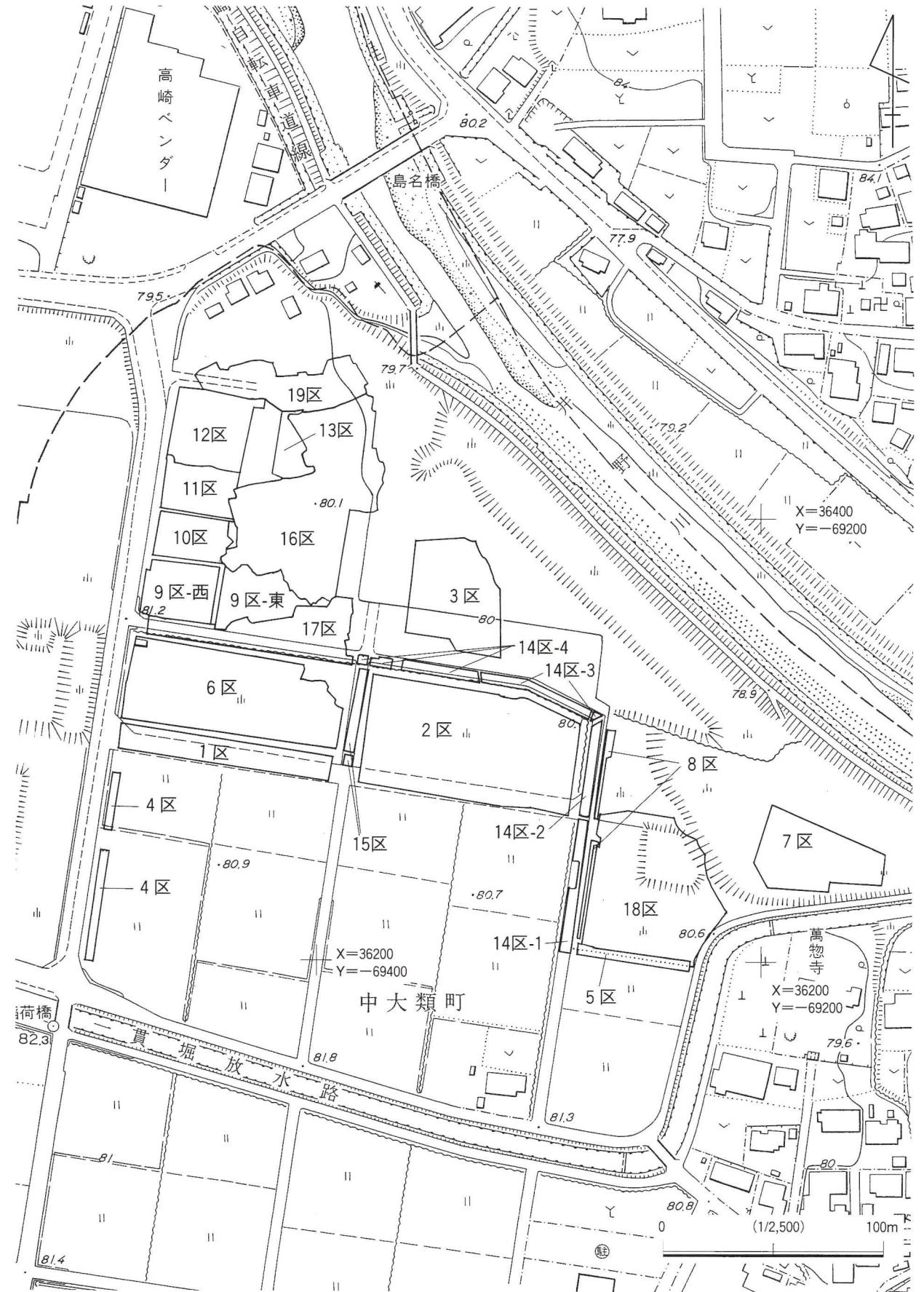
調査区南の低湿地と井野川の河川敷の一部で、As-Bに埋没した水田が検出された。浅間山の噴火は、『中右記』から天仁元年（1108年）とする説が有力であり平安時代末の水田と捉えたい。

5. 中・近世

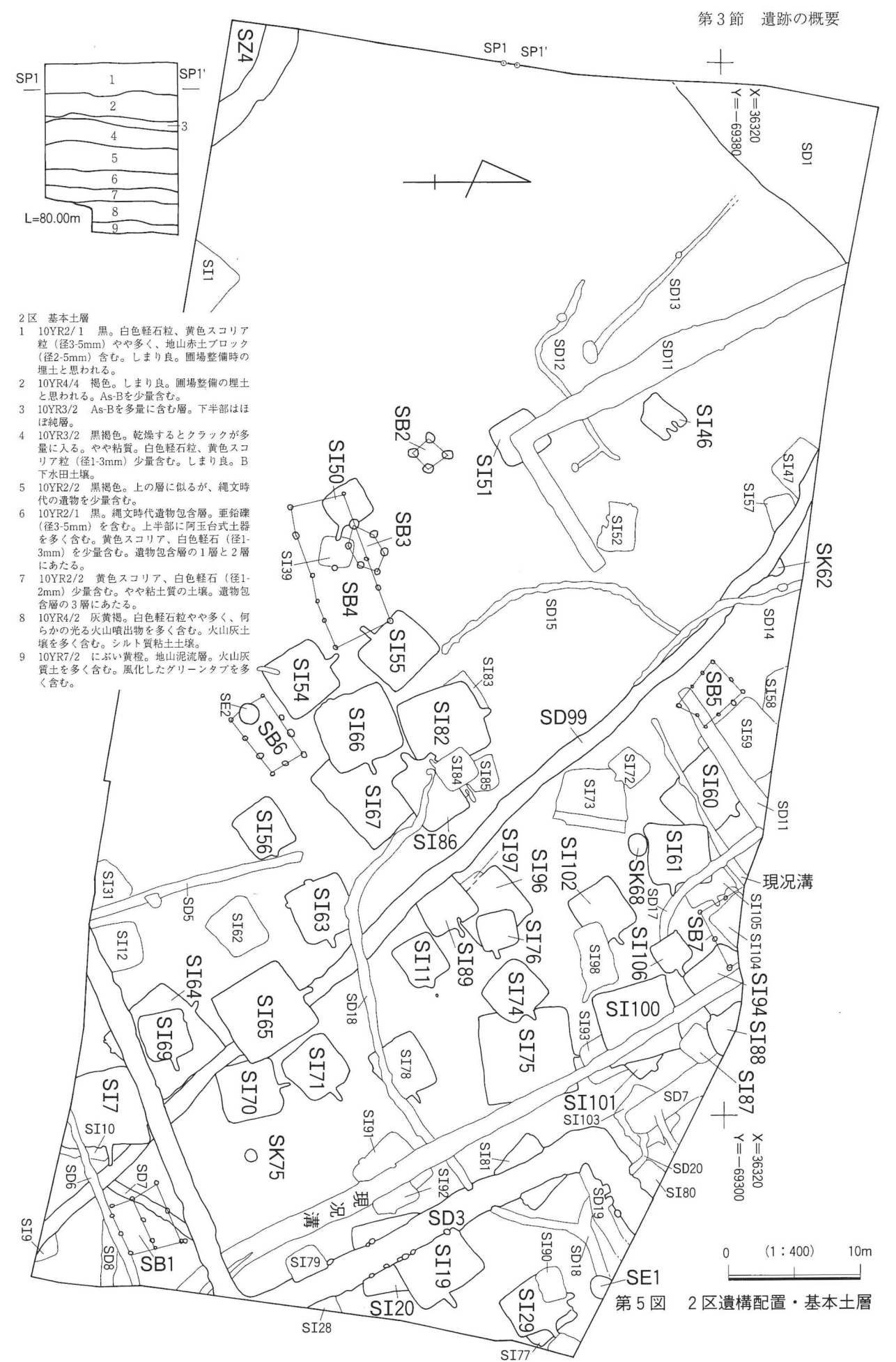
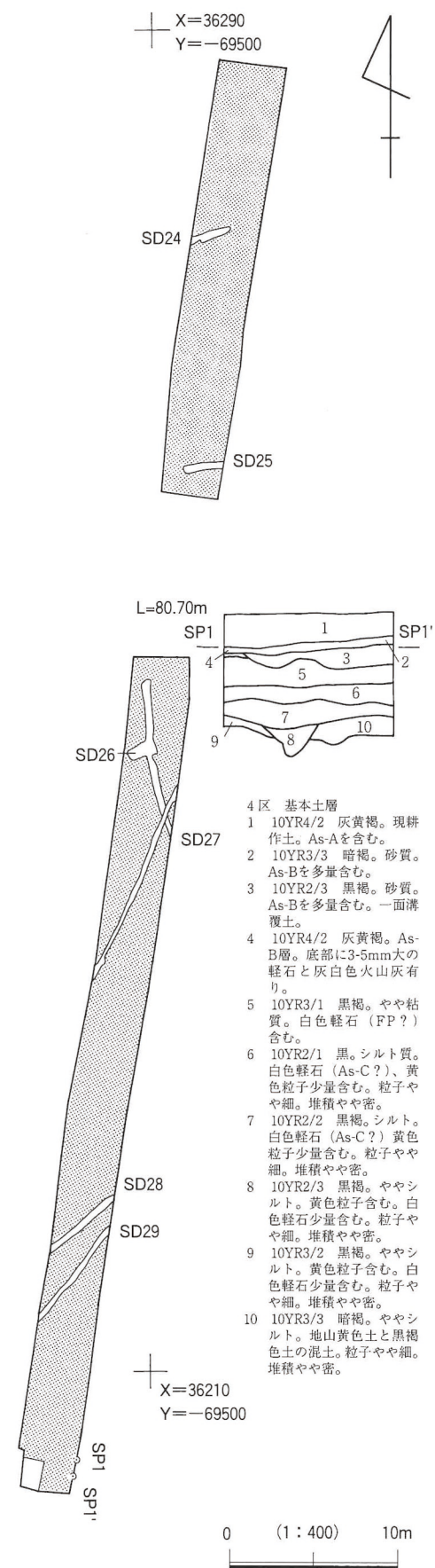
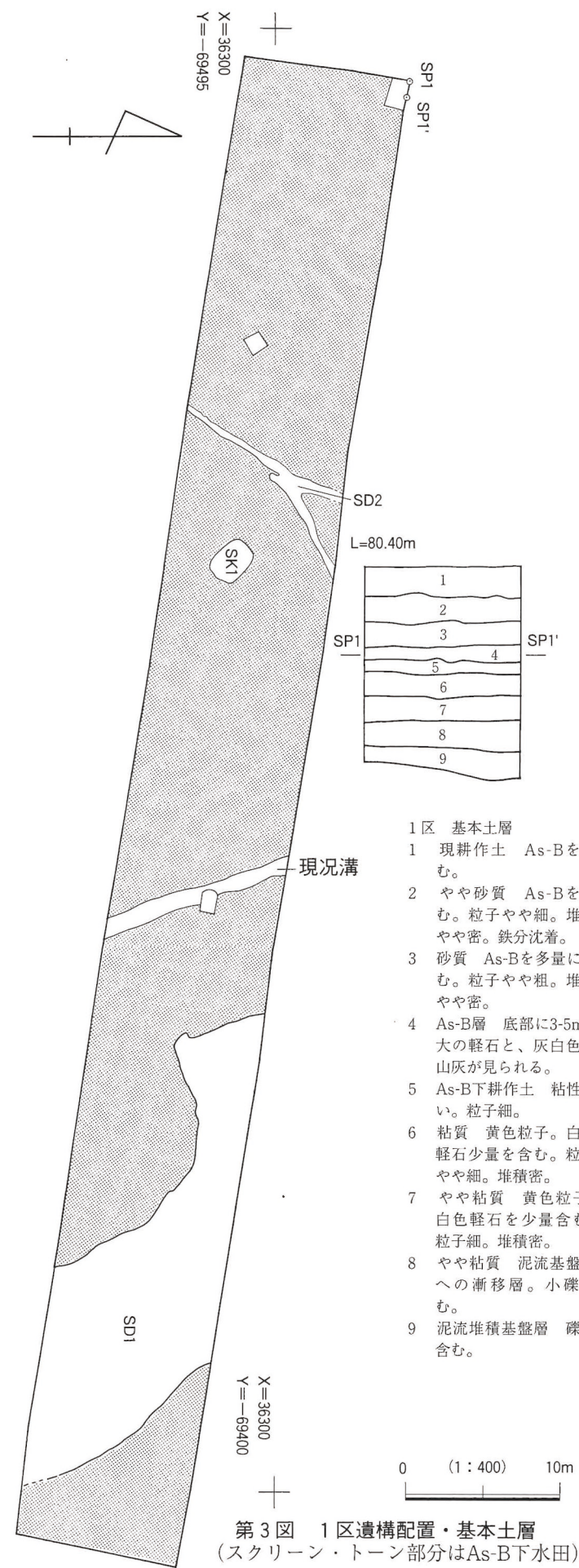
9・10・11・16区の微高地を長方形に区画する中世堀が検出された。堀中及び区画内部の土坑からは、13～14世紀の焼締陶器甕・東海系片口鉢や軟質陶器の鍋・鉢などが出土している。中世前半の館址と考えられる。

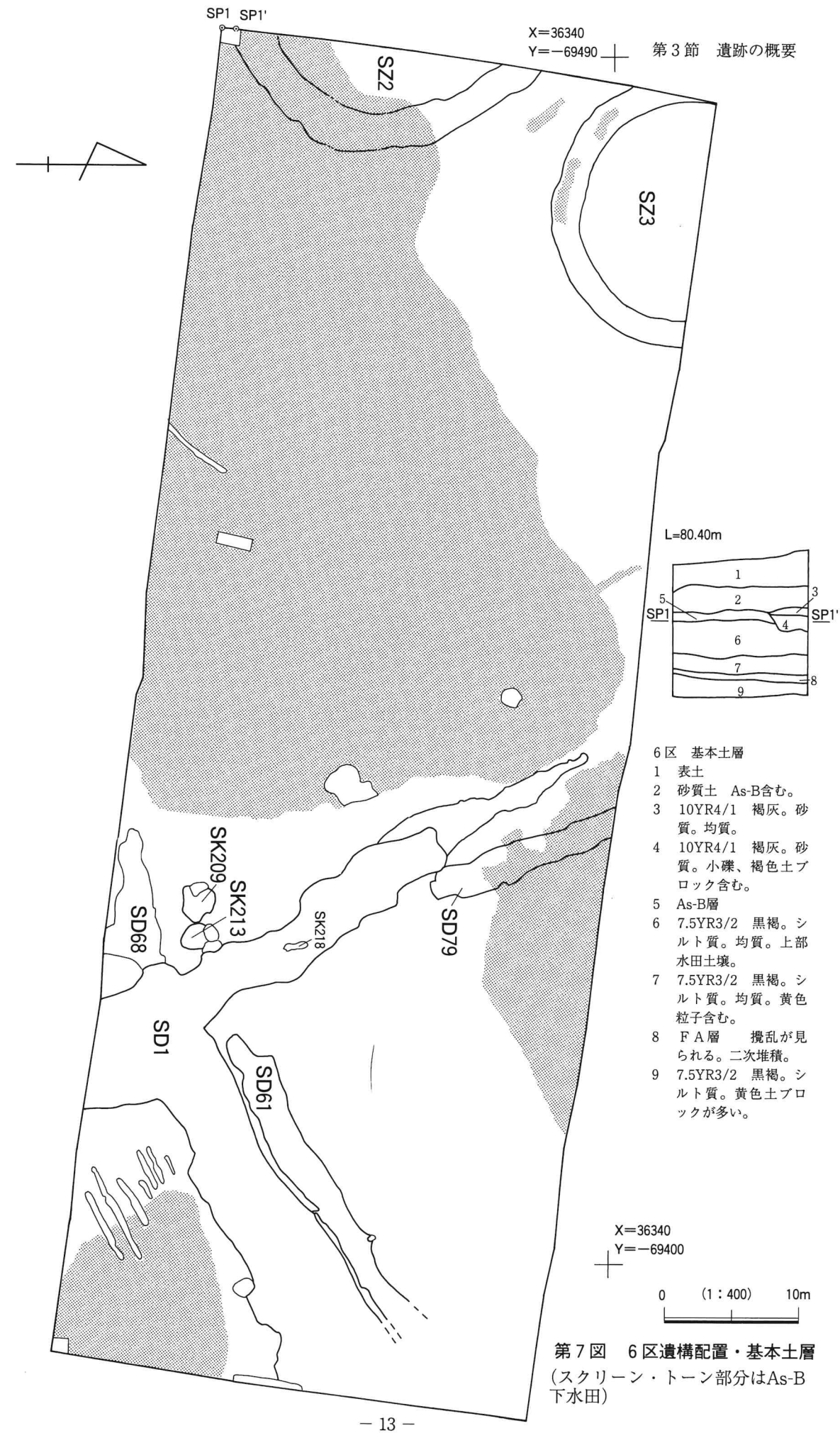
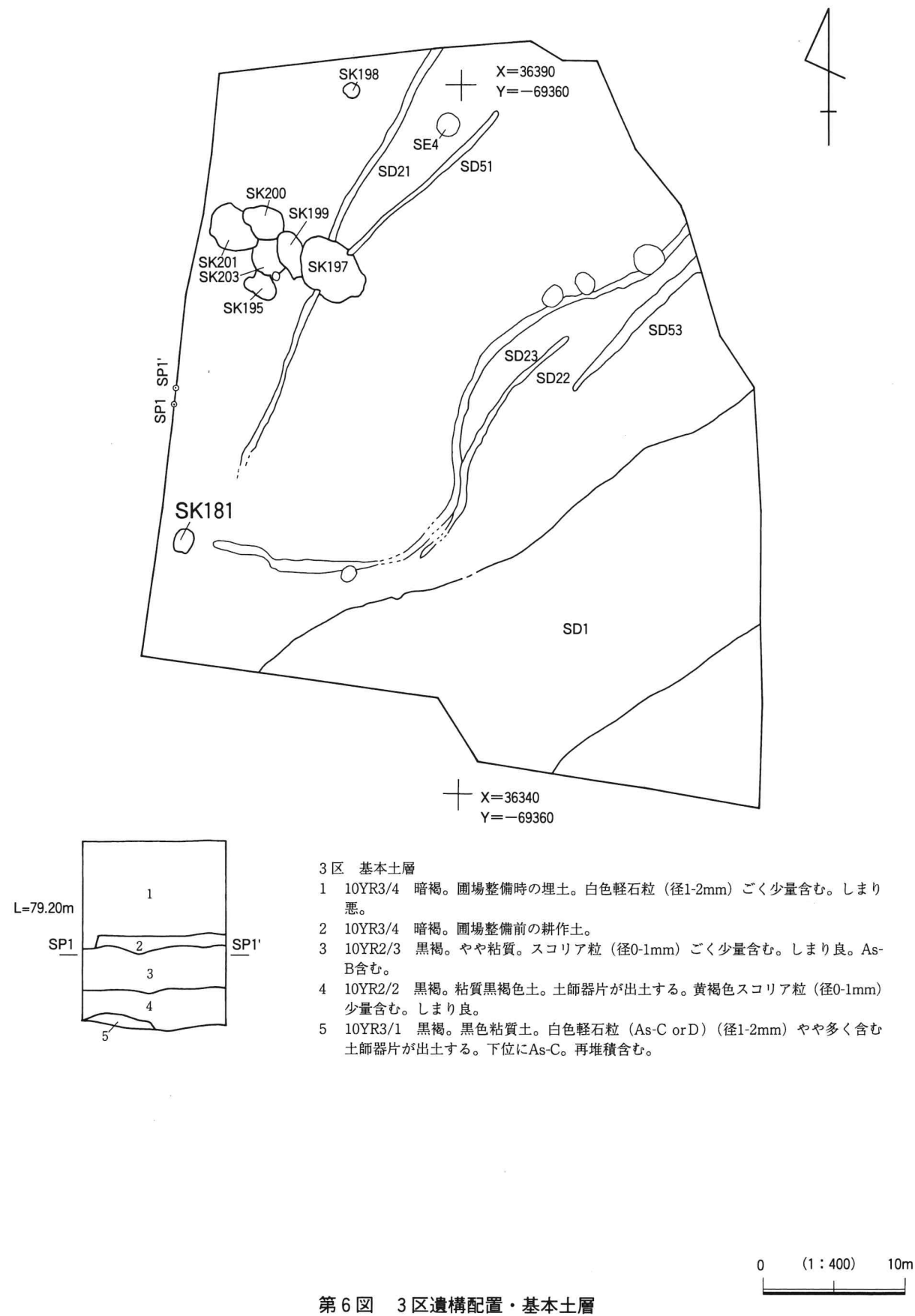
一方、6区及び2・3区、18区で大きく深い堀が発見された。これに囲まれる15～16世紀の館址と考えられる。他に、中世の遺構は、掘立柱建物、井戸、溝などが18区に集中してある。館址とは異なる中世の居住区と考えられる。

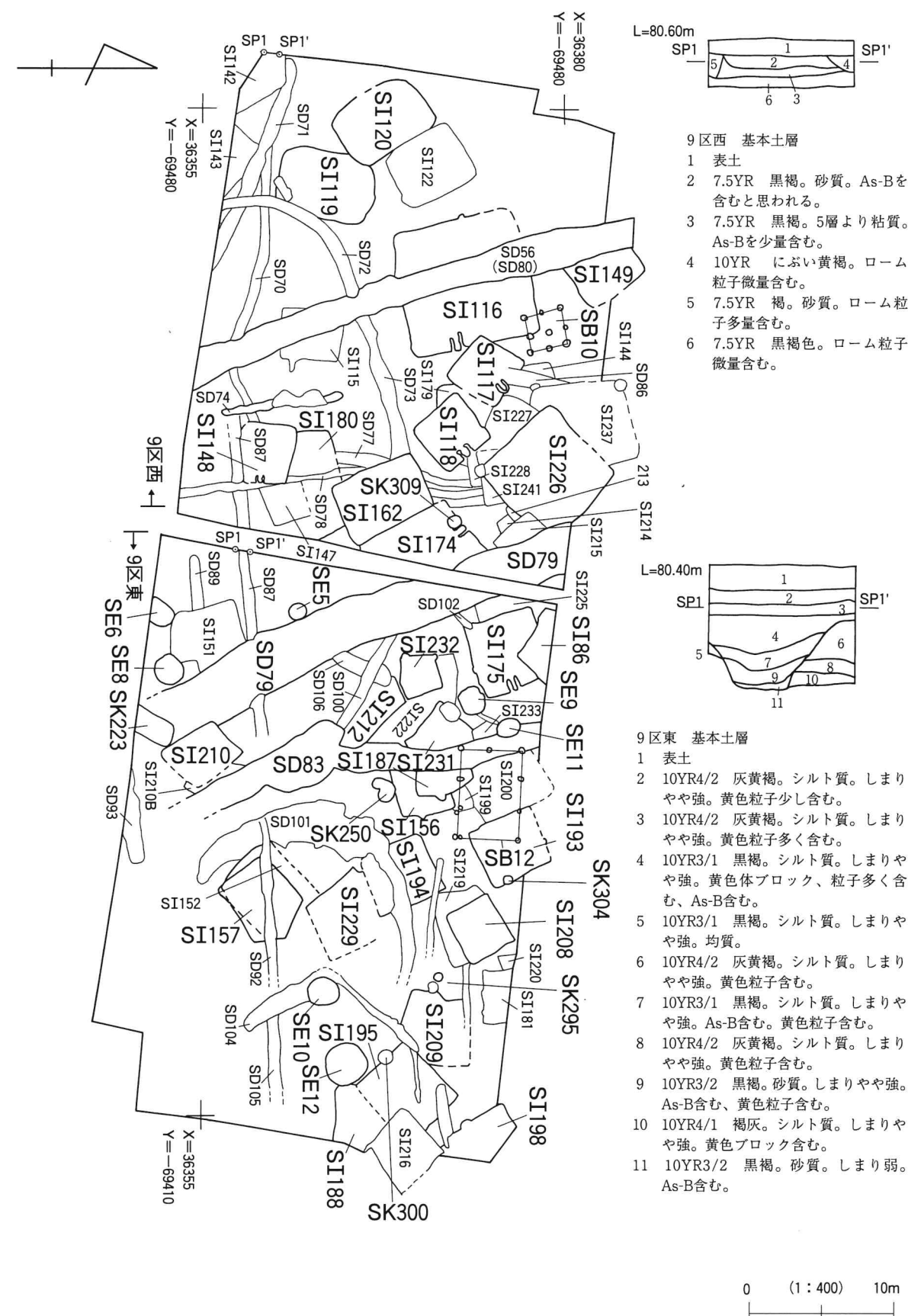
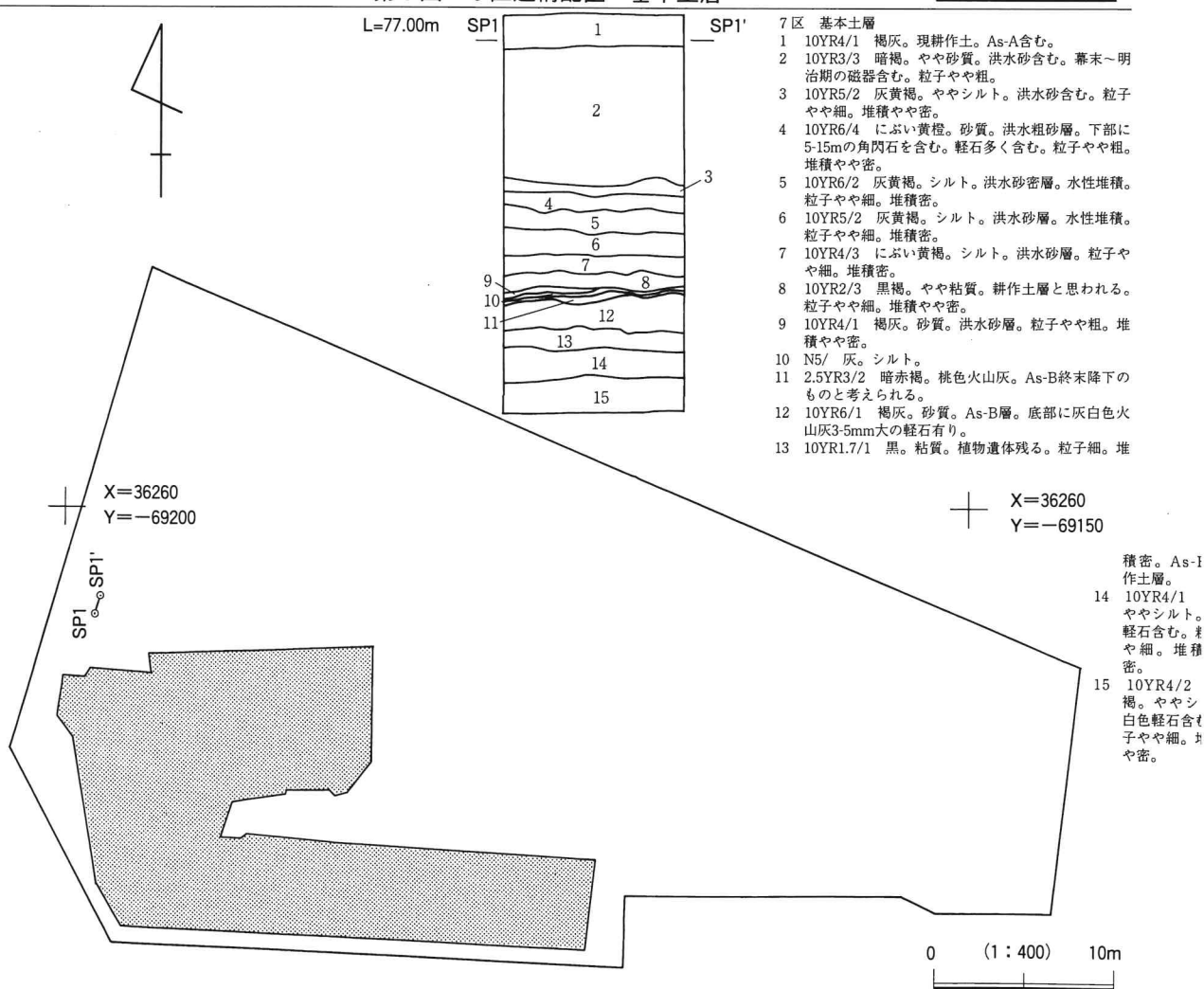
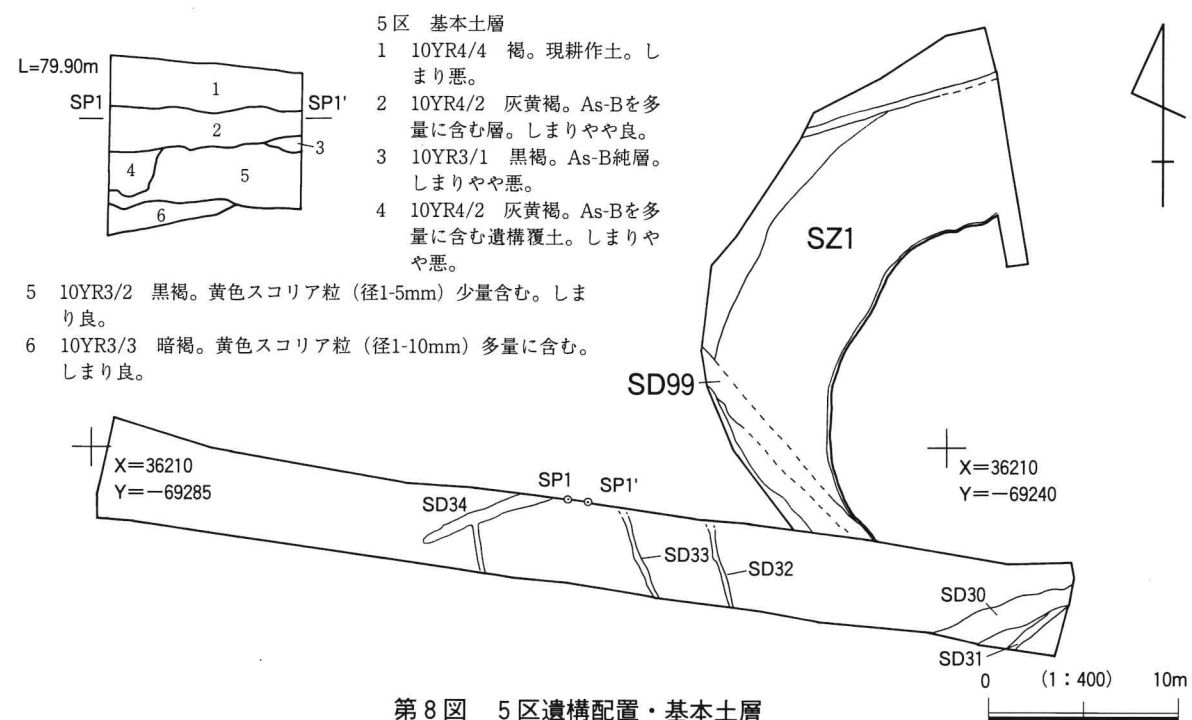
7区では、As-B下水田の上層で水田が検出された。As-B降下（1108年）より後の、洪水土に埋没した水田であると考えられ、中世水田の可能性が高い。

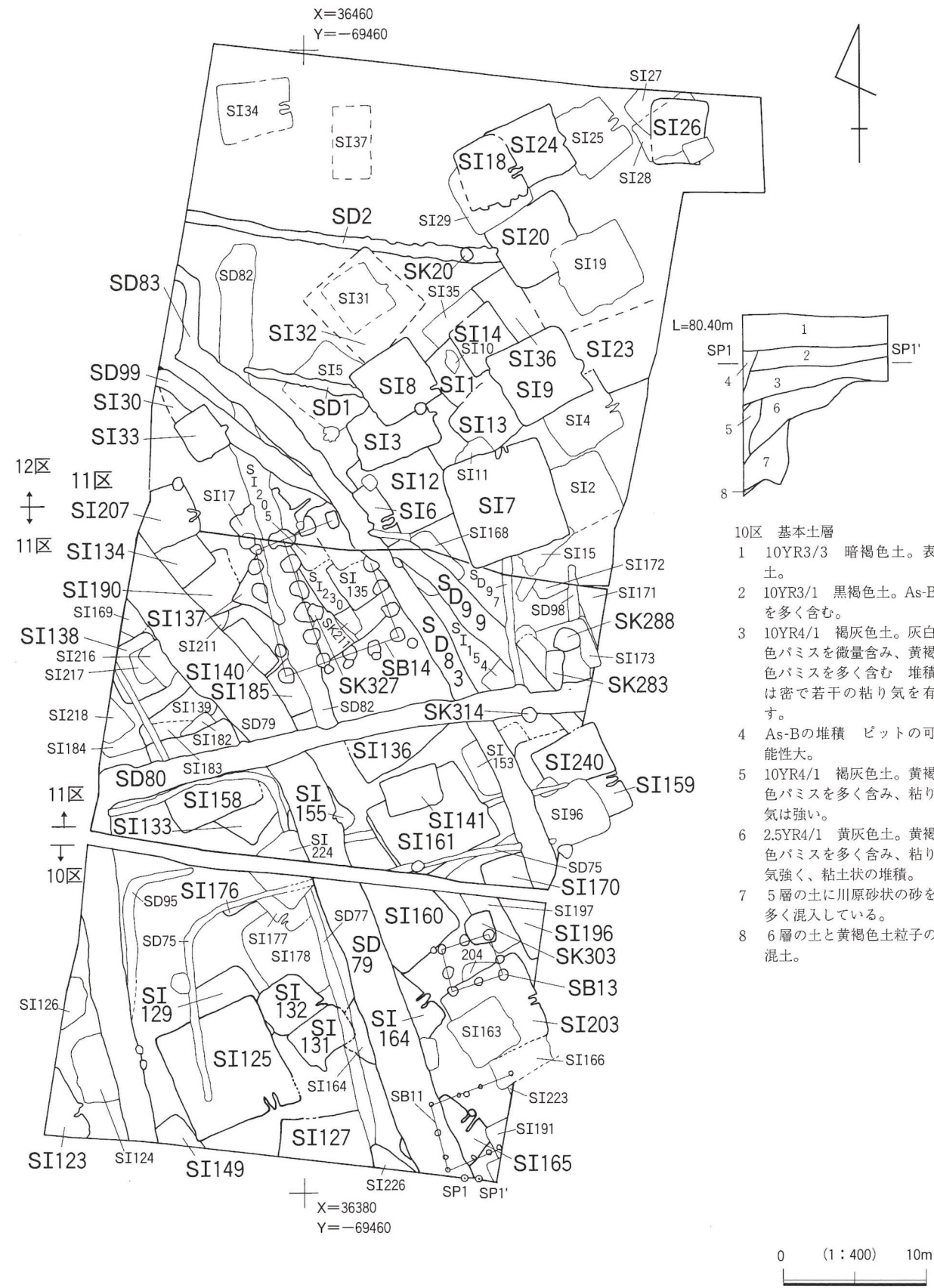


第2図 高崎情報団地Ⅱ遺跡発掘区配置図

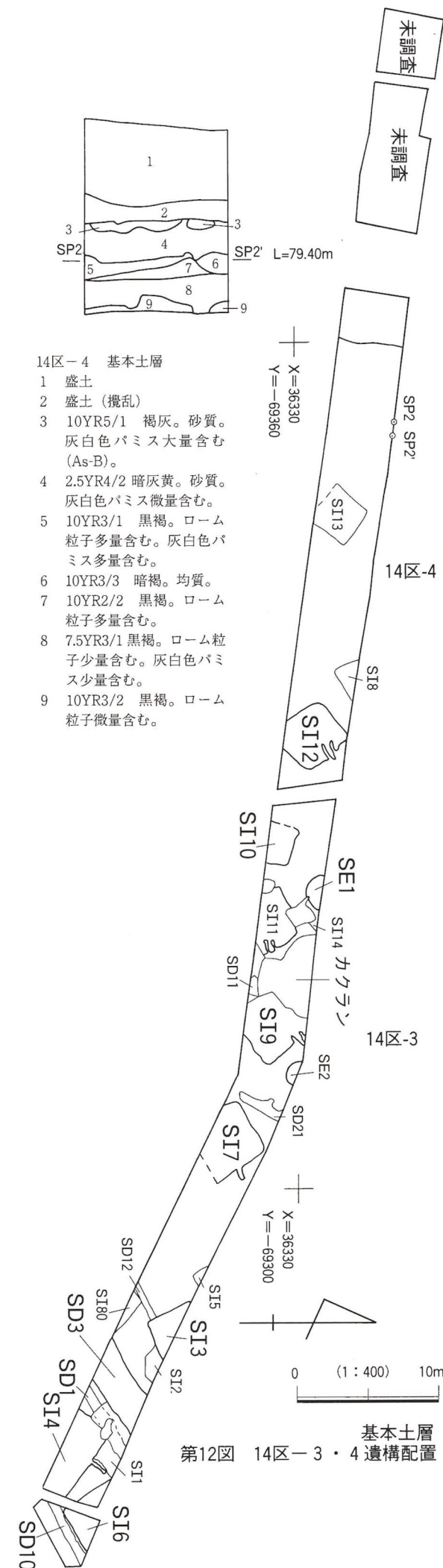








第11図 10区・11区・12区遺構配置・基本土層

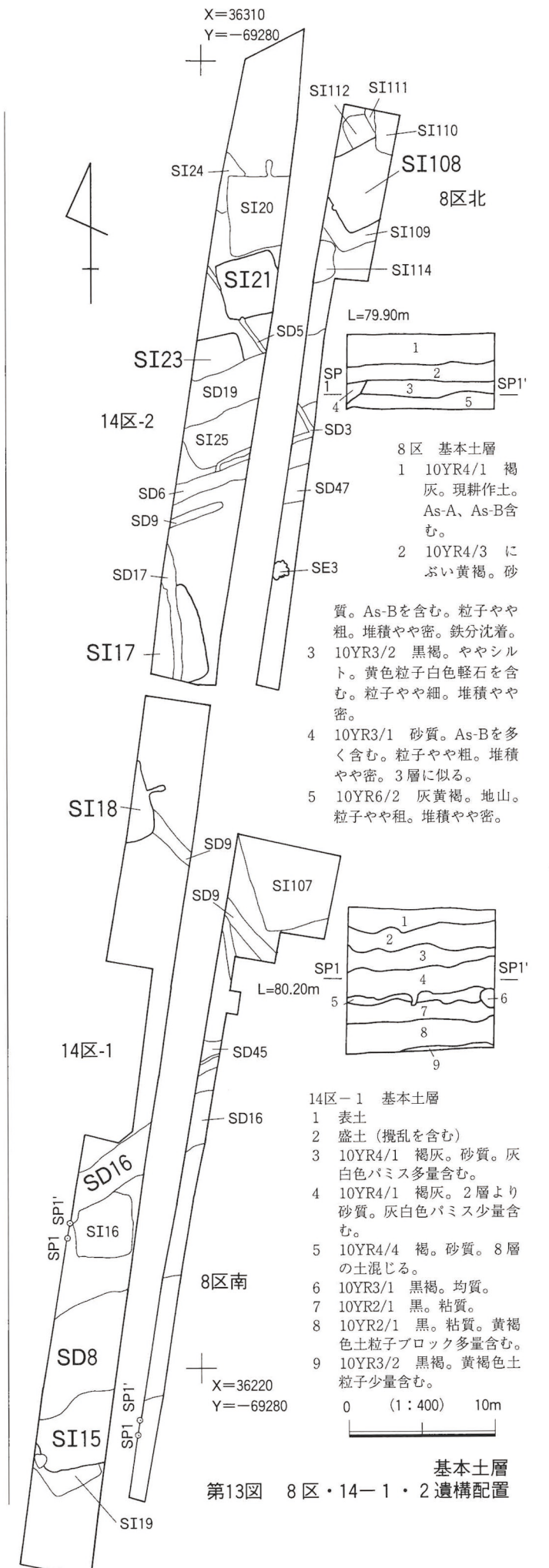


14区-4 基本土層

- 1 盛土
- 2 盛土 (攪乱)
- 3 10YR5/1 褐灰。砂質。灰白色パミス大量含む (As-B)。
- 4 2.5YR4/2 暗灰黄。砂質。灰白色パミス微量含む。
- 5 10YR3/1 黒褐。ローム粒子多量含む。灰白色パミス多量含む。
- 6 10YR3/3 暗褐。均質。
- 7 10YR2/2 黒褐。ローム粒子多量含む。
- 8 7.5YR3/1 黒褐。ローム粒子少量含む。灰白色パミス少量含む。
- 9 10YR3/2 黒褐。ローム粒子微量含む。

10区 基本土層

- 1 10YR3/3 暗褐色土。表土。
- 2 10YR3/1 黒褐色土。As-Bを多く含む。
- 3 10YR4/1 褐灰色土。灰白色パミスを微量含み、黄褐色パミスを多く含む。堆積は密で若干の粘り気を有す。
- 4 As-Bの堆積 ビットの可能性大。
- 5 10YR4/1 褐灰色土。黄褐色パミスを多く含み、粘り気は強い。
- 6 2.5YR4/1 黄灰色土。黄褐色パミスを多く含み、粘り気強く、粘土状の堆積。
- 7 5層の土に川原砂状の砂を多く混入している。
- 8 6層の土と黄褐色土粒子の混土。



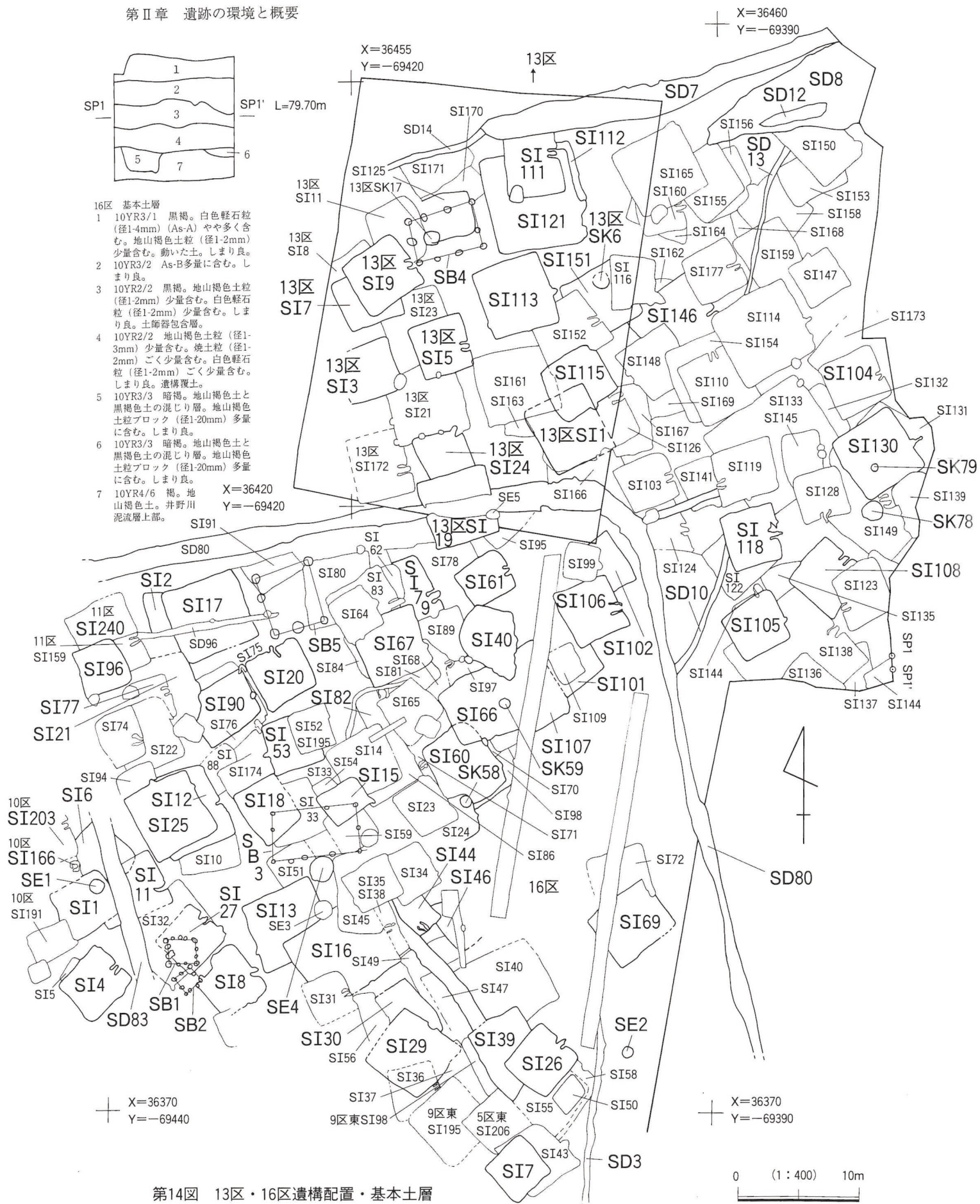
8区 基本土層

- 1 10YR4/1 褐灰。現耕作土。As-A、As-B含む。
- 2 10YR4/3 灰黄褐。砂質。As-Bを含む。粒子やや粗。堆積やや密。鉄分沈着。
- 3 10YR3/2 黒褐。ややシルト。黄色粒子白色軽石を含む。粒子やや細。堆積やや密。
- 4 10YR3/1 砂質。As-Bを多く含む。粒子やや粗。堆積やや密。3層に似る。
- 5 10YR6/2 灰黄褐。地山。粒子やや粗。堆積やや密。

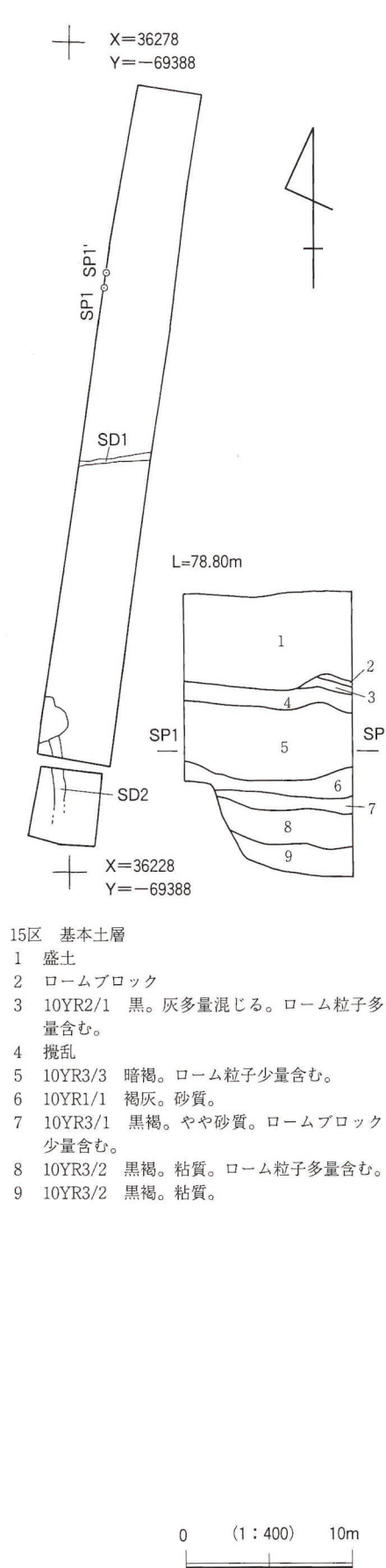
14区-1 基本土層

- 1 表土
- 2 盛土 (攪乱を含む)
- 3 10YR4/1 褐灰。砂質。灰白色パミス多量含む。
- 4 10YR4/1 褐灰。2層より砂質。灰白色パミス少量含む。
- 5 10YR4/4 褐。砂質。8層の土混じる。
- 6 10YR3/1 黒褐。均質。
- 7 10YR2/1 黒。粘質。
- 8 10YR2/1 黒。粘質。黄褐色土粒子ブロック多量含む。
- 9 10YR3/2 黒褐。黄褐色土粒子少量含む。

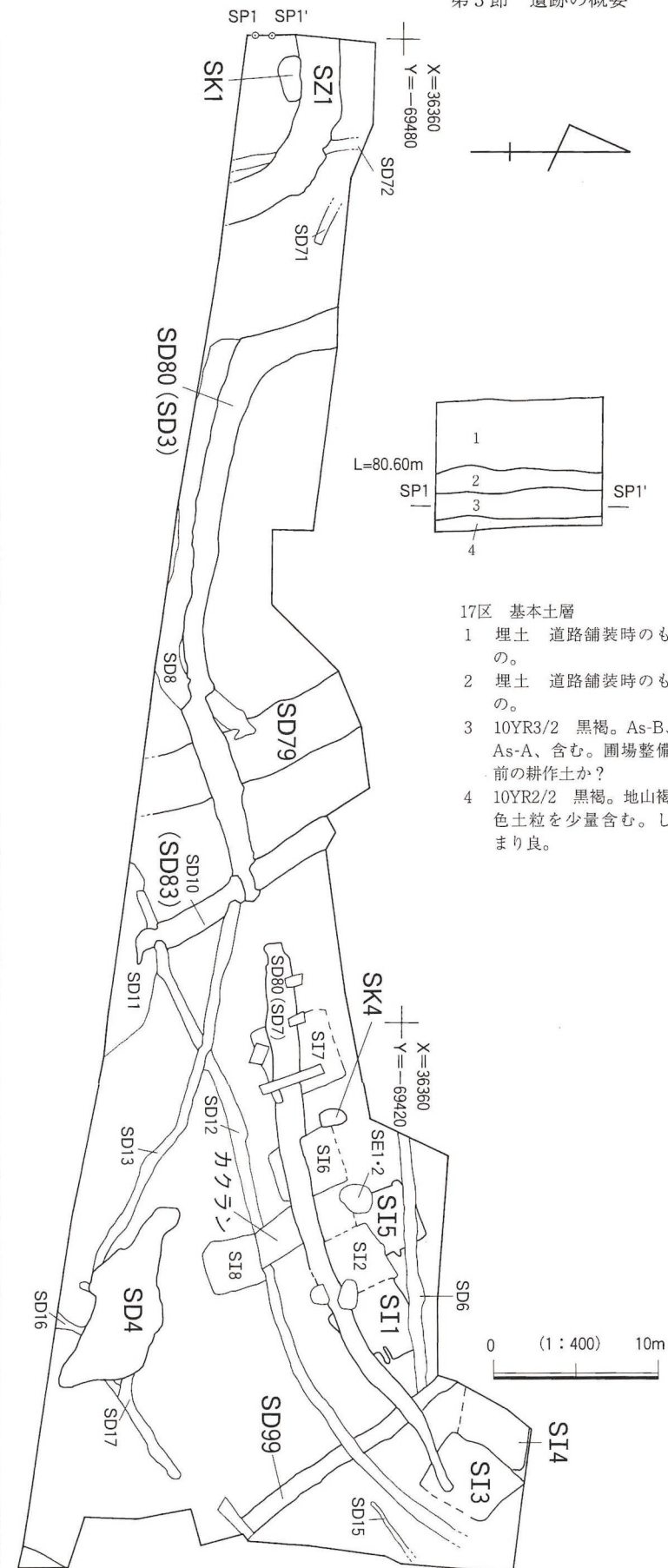
第Ⅱ章 遺跡の環境と概要



第3節 遺跡の概要



第15図 15区遺構配置・基本土層

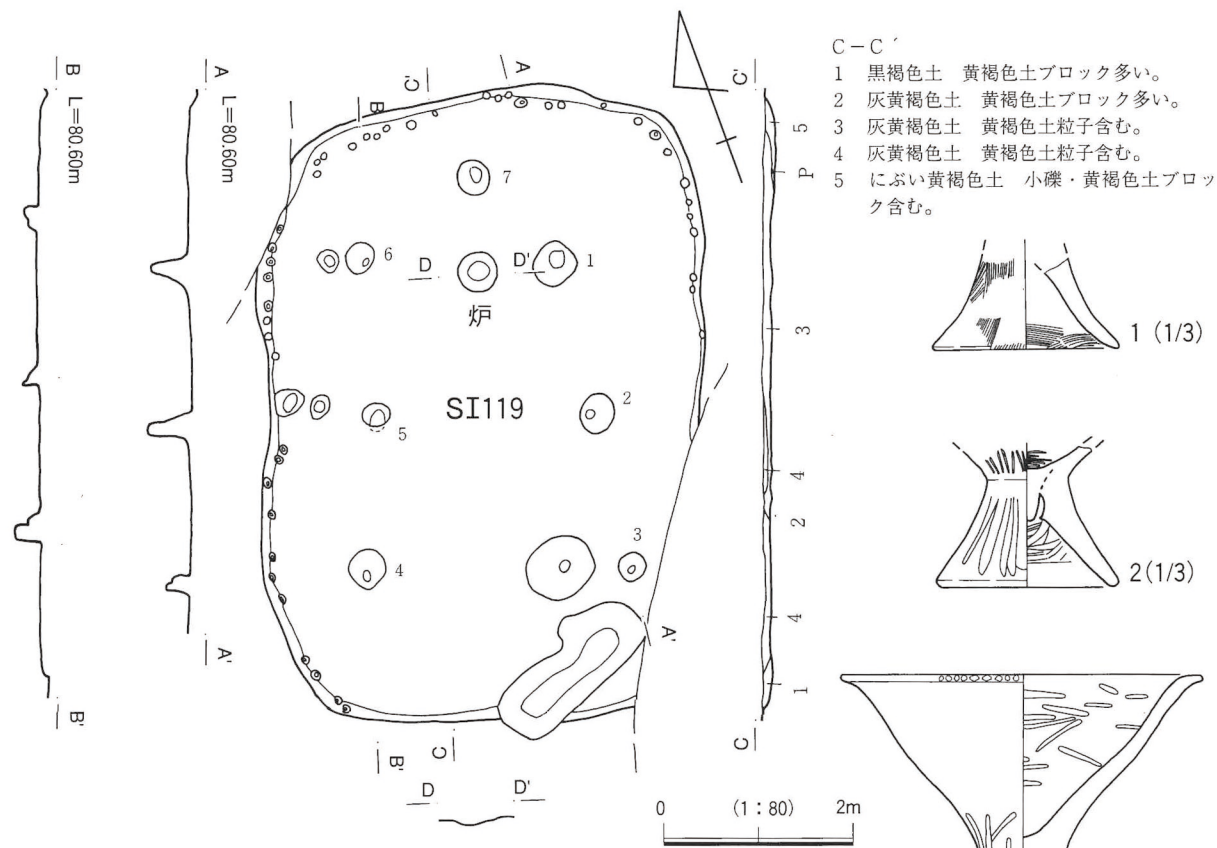


第Ⅲ章 弥生時代の遺構と遺物

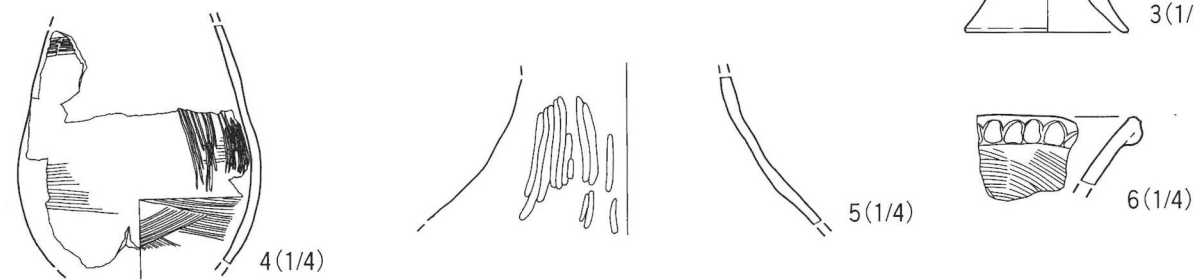
第1節 竪穴住居

9区西119号住居

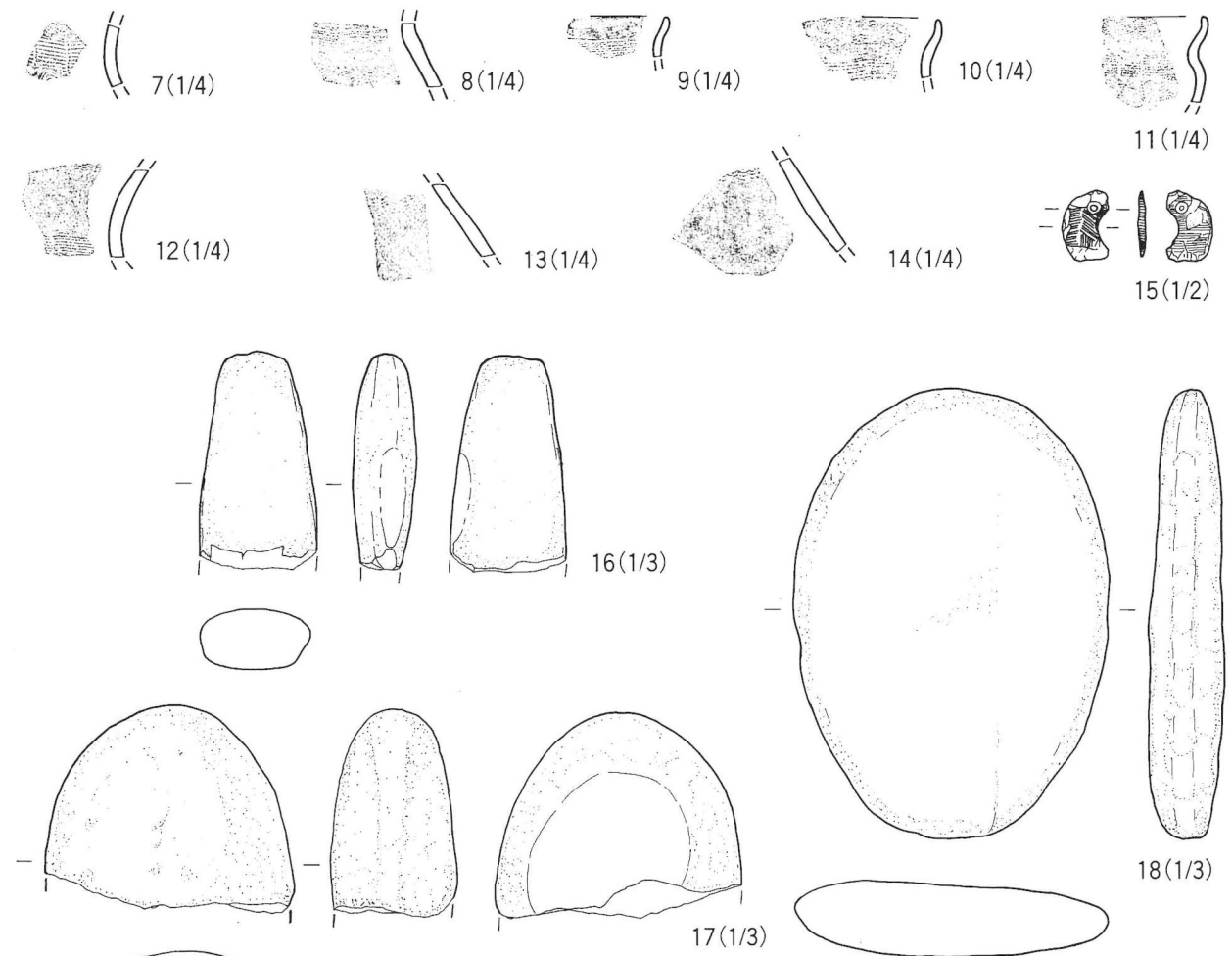
位置 9区西 規模形状 南北6.80m、東西4.60mの規模で、隅丸長方形プランを呈する。残存壁高は0.08mである。 主軸方位 北-13° -東 重複 120号住居を掘り込み、72号溝に壊される。 床面 やや凹凸はあるものの、ほぼ平坦である。 炉 柱穴1・柱穴6の間に位置する。規模は径0.42m、深さ0.05mである。あまり焼けていないが、底面から少量の焼土混じりの灰を検出した。 柱穴 7基検出している。 柱穴1 長軸0.48m短軸0.46m深さ0.40m 柱穴2 長軸0.45m短軸0.38m深さ0.47m 柱穴3 径0.30m深さ0.24m 柱穴4 径0.40m深さ0.27m 柱穴5 長軸0.30m短軸0.28m深さ0.19m 柱穴6 長軸0.34m短軸0.28m深さ0.21m 柱穴7 長軸0.38m短軸0.34m深さ0.31m その他付属施設 壁際から多数の小ピットを検出している。 遺物 樽式土器甕・壺・高坏、磨製石斧、磨石、石製勾玉 所見 弥生後期



第19図 9区西119号住居・炉



第20図 9区西119号住居出土遺物-1



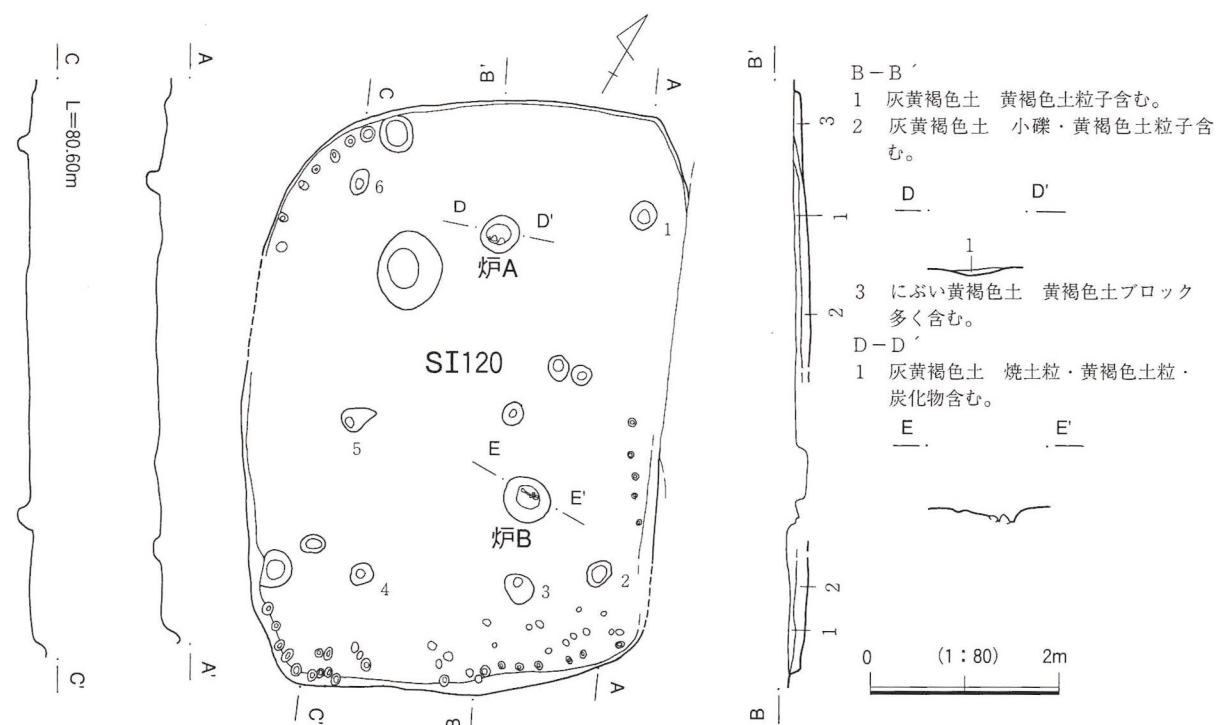
第21図 9区西119号住居出土遺物-2

9区西120号住居

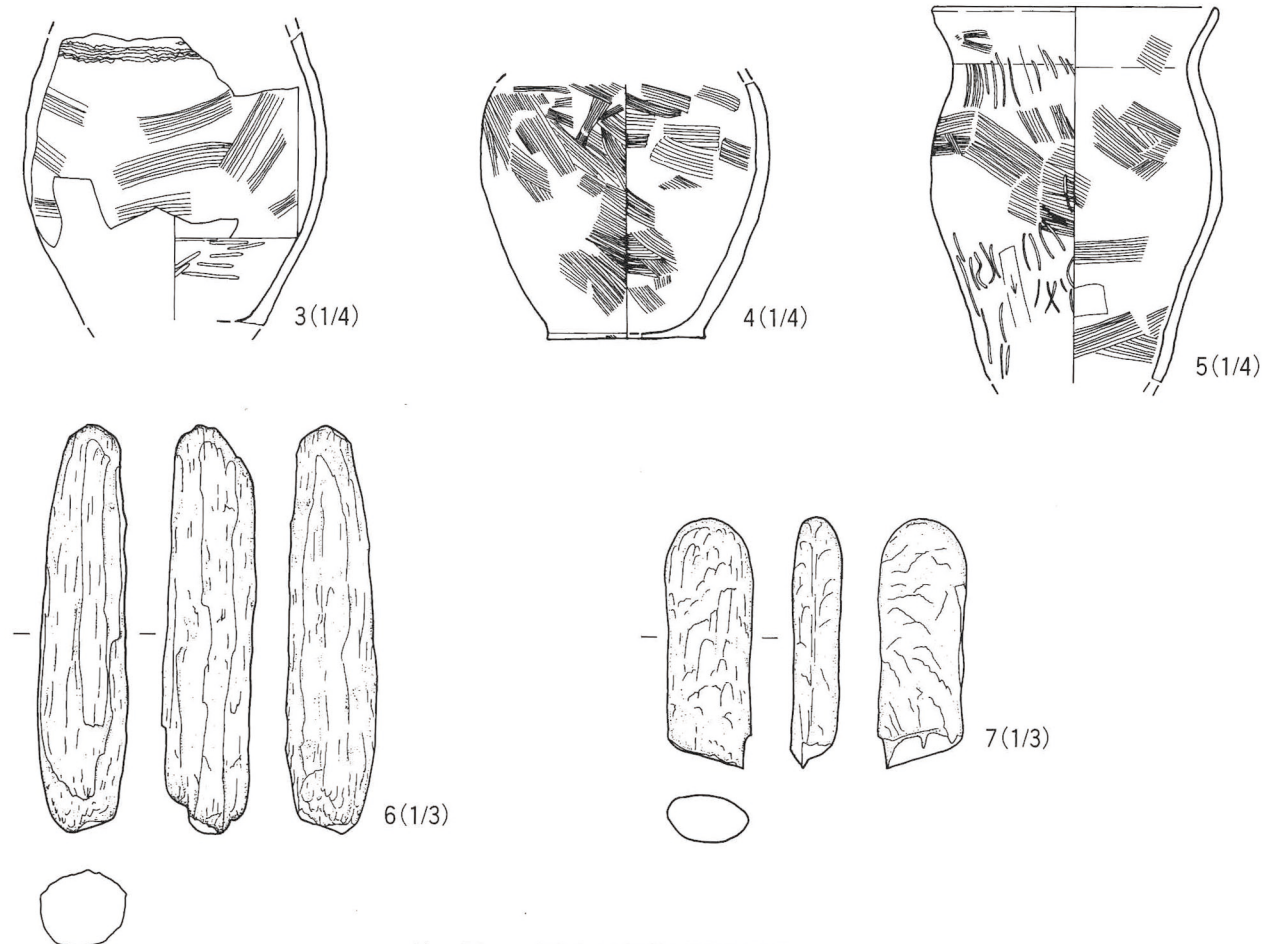
位置 9区西 規模形状 隅丸長方形を呈し、南北6.30m、東西4.40m、残存壁高0.15mを測る。 主軸方位 北-34° -西 重複 121号住居を掘り込む。119号・122号住居・73号溝に壊される。 床面 やや凹凸がある。 炉 2基検出した。炉Aは北側柱穴間中央よりやや南側に、炉Bは住居中央よりやや南東側に位置する。炉Aは長軸0.40m、短軸0.38m、深さ0.03mを測る。覆土からは焼土粒混じりの灰を検出したが、あまり焼けていない。 炉Bは長軸0.52m、短軸0.48m、深さ0.07mを測る。これも燃焼面はあまり焼けていない。底に礫が2点ある。 柱穴 主柱穴は6基、他に6基の柱穴がある。 柱穴1 長軸0.30m短軸0.28m深さ0.15m 柱穴2 長軸0.37m短軸0.22m深さ0.09m 柱穴3 長軸0.34m短軸0.28m深さ0.31m 柱穴4 径0.24m深さ0.26m 柱穴5 長軸0.40m短軸0.25m 柱穴6 長軸0.28m短軸0.18m深さ0.13m その他付属施設 壁際から多数の小ピットを検出している。特に南壁際から多く検出している。 遺物 甕・壺、棒状礫 所見 弥生中期末～後期初頭



第22図 9区西120号住居出土遺物-1



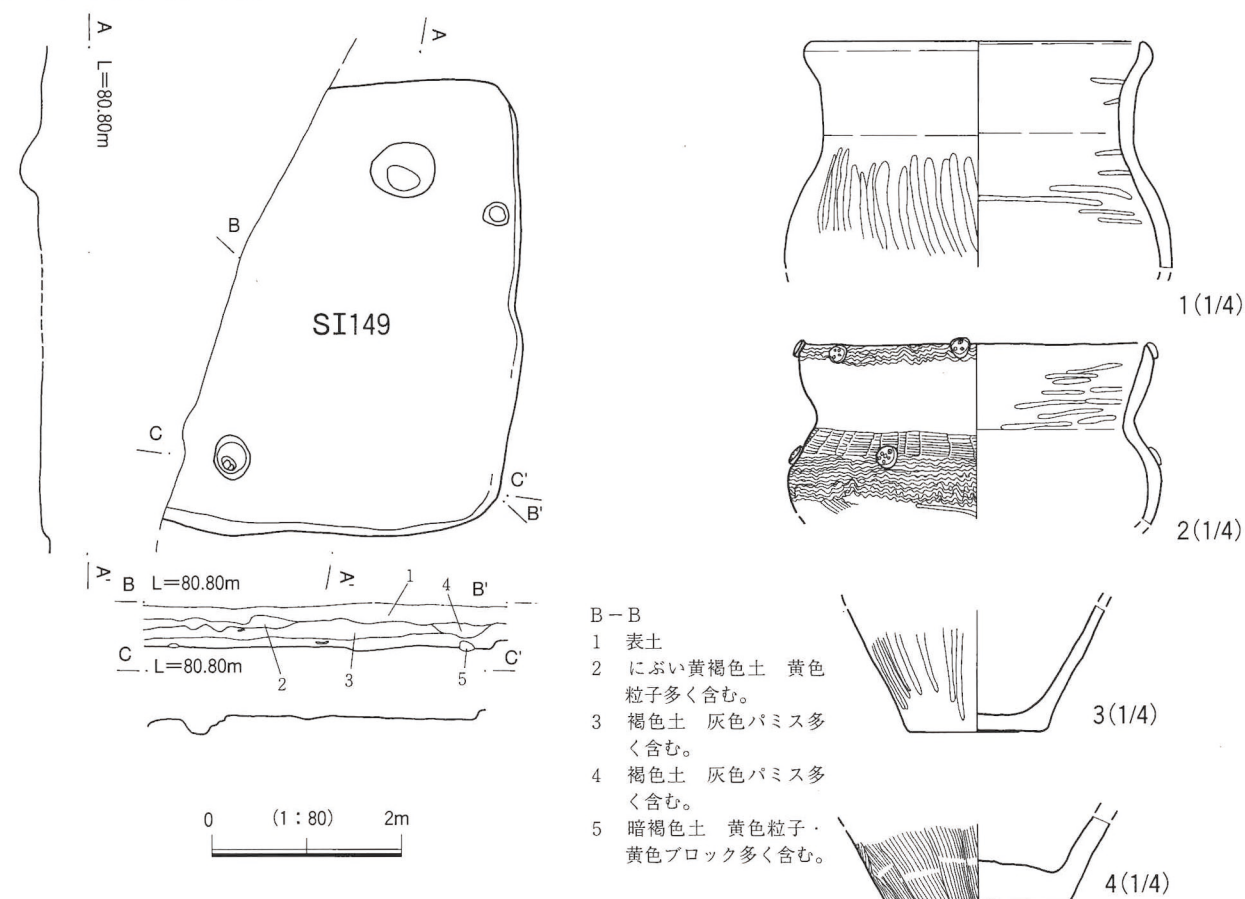
第23図 9区西120号住居・炉



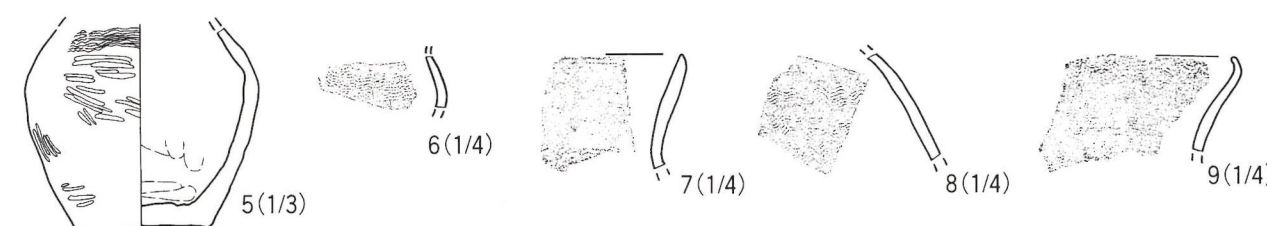
第24図 9区西120号住居出土遺物－2

9区西149号住居

位置 9区西 規模形状 56号溝に住居の大半を壊されていた。長辺4.70m、短辺3.40m + α 、残存壁高0.37mを測る。形状は隅丸方形を呈すると推定される。 主軸方位 北-26°-西 重複 56号溝に壊される。 床面 平坦面を形成している。 炉 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 樽式土器、甕・壺 所見 弥生後期



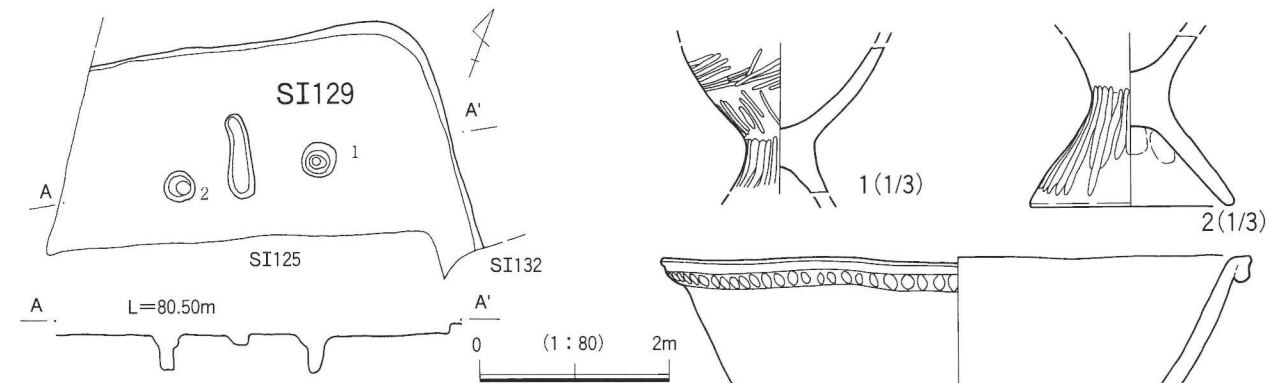
第25図 9区西149号住居



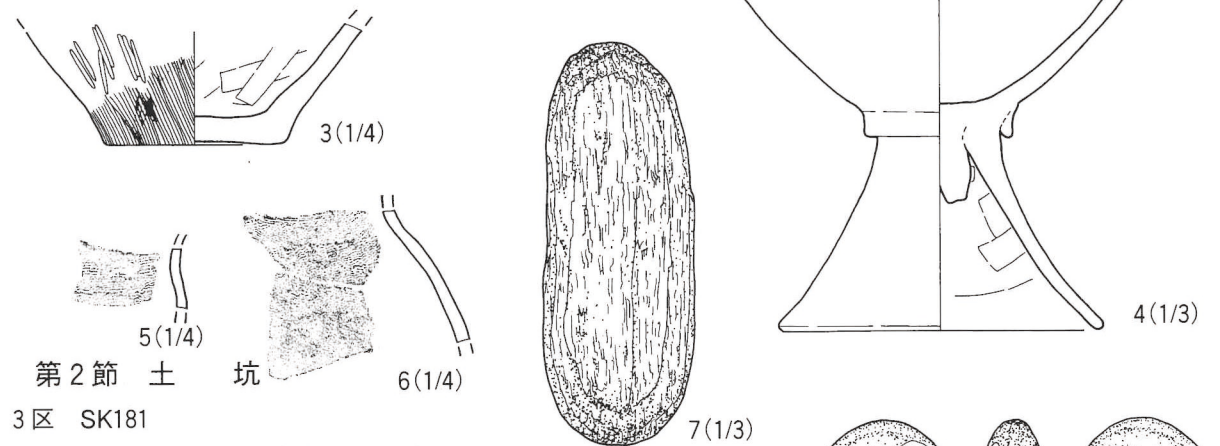
第26図 9区西149号住居出土遺物

10区129号住居

位置 10区 規模形状 重複が激しくかなりの部分が破壊されているが、長方形プランと推定される。東西4.45m + α 、南北2.70m + α 、残存壁高0.16mを測る。 主軸方位 東-30°-北 重複 125・132号住居、75号溝に壊される。 床面 ほぼ平坦であるが、やや凹凸がある。 炉 不明 柱穴 2基検出されている。 柱穴1 径0.34m深さ0.38m 柱穴2 径0.32m深さ0.34m その他付属施設 なし 遺物 樽式土器高坏・壺・甕、薦編石、磨石 所見 弥生後期



第27図 10区129号住居



第28図 11区168号住居出土遺物

第2節 土坑

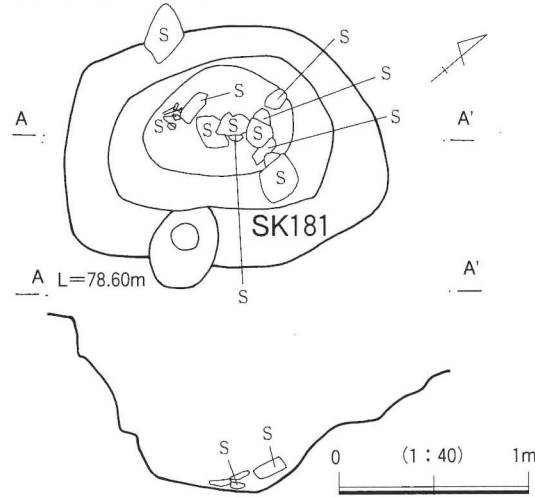
3区 SK181

1.68m×1.26m不整楕円形プランで、深さ64cmある。土坑の主軸は北-27°-東、礫とともに弥生後期の壺と甕が出土している。

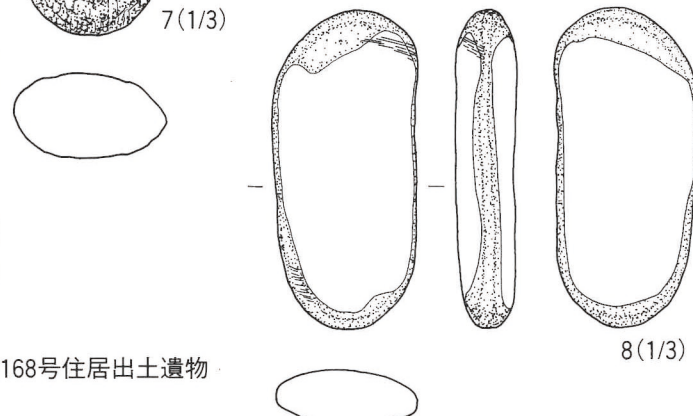
第3節 その他の出土遺物

11区168号住居（古墳時代）

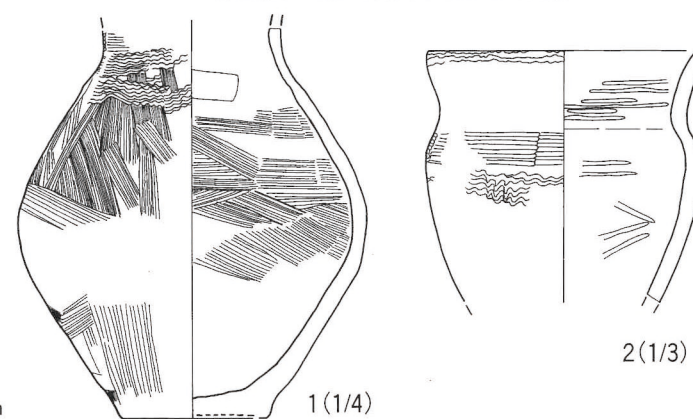
の覆土から出土した、弥生時代の磨製石鎌である。



第30図 3区SK181土坑



第29図 10区129号住居出土遺物



第31図 3区SK181土坑出土遺物

第Ⅳ章 古墳時代の遺構と遺物

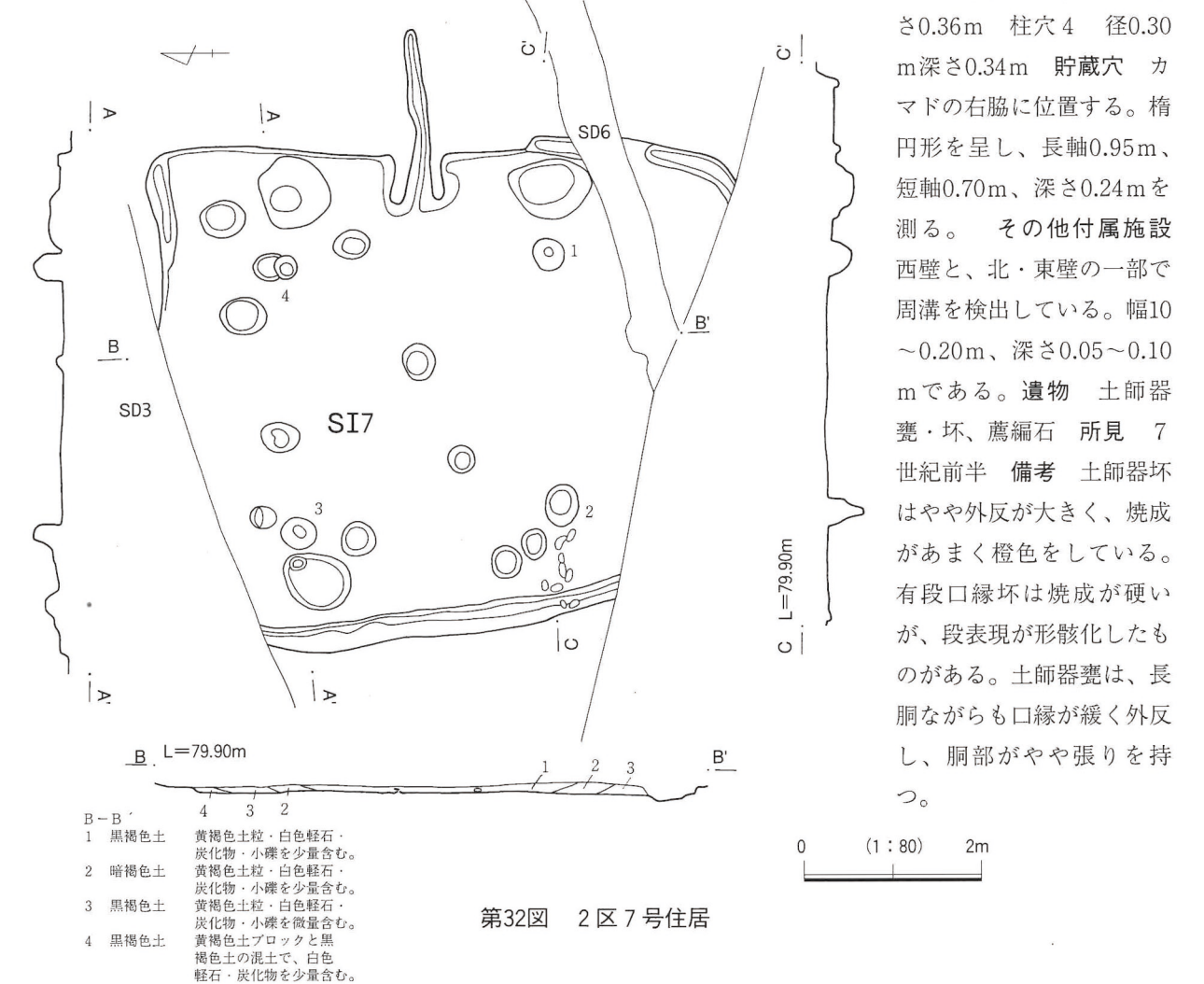
第1節 竪穴住居

古墳時代の竪穴住居は、2区及び8区～14区、15区～19区で発見された。総数で460軒である。時代は、4世紀から7世紀後半に及ぶ。特に、5世紀後半から6世紀が多い。遺物は土器が主体であるが、そのうち土師器は、甕・甔・坏・高坏などがあり、須恵器は、蓋坏、高坏、壺、甕などが見られる。

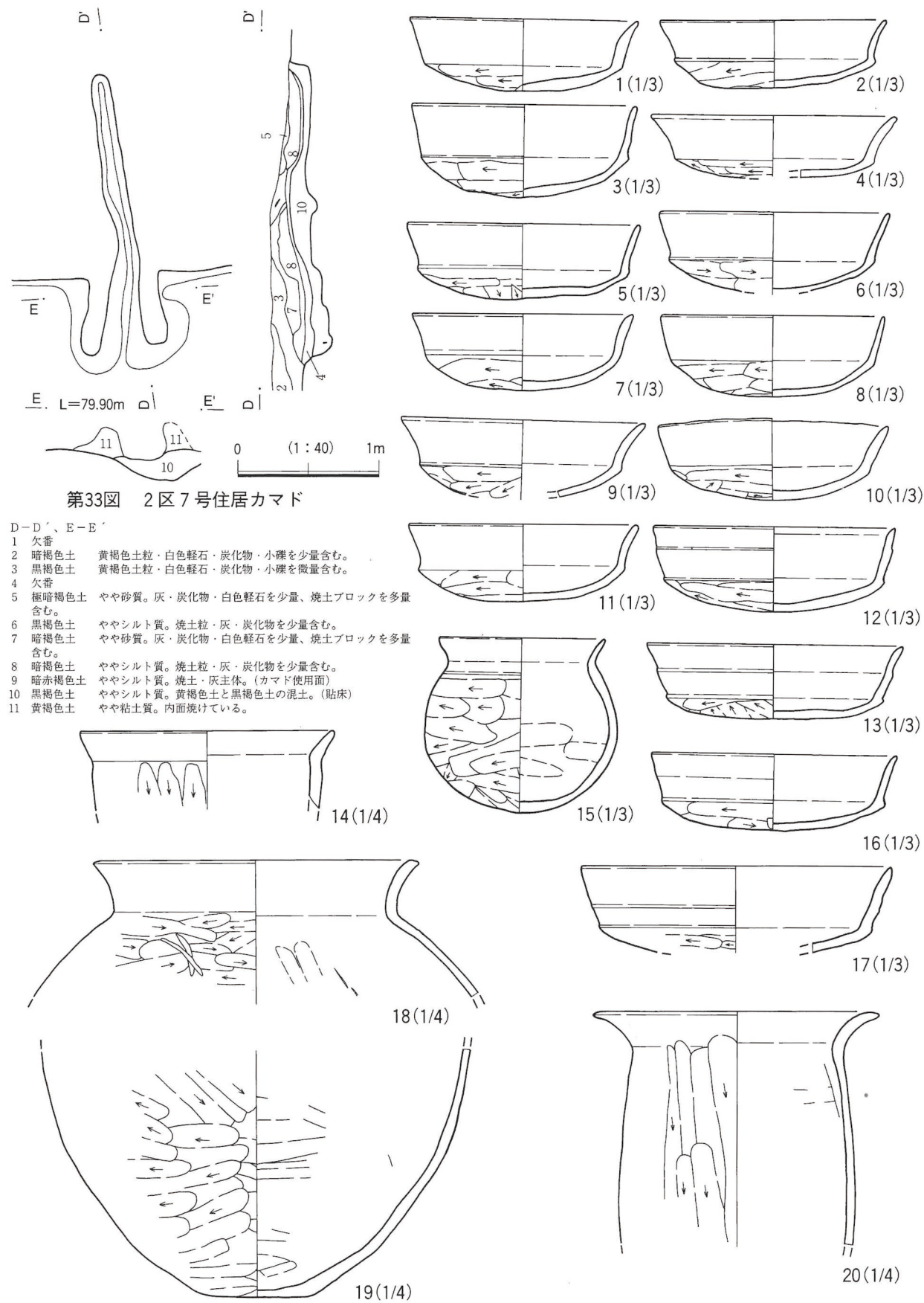
2区は6世紀後半の住居が中心である。また、2区から見ると、井野川寄りとなる9区西から19区にかけては、5世紀後半から末にかけての住居が多い。また、6世紀初頭から前半にかけてもかなり多い。時期ごとに居住区の移動があったように考えられる。6世紀前半では、土師器坏の内面を丁寧に研磨し、炭素を吸着させる焼成方法をとった黒色土器が目立つ。また、須恵器の影響を受け、土師器の脚が太く長く伸びる形態が登場するのは6世紀前半で、祭祀用とみられる粗製の鉢形土器や小型土器もある。なお、5世紀後半から6世紀にかけては、石製模造品、玉類及び、須恵器の出土が多いのも特徴的である。

2区7号住居跡

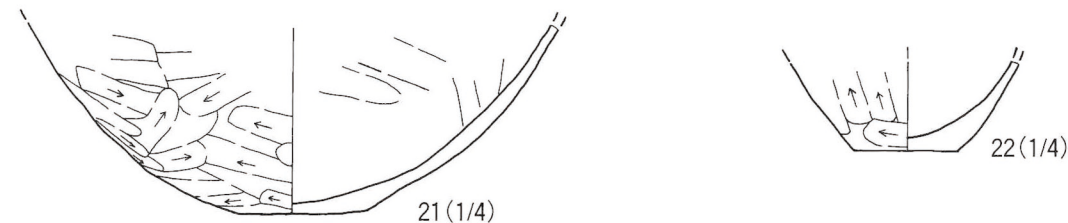
位置 2区東南隅 規模形状 長辺6.50m+α、短辺5.50m、残存壁高0.15mを測る。長方形プランと推定される。 主軸方位 東-9°-北 重複 10号住居を掘り込み、3号・6号溝に壊される。 床面 黒褐色土と黄褐色土の混土からなる貼床が確認される。床面はほぼ平坦である。 カマド 東壁中央部に位置する。奥行0.70m、焚き口幅は0.35m、煙道長は1.40mを測る。燃烧面は床面より8cmほど低い。煙道は住居壁の外側に伸びる。燃烧部から徐々に立ち上がって、水平に伸びた後やや落ち込み、出口では急に立ち上がっている。 柱穴 4基検出している。 柱穴1 径0.40m深さ0.28m 柱穴2 長軸0.48m短軸0.36m深さ0.44m 柱穴3 径0.38m深さ0.36m 柱穴4 径0.30m深さ0.34m 貯蔵穴 カマドの右脇に位置する。楕円形を呈し、長軸0.95m、短軸0.70m、深さ0.24mを測る。 その他付属施設 西壁と、北・東壁の一部で周溝を検出している。幅10～0.20m、深さ0.05～0.10mである。 遺物 土師器 甕・坏、薦編石 所見 7世紀前半 備考 土師器坏はやや外反が大きく、焼成があまく橙色をしている。有段口縁坏は焼成が硬いが、段表現が形骸化したものがある。土師器甕は、長胴ながらも口縁が緩く外反し、胴部がやや張りを持つ。



第32図 2区7号住居

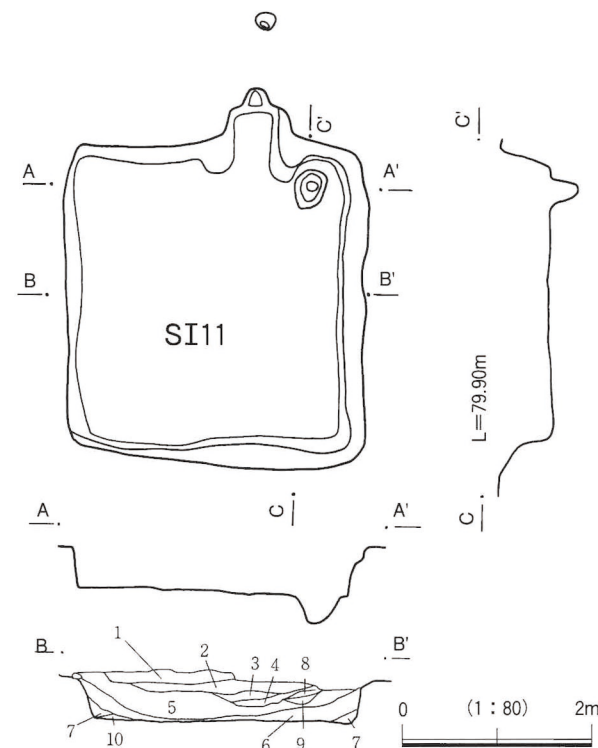


第34図 2区7号住居出土遺物-1



2区11号住居

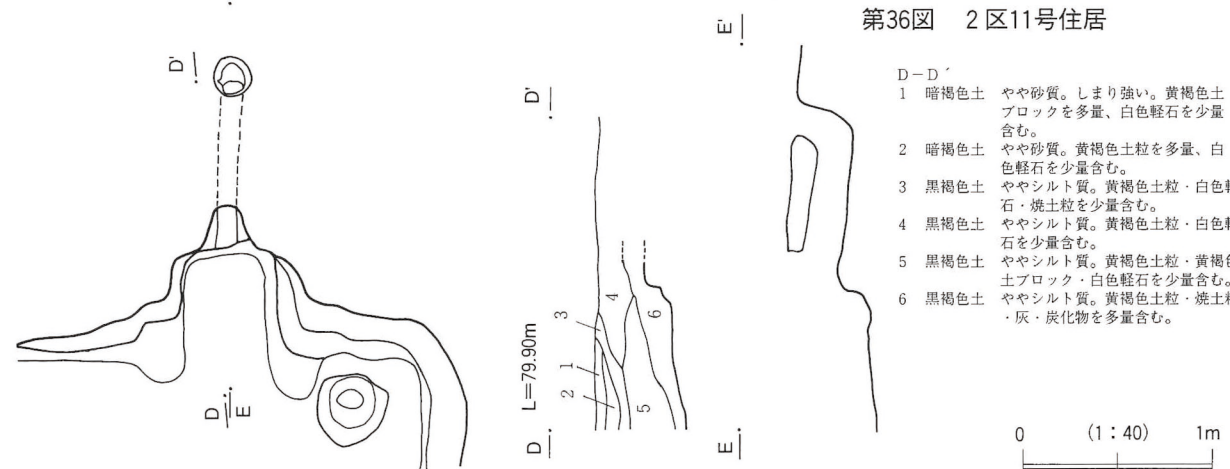
位置 2区中央より東側 規模形状 長方形を呈し、長辺3.50m、短辺3.15m、残存壁高0.55mを測る。主軸方位 東-32°-北 重複 なし 床面 ほぼ平坦面を形成している。カマド 東壁中央やや南側に位置する。奥行0.80m、焚き口幅0.50m、煙道部長1.0mを測る。袖は僅か住居内に張り出し、燃烧部は住居壁の外側に削り出して造られる。燃烧面は床面より若干高い。煙道部は天井が残っていた。煙道は、ほぼ水平に伸び、奥で垂直に立ち上がる。柱穴 不明 貯蔵穴 南東隅に位置する。楕円形を呈し、長軸0.38m、短軸0.37m、深さ0.30mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器坏、石製模造品白玉 所見 6世紀初頭 備考 遺物量が少ない。土師器坏は、内弯口縁でやや大型化している。内面に暗文はない。

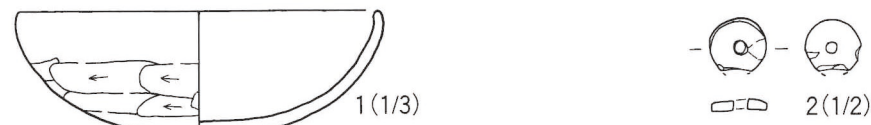


B-B'

1 暗褐色土 やや砂質。しまり強い。黄褐色土ブロックを多量、白色軽石を少量含む。
2 黒褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒を多量、白色軽石を少量含む。
3 におい黄褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒を大量含む。
4 黒褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒・白色軽石を微量含む。
5 黒褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒を微量、白色軽石を少量含む。
6 黒褐色土 ややシルト質。黄褐色土・黄褐色土ブロック・白色軽石を少量含む。
7 灰黄褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒を多量、白色軽石を少量含む。
8 黒褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。
9 黒褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒・白色軽石を微量含む。
10 黒褐色土 シルト質。黄褐色土粒・白色軽石を微量含む。

第37図 2区11号住居カマド

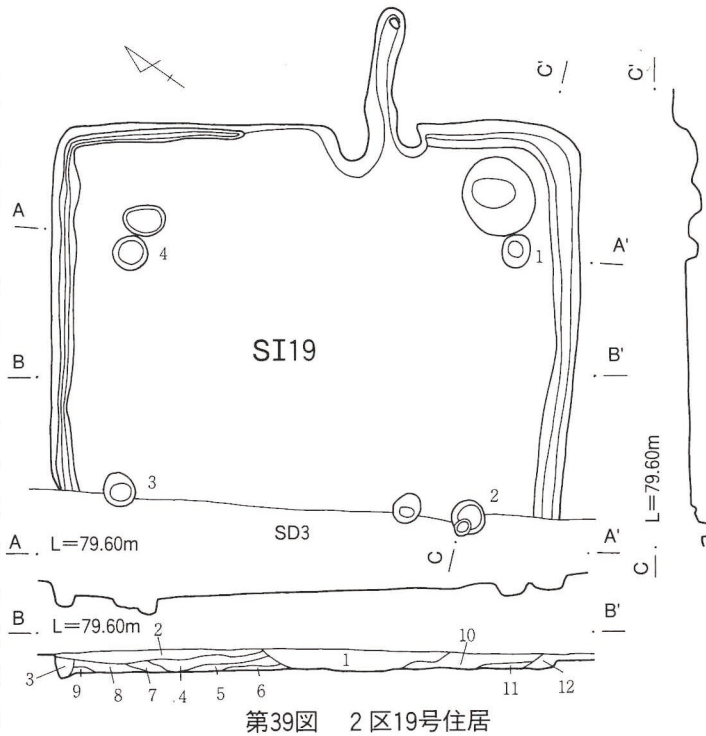




第38図 2区11号住居出土遺物

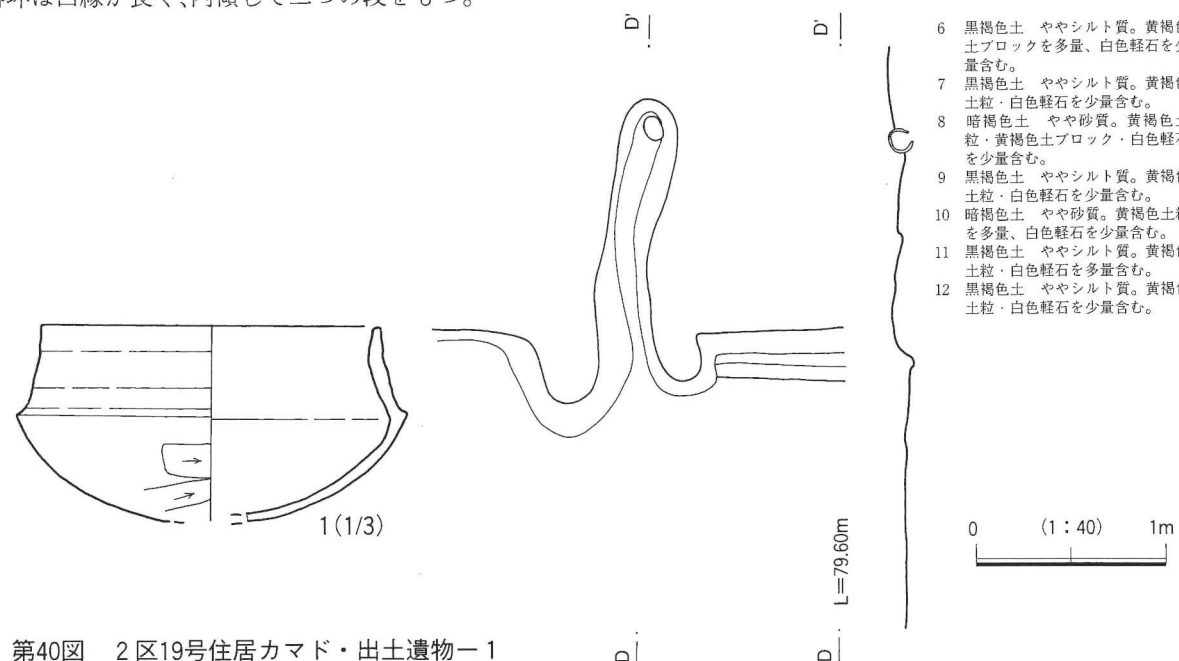
2区19号住居

位置 2区東側 **規模形状** 長辺5.62m、短辺4.30m+ α 、残存壁高0.20mを測る。形状は方形と推定される。 **主軸方位** 東-33°-北 **重複** 20号・22号住居を掘りこみ、3号溝に壊される。 **床面** 平坦面を形成している。 **カマド** 東壁中央やや南側に位置する。奥行1.90m、右袖はピットに壊されている。煙道長1.30mを測る。燃烧部は住居壁を掘り込んで造られ、煙道は水平に伸びて急に立ち上がっている。 **柱穴** 4基検出している。 **柱穴1** 長軸0.34m、短軸0.32m、深さ0.15m **柱穴2** 長軸0.50m、短軸0.40m、深さ0.21m **柱穴3** 長軸0.4m、短軸0.34m、深さ0.15m **柱穴4** 長軸0.36m、短軸0.28m、深さ0.11m **貯蔵穴** 南東隅に位置する。円形を呈し、径0.82m、深さ0.28mを測る。 **その他付属施設** カマド部分を除く壁際から壁周溝を検出している。幅0.15~0.25m、深さ0.05~0.10mである。 **遺物** 土師器甕・坏・高坏、石製模造品剣形、小型粗製土器甕 **所見** 6世紀後半 **備考** No1の土師器坏は口縁が長く、内傾して二つの段をもつ。



第39図 2区19号住居

- B-B'
- | | | |
|---|------|--------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | やや砂質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。 |
| 2 | 暗褐色土 | やや砂質。黄褐色土粒・白色軽石をやや多く含む。 |
| 3 | 黒褐色土 | やや砂質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。 |
| 4 | 褐色土 | やや砂質。黄褐色土粒を多量、白色軽石を少量含む。 |
| 5 | 黒褐色土 | ややシルト質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。 |



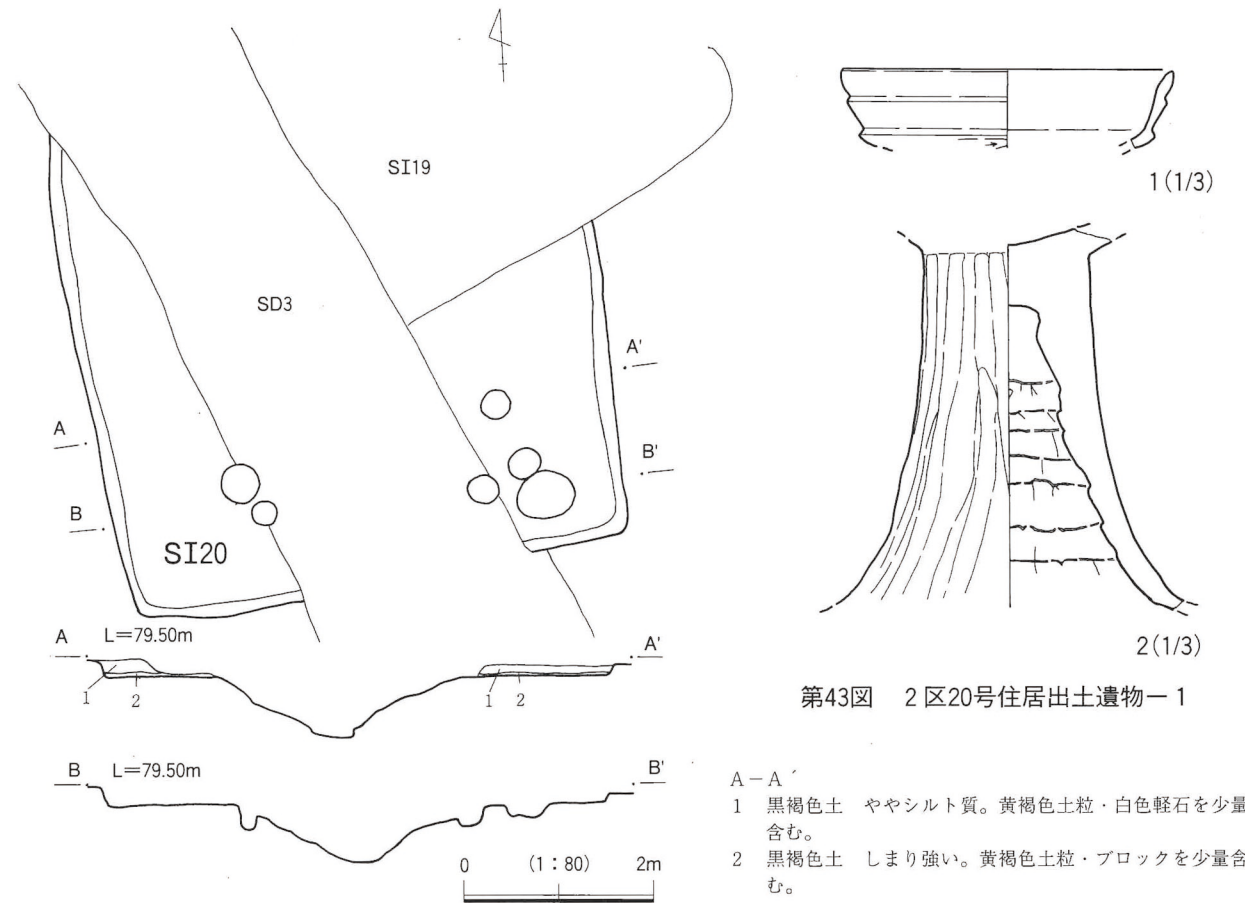
第40図 2区19号住居カマド・出土遺物-1



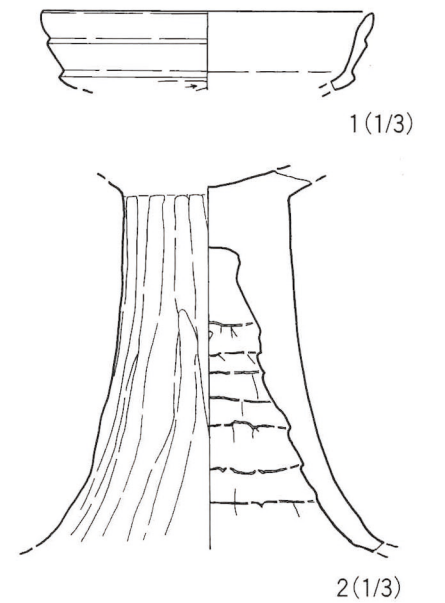
第41図 2区19号住居出土遺物-2

2区20号住居

位置 2区東側 **規模形状** 長辺5.60m、短辺5.00m+ α 、残存壁高0.20mを測る。形状は方形と推定される。 **主軸方位** 東-11°-北 **重複** 19号住居、3号溝に壊される。 **床面** 部分的に黒褐色土で厚さ0.05mの貼床としている。 **カマド** 不明 **柱穴** ピットが多数ある。南半部の主柱穴を2基検出している。 **貯蔵穴** 不明 **その他付属施設** なし **遺物** 土師器甕・壺・坏・高坏 **所見** 6世紀後半 **備考** 土師器高坏は脚部が長い。土師器坏は有段口縁坏で、段が強調されている。



第42図 2区20号住居



第43図 2区20号住居出土遺物-1

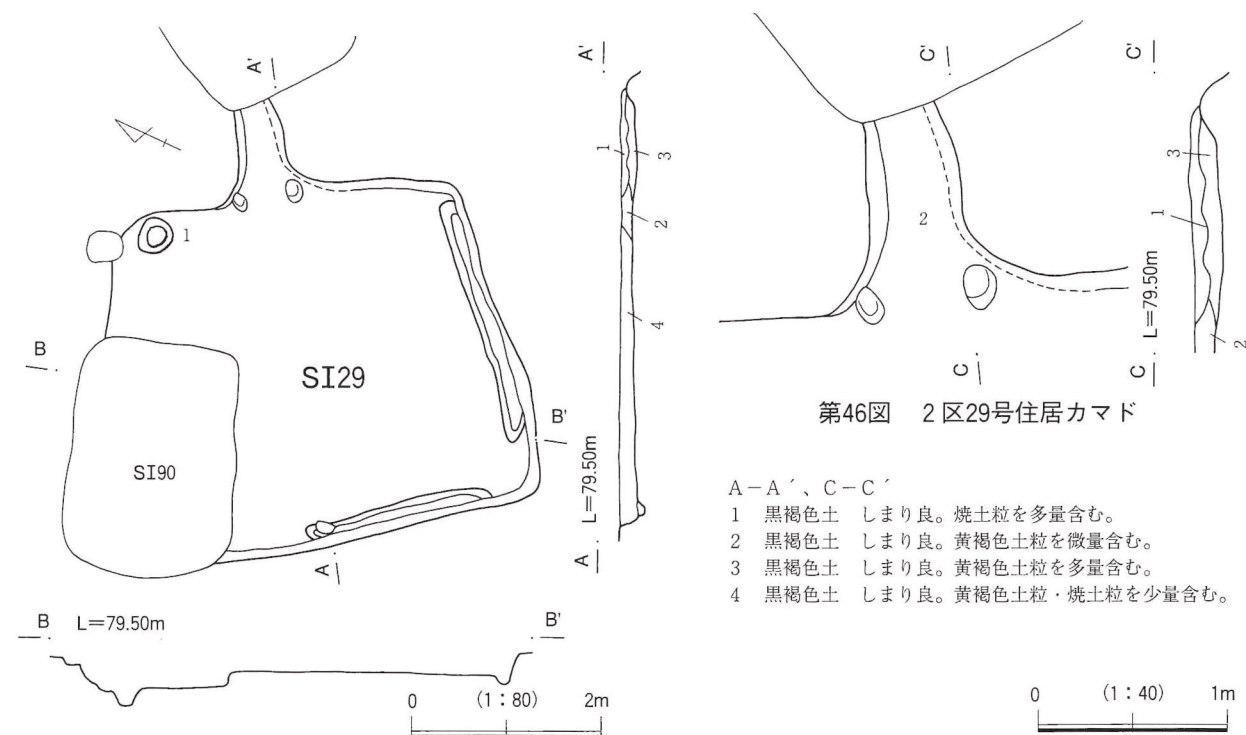
- A-A'
- | | | |
|---|------|-------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ややシルト質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。 |
| 2 | 黒褐色土 | しまり強い。黄褐色土粒・ブロックを少量含む。 |



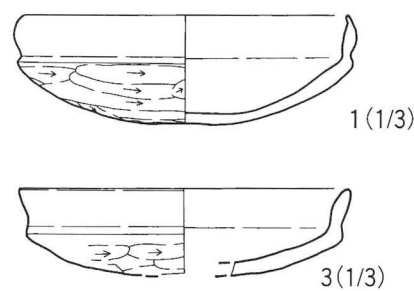
第44図 2区20号住居出土遺物ー2

2区29号住居

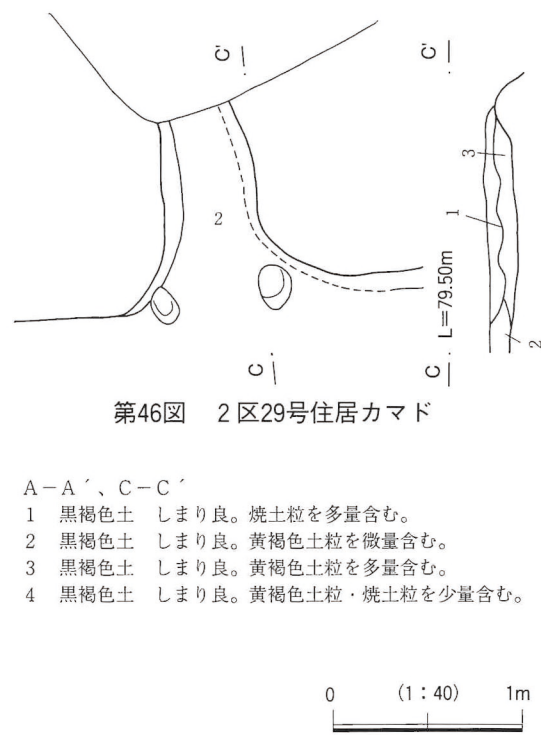
位置 2区 **規模形状** 長辺4.05m、短辺3.74m、残存壁高0.18mを測る。やや歪んだ方形である。 **主軸方位** 東-35° -北 **重複** 77号住居を掘り込み、90号住居に壊される。 **床面** ほぼ平坦である。 **カマド** 東壁中央に位置する。奥行1.10m+α、焚き口幅0.50mを測る。凝灰岩を袖石とし、やや粘性の強い黄褐色土で構築される。袖は殆どなく、燃烧部は住居壁の外側に地山を掘ってつくられる。燃烧面は床面より若干低い。 **柱穴** 北に1基検出している。柱穴1 径0.38m、深さ0.10m **貯蔵穴** 不明 **その他付属施設** 南、西壁で壁周溝を検出している。幅0.20~0.30m、深さ0.05~0.10mである。 **遺物** 土師器坏・甕、須恵器高坏 **所見** 6世紀後半 **備考** 土師器坏は、やや口径の大きい須恵器蓋坏の蓋と身の模倣でる。須恵器高坏は、長脚二段透かしの破片と考えられる。



第45図 2区29号住居



第47図 2区29号住居出土遺物

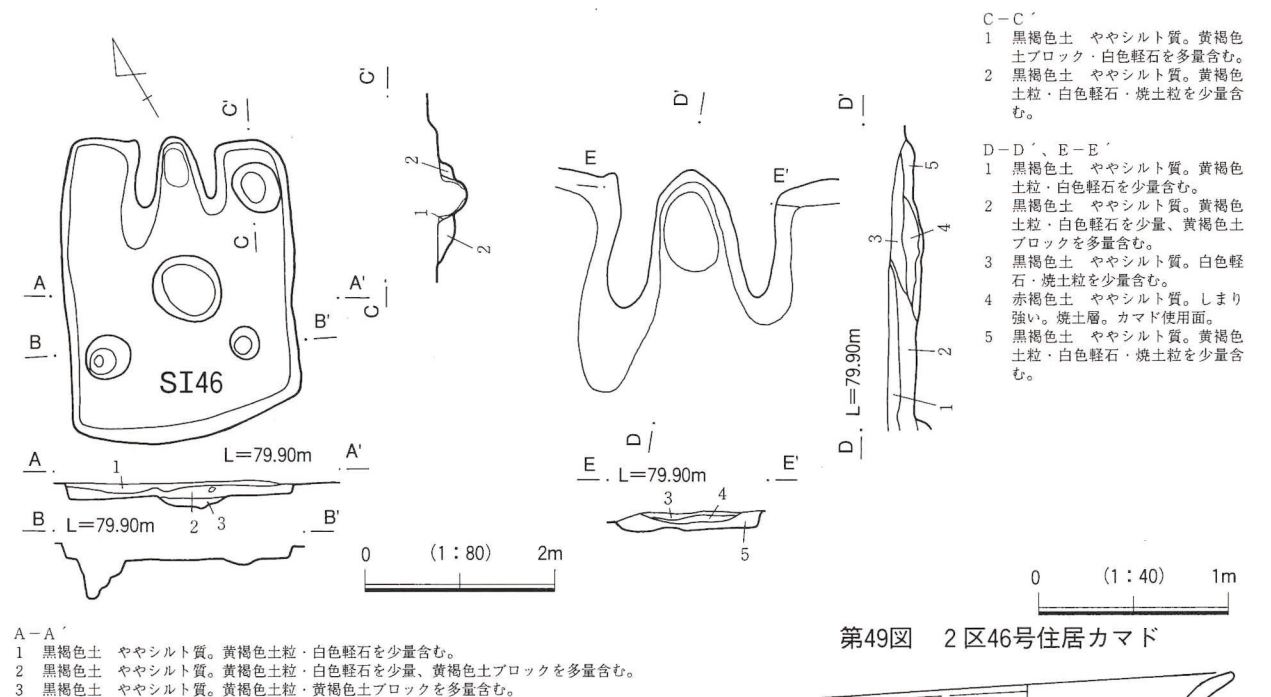


第46図 2区29号住居カマド

- A-A'、C-C'
- 1 黒褐色土 しまり良。焼土粒を多量含む。
 - 2 黒褐色土 しまり良。黄褐色土粒を微量含む。
 - 3 黒褐色土 しまり良。黄褐色土粒を多量含む。
 - 4 黒褐色土 しまり良。黄褐色土粒・焼土粒を少量含む。

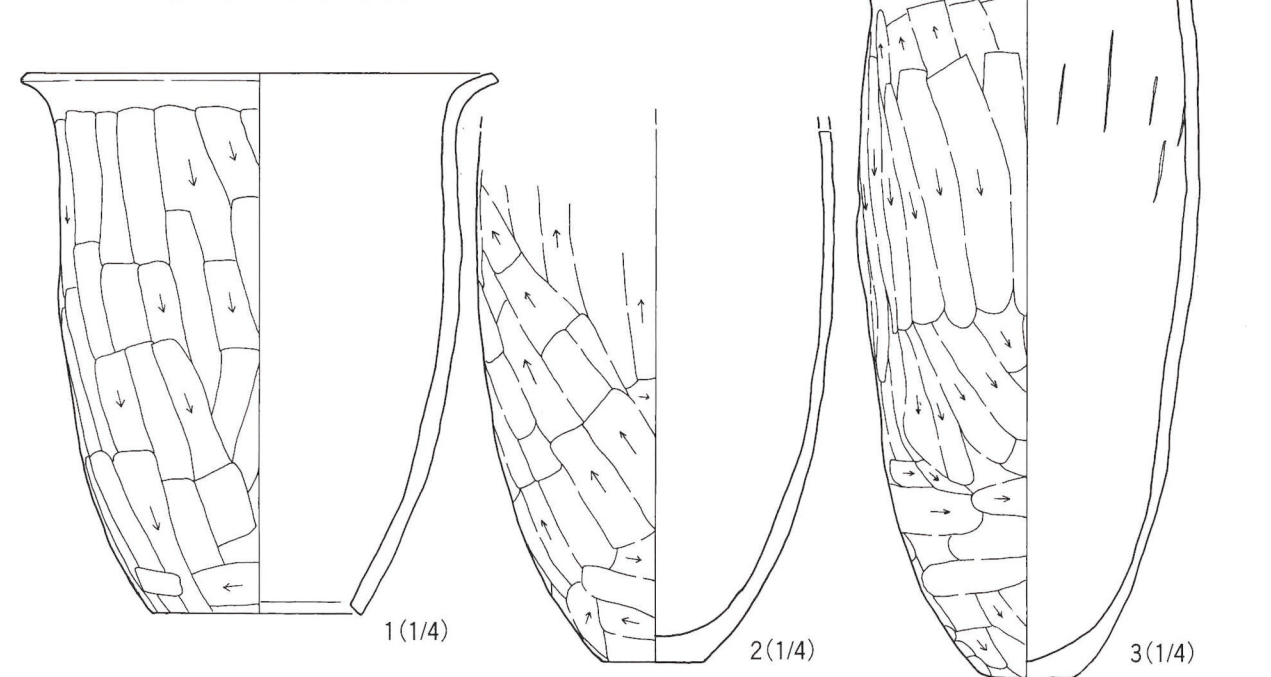
2区46号住居

位置 2区 **規模形状** 長辺3.20m、短辺2.45mの長方形プランを呈し、残存壁高0.20mを測る。 **主軸方位** 北-40° -東 **重複** 42号住居を掘り込む。 **床面** 平坦面を形成している。多少の凹凸がみられる。 **カマド** 北壁中央に位置する。奥行1.20m、焚き口幅0.65mを測る。先端には凝灰岩の袖石が置かれている。燃烧面はよく焼け硬くしまっている。 **柱穴** 住居西に、柱穴2基を検出した。 **貯蔵穴** 北東隅に位置する。円形を呈し、径0.56m、深さ0.17mを測る。 **その他付属施設** なし **遺物** 土師器甕・甑・坏・台付甕、石製模造品剣形 **所見** 7世紀初頭 **備考** 土師器甕は、かなり長胴である。土師器坏は、やや口径が小さく口縁が外反ないし外傾している。石製模造品剣形は、つくりがかなり粗雑である。

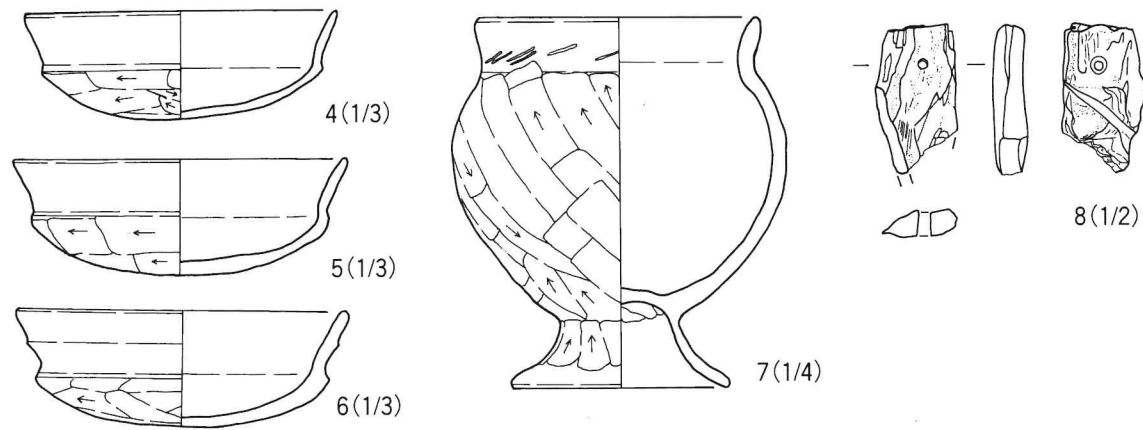


- A-A'、C-C'
- 1 黒褐色土 ややしルト質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。
 - 2 黒褐色土 ややしルト質。黄褐色土粒・白色軽石を少量、黄褐色土ブロックを多量含む。
 - 3 黒褐色土 ややしルト質。黄褐色土粒・黄褐色土ブロックを多量含む。

第48図 2区46号住居



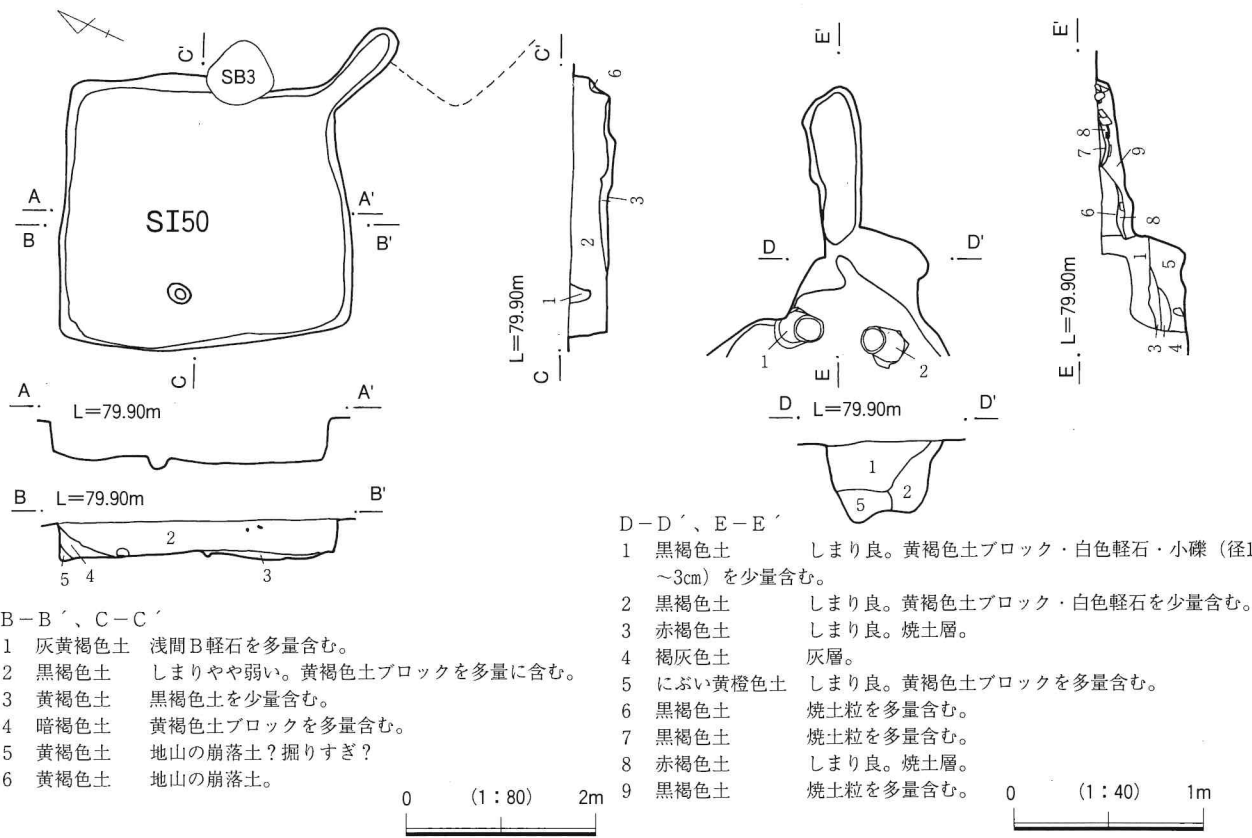
第50図 2区46号住居出土遺物ー1



第51図 2区46号住居出土遺物ー2

2区50号住居

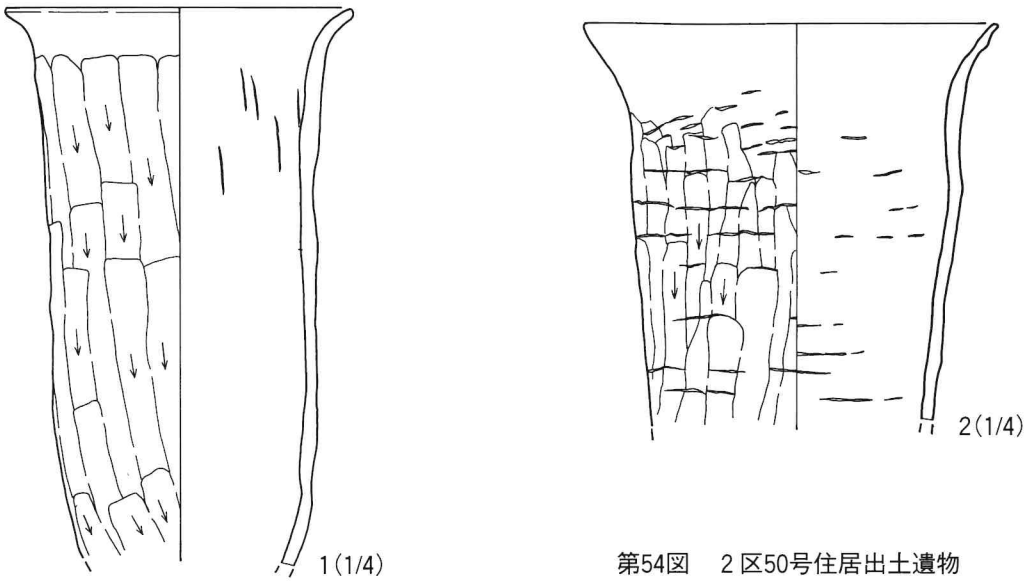
位置 2区 規模形状 長辺3.09m、短辺2.90mの正方形プランを呈し、残存壁高0.40mを測る。 主軸方位 北-35° -西 重複 39号住居を掘り込み、3号掘立柱建物の柱穴に壊される。 床面 南東床面で黒褐色土を含む黄褐色土で厚さ0.05m前後の貼床としている。 カマド 南東のコーナー部に位置する。奥行1.32m、両袖先端部は、土師器の甕が伏せて埋め込まれている状態であった。なお、伏せた甕と壁の間の粘土は崩れている。また、燃焼部、煙道部は住居壁外側の地山を掘り抜きつくられている。 柱穴 西側に1基検出している。 径0.20m深さ0.58m 貯蔵穴 なし その他付属施設 なし 遺物 土師器甕 所見 6世紀後半 備考 土師器甕は、胴が細く長胴である。No2は輪積み痕がよく残る。



第52図 2区50号住居

- D-D'、E-E'
- | | |
|-----------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | しまり良。黄褐色土ブロック・白色軽石・小礫（径1～3cm）を少量含む。 |
| 2 黒褐色土 | しまり良。黄褐色土ブロック・白色軽石を少量含む。 |
| 3 赤褐色土 | しまり良。焼土層。 |
| 4 褐灰色土 | 灰層。 |
| 5 にぶい黄橙色土 | しまり良。黄褐色土ブロックを多量含む。 |
| 6 黒褐色土 | 焼土粒を多量含む。 |
| 7 黒褐色土 | 焼土粒を多量含む。 |
| 8 赤褐色土 | しまり良。焼土層。 |
| 9 黒褐色土 | 焼土粒を多量含む。 |

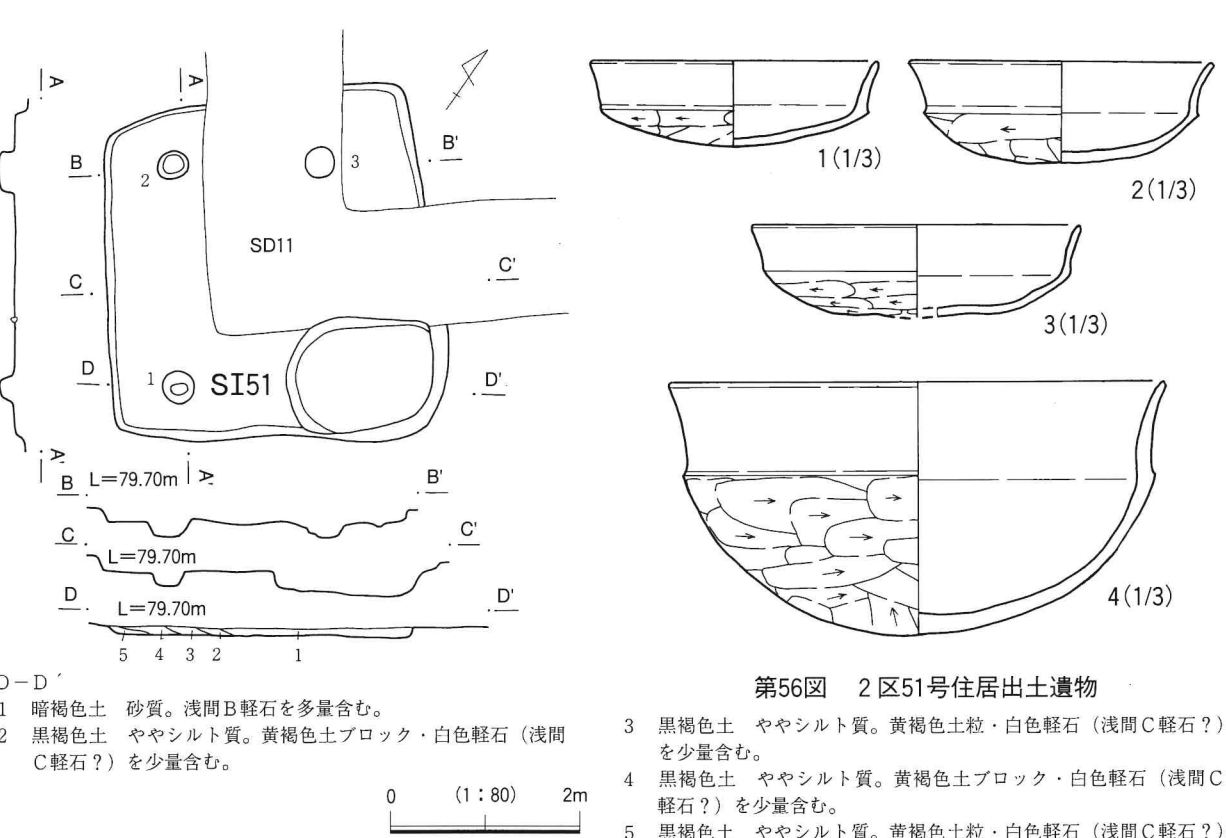
第53図 2区50号住居カマド



第54図 2区50号住居出土遺物

2区51号住居

位置 2区 規模形状 長辺3.56m、短辺3.52mの正方形プランで、残存壁高0.17mを測る。 主軸方位 北-30° -西 重複 11号溝に壊される。 床面 ほぼ平坦である。 カマド 11号溝に壊された東壁に可能性があるが断定はできない。 柱穴 3基検出している。 柱穴1 径0.38m、深さ0.17m 柱穴2 径0.38m、深さ0.18m 柱穴3 径0.38m、深さ0.14m 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器鉢・坏 所見 6世紀末～7世紀初頭 備考 土師器坏は薄手で、口径がやや大きく口縁がやや外反する。焼成はややあまい。



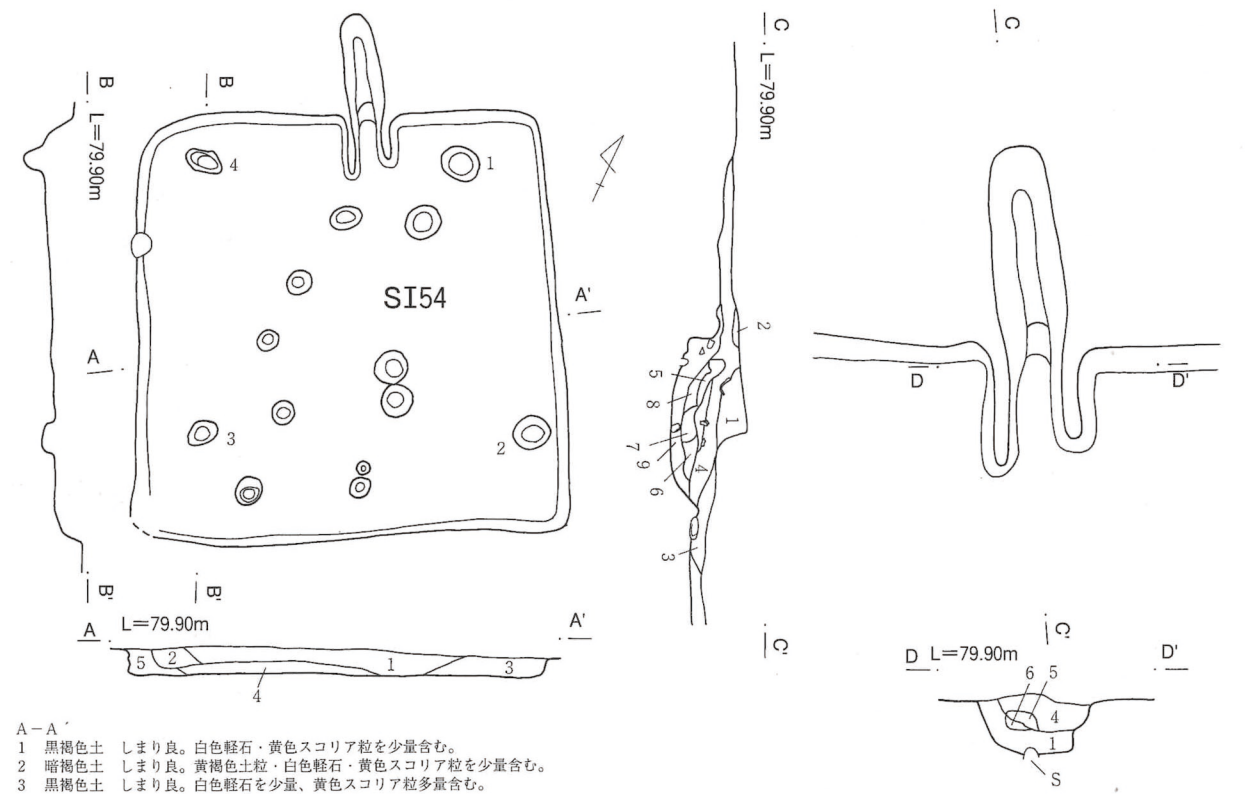
第56図 2区51号住居出土遺物

- D-D'
- | | |
|--------|------------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 砂質。浅間B軽石を多量含む。 |
| 2 黒褐色土 | ややシルト質。黄褐色土ブロック・白色軽石（浅間C軽石？）を少量含む。 |
| 3 黒褐色土 | ややシルト質。黄褐色土粒・白色軽石（浅間C軽石？）を少量含む。 |
| 4 黒褐色土 | ややシルト質。黄褐色土ブロック・白色軽石（浅間C軽石？）を少量含む。 |
| 5 黒褐色土 | ややシルト質。黄褐色土粒・白色軽石（浅間C軽石？）を少量含む。 |

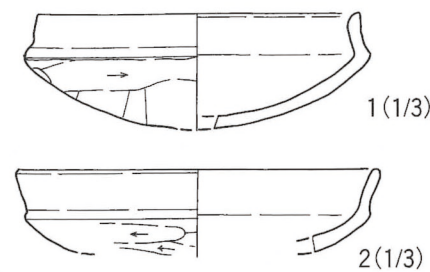
第55図 2区51号住居

2区54号住居

位置 2区 規模形状 長辺4.56m、短辺4.43mの正方形プランを呈し、残存壁高0.30mを測る。 主軸方位 北-32°-西 重複 なし 床面 黒褐色土で厚さ0.10~0.15mほど貼床としている。 カマド 北壁中央やや東側に位置する。奥行0.82m、焚き口幅0.35m、煙道部長0.92mを測る。燃焼部奥で急に上がり、その後ほぼ水平に煙道が伸びている。 柱穴 主柱穴4基と小ピット多数を検出している。南東の主柱穴は他に比べ壁に寄っている。 柱穴1 長軸0.44m、短軸0.36m、深さ0.18m 柱穴2 長軸0.40m、短軸0.36m、深さ0.14m 柱穴3 長軸0.32m、短軸0.30m、深さ0.14m 柱穴4 長軸0.38m、短軸0.20m、深さ0.18m 貯蔵穴 なし その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏、小型粗製土器碗、石製模造品白玉・白玉未製品・滑石片 所見 6世紀中頃 備考 住居南側中央床面から白玉製品、白玉未製品、滑石片などが出土している。それらの総重量は366.4gである。住居覆土中から、多量の滑石粉も出土した。玉造工房址の可能性が高い。

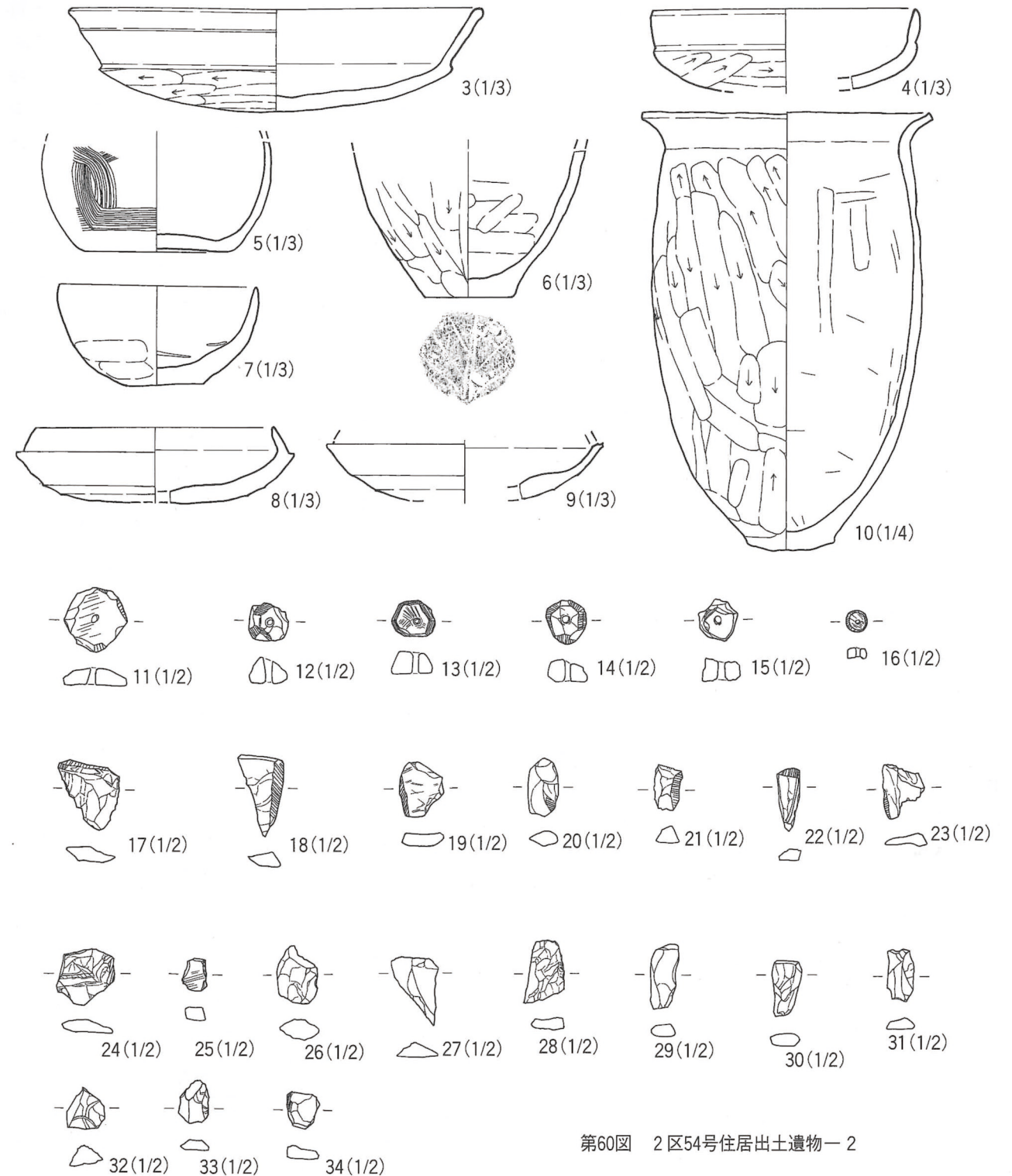


第57図 2区54号住居



第59図 2区54号住居出土遺物-1

第58図 2区54号住居カマド

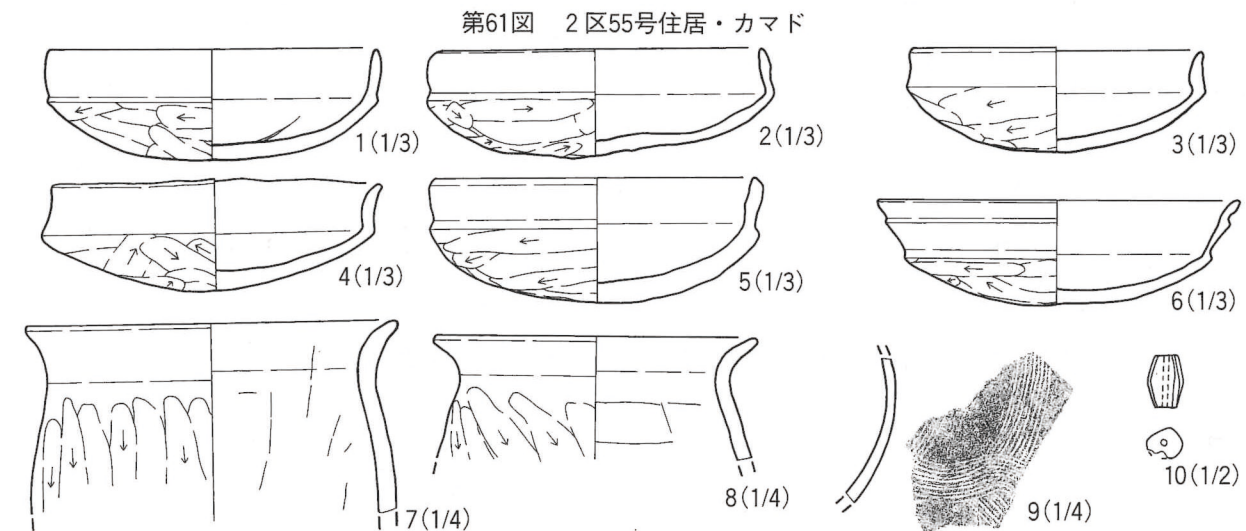
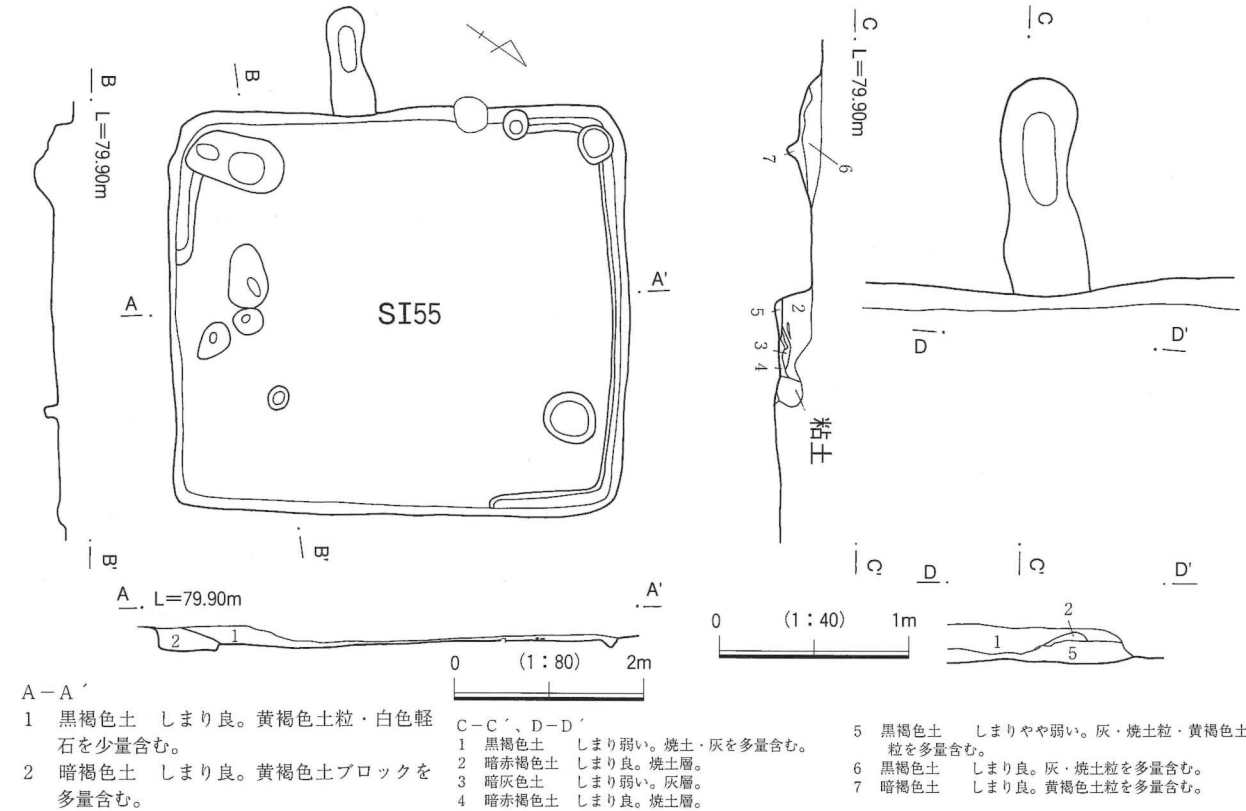


第60図 2区54号住居出土遺物-2

2区55号住居跡

位置 2区 規模形状 長辺4.86m、短辺4.30mと方形プランを呈す。残存壁高0.22mを測る。 主軸方位 南-30°-西 重複 4号掘立柱建物の柱穴に壊される。 床面 黄褐色土粒を含む黒褐色土で厚さ0.02~0.10mの貼床としているが、やや凹凸のある床面である。 カマド 南壁中央やや東側に位置する。奥行・焚き口幅不明。煙道部長1.12m+αを測る。カマド本体は壊れていたが、粘土の塊が検出されており、カマドは粘土で構築されていたと思われる。煙道部は上部が削平されていたが一部煙道下面が残り、焼土・灰が多量に検出された。

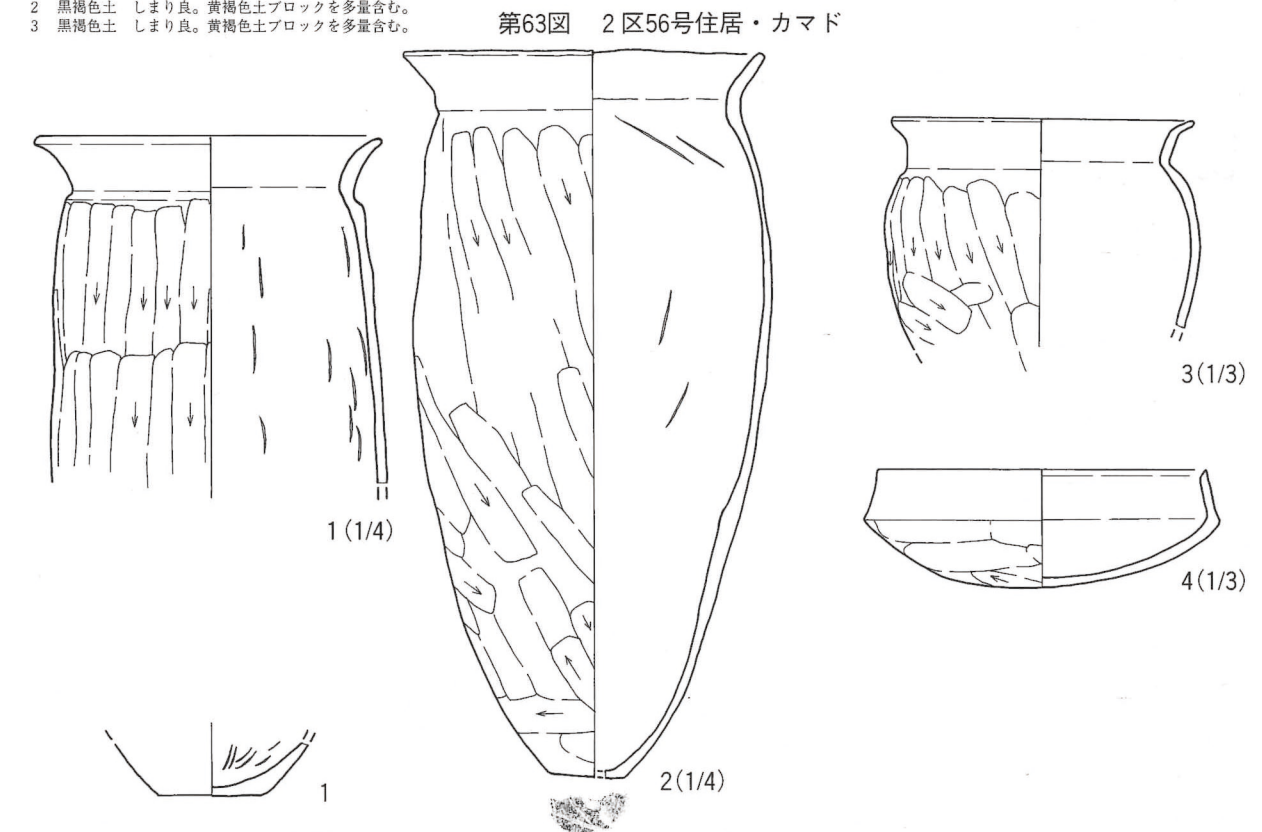
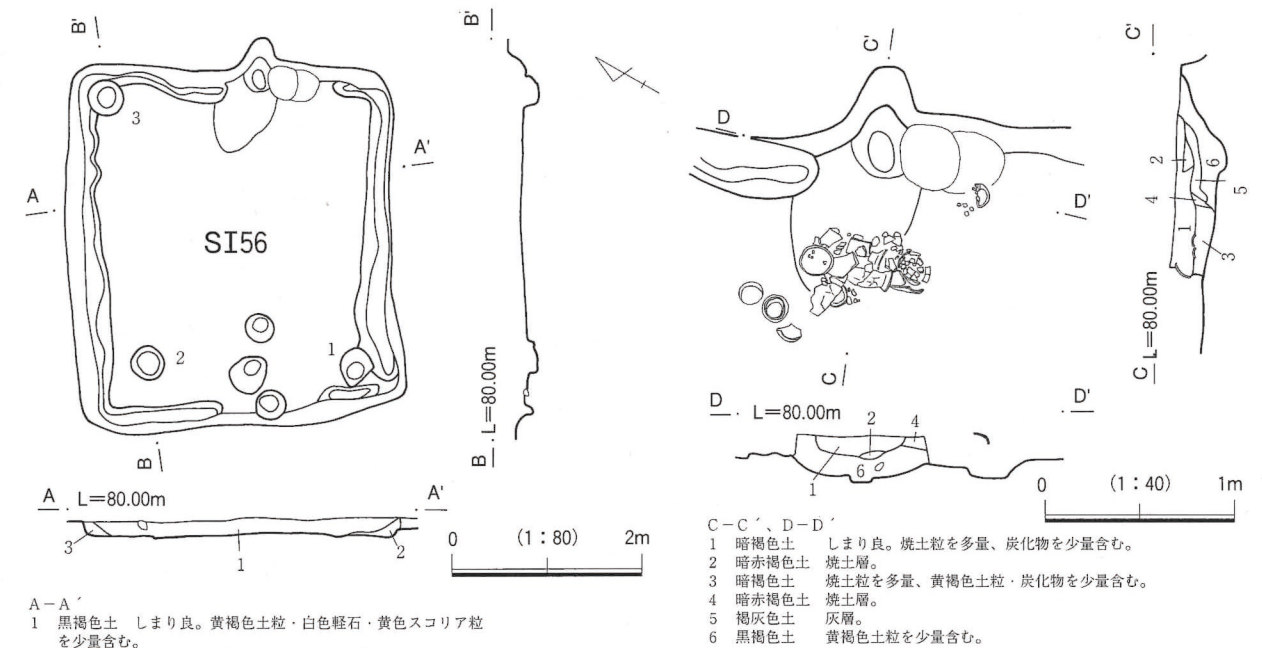
柱穴 やや東寄りに主柱穴が4本ある。 貯蔵穴 カマド左脇に位置する。楕円形を呈し、長軸0.60m、短軸0.54m、深さ0.22mを測る。 その他付属施設 西壁、南東コーナーで壁周溝を検出している。幅0.15～0.30m、深さ0.05～0.10mである。 遺物 土師器甕・坏、土製棗玉、樽式土器甕 所見 6世紀後半 備考 土師器坏は、須恵器蓋坏(身)模倣と(蓋)模倣とがある。No6の有段口縁坏は段表現がしっかりし、口径も大きい。

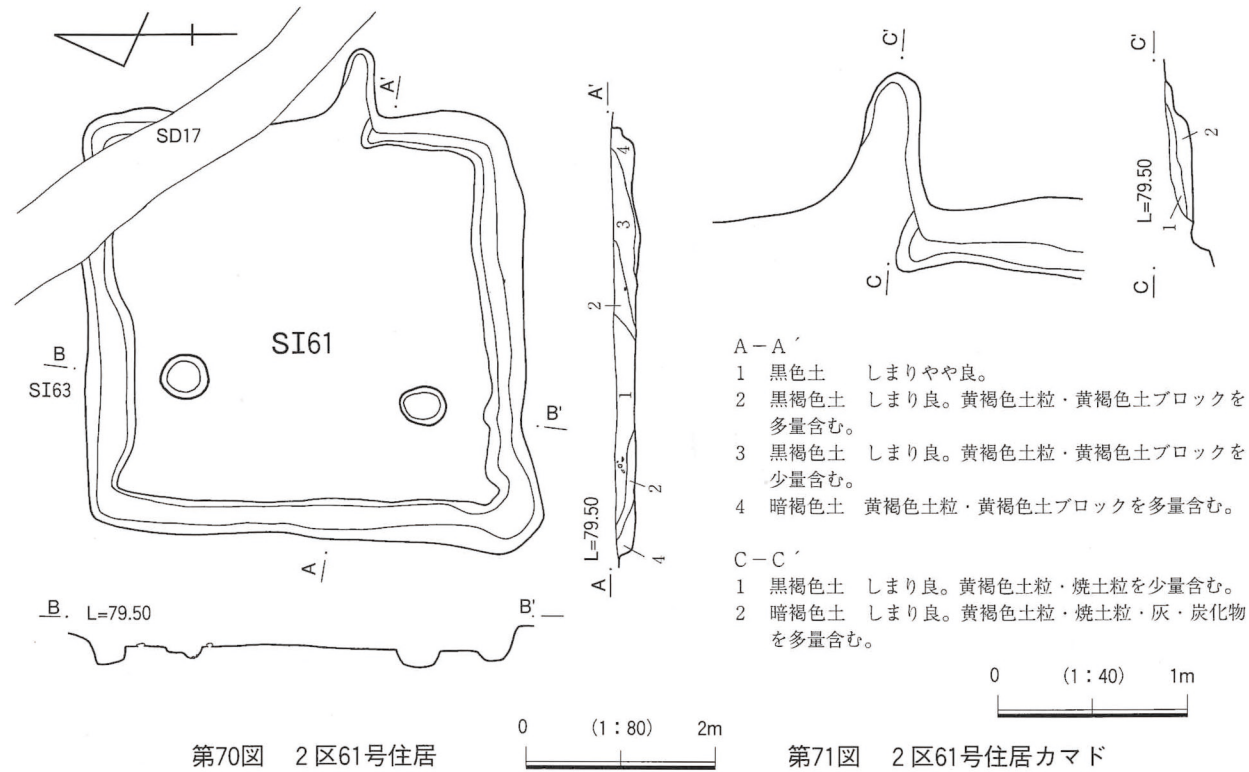


2区56号住居

位置 2区 規模形状 長辺4.10m、短辺3.40mの長方形プラン。残存壁高は0.40m。 主軸方位 東-35°-北 重複 なし 床面 ほぼ平坦で貼床が確認される。 カマド 東壁中央やや南側に位置する。奥行1.05mを測る。燃焼部は住居壁の内側であるが崩れている。焚き口部には、土師器の甕2個体が0.35mほどの間隔をもって床に埋めこまれ、その間に土師器甕が1個体横たわっている。 柱穴 南東部を除き、主柱穴を検出した。

柱穴1 長軸0.38、短軸0.36m、深さ0.17m 柱穴2 長軸0.36、短軸0.28m、深さ0.14m 柱穴3 径0.38m、深さ0.17m 貯蔵穴 なし その他付属施設 カマド部分と西壁中央部を除く部分から壁周溝を検出している。幅0.05～0.20m、深さ0.03～0.08mである。 遺物 土師器甕・坏、大型砥石 所見 6世紀末～7世紀初頭 備考 土師器坏は焼成があまく、また口縁が歪んでいるものが多い。土師器甕は長胴化が著しく、胴部最大径がやや肩よりの位置にある。



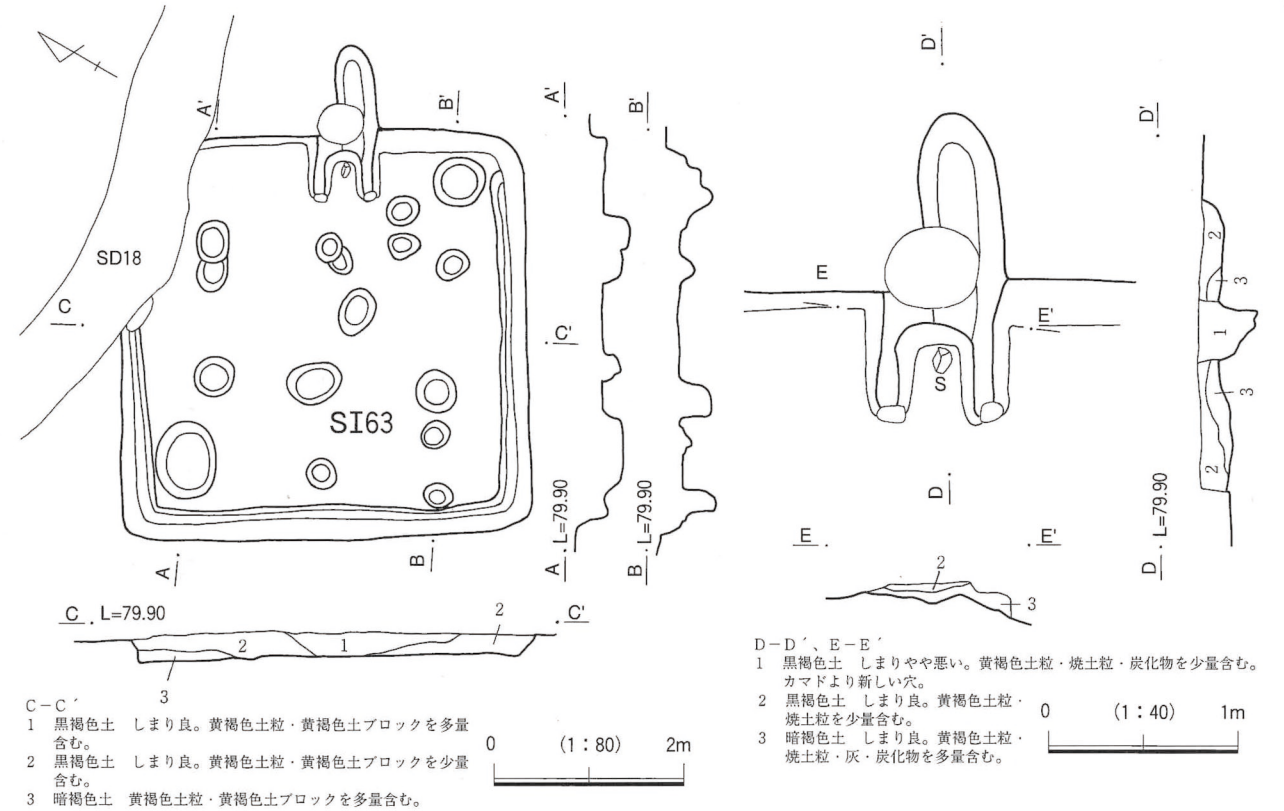


2区63号住居

位置 2区 **規模形状** 1辺4.30mの正方形プランを呈し、残存壁高0.40mを測る。 **主軸方位** 東-25°-北 **重複** 18号溝に壊される。 **床面** やや凹凸がある。 **カマド** 東壁中央やや南に位置する。奥行0.55m、焚き口幅0.40m、煙道部長1.10mを測る。両袖先端部の袖石には、凝灰岩を使用している。燃烧部中央やや右には、支脚と考えられる砂岩の川原石が据えてある。煙道部は住居壁の外側に地山を掘ってつくられ、水平に延び緩やかに立ち上がっている。 **柱穴** 多数検出している。主柱穴とみられるピットが、南北に3本並ぶ傾向にある。 **貯蔵穴** 東南隅に位置する。楕円形を呈し、長軸0.80m、短軸0.70m、深さ0.24mを測る。東側はテラス状で段が存在する。 **その他付属施設** 東壁を除いた壁際から壁周溝を検出している。幅0.20~0.36m、深さ0.03~0.07mである。 **遺物** 土師器甕・坏 **所見** 6世紀後半 **備考** 土師器甕は、胴部が細くやや雑なつくりである。土師器坏は、口径がやや大きく口縁は外傾気味である。



第72図 2区63号住居出土遺物

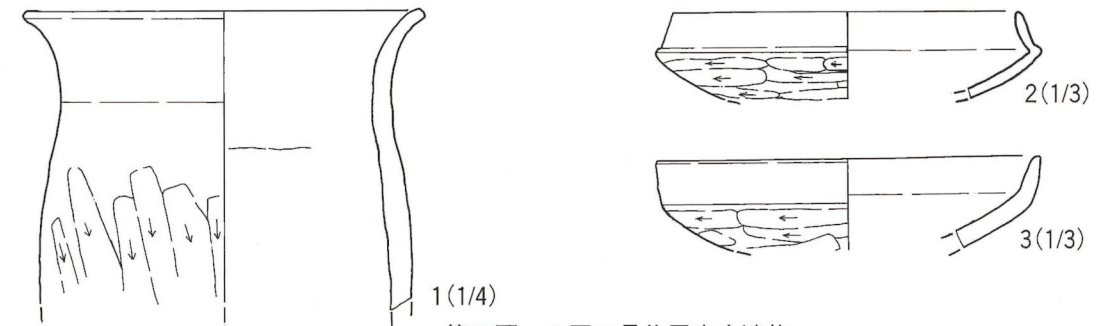


第73図 2区63号住居

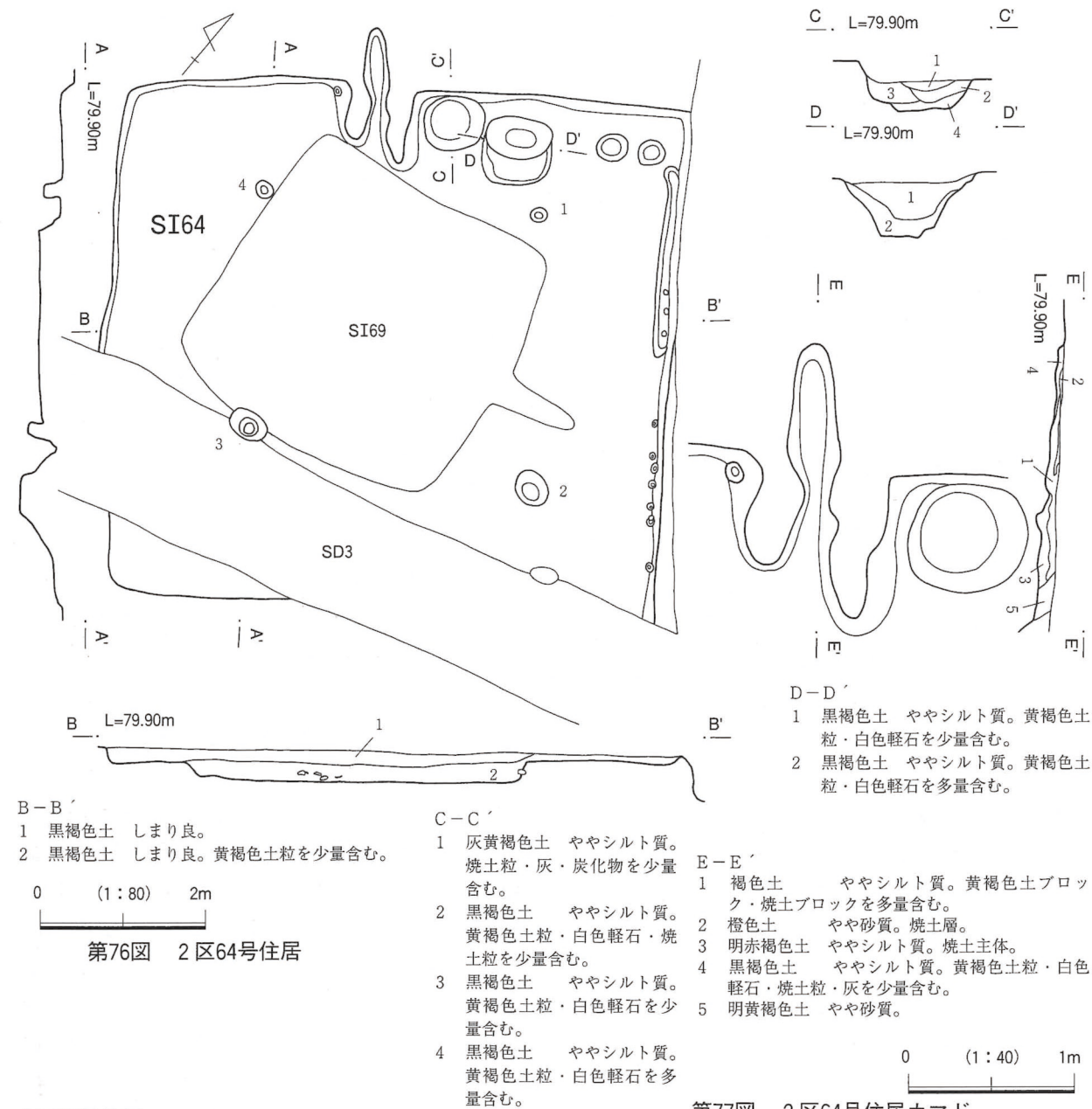
第74図 2区63号住居カマド

2区64号住居

位置 2区 **規模形状** 方形プランを呈す。長辺6.80m、短辺6.35mと大型住居である。残存壁高は0.20mを測る。 **主軸方位** 北-42°-西 **重複** 69号住居、3号・9号溝に壊される。 **床面** 平坦面を形成している。 **カマド** 北壁中央やや西側に位置する。奥行0.8m、焚き口幅0.40m、煙道部長0.90mを測る。右袖先端には袖石として凝灰岩を使用している。燃烧部中央より小さな窪みが検出されている。支脚痕跡と見られる。煙道は住居壁の外側に地山を掘ってつくられ、緩やかに立ち上がっている。 **柱穴** 主柱穴を4基検出している。柱穴1 径0.18m、深さ0.22m 柱穴2 長軸0.42m、短軸0.38m、深さ0.15m 柱穴3 規模不明 深さ0.20m 柱穴4 径0.20m、深さ0.22m **貯蔵穴** 2基検出している。貯蔵穴1はカマド右脇に、貯蔵穴2は貯蔵穴1の東に位置する。貯蔵穴1は円形を呈し、径0.80m、深さ0.19mを測る。貯蔵穴2は方形を呈し、長軸0.96m、短軸0.80m、深さ0.33mを測る。南側に僅かにテラス状の段があり、緩やかに立ち上がる。 **その他付属施設** 東壁の一部で壁周溝を検出している。幅0.20m前後、深さ0.05~0.10mである。 **遺物** 土師器甕・坏 **所見** 6世紀後半 **備考** かなり規模の大きい住居である。貯蔵穴が2基ある。土師器坏は口径がやや大きく、甕は口縁のくびれが弱く胴が長い。



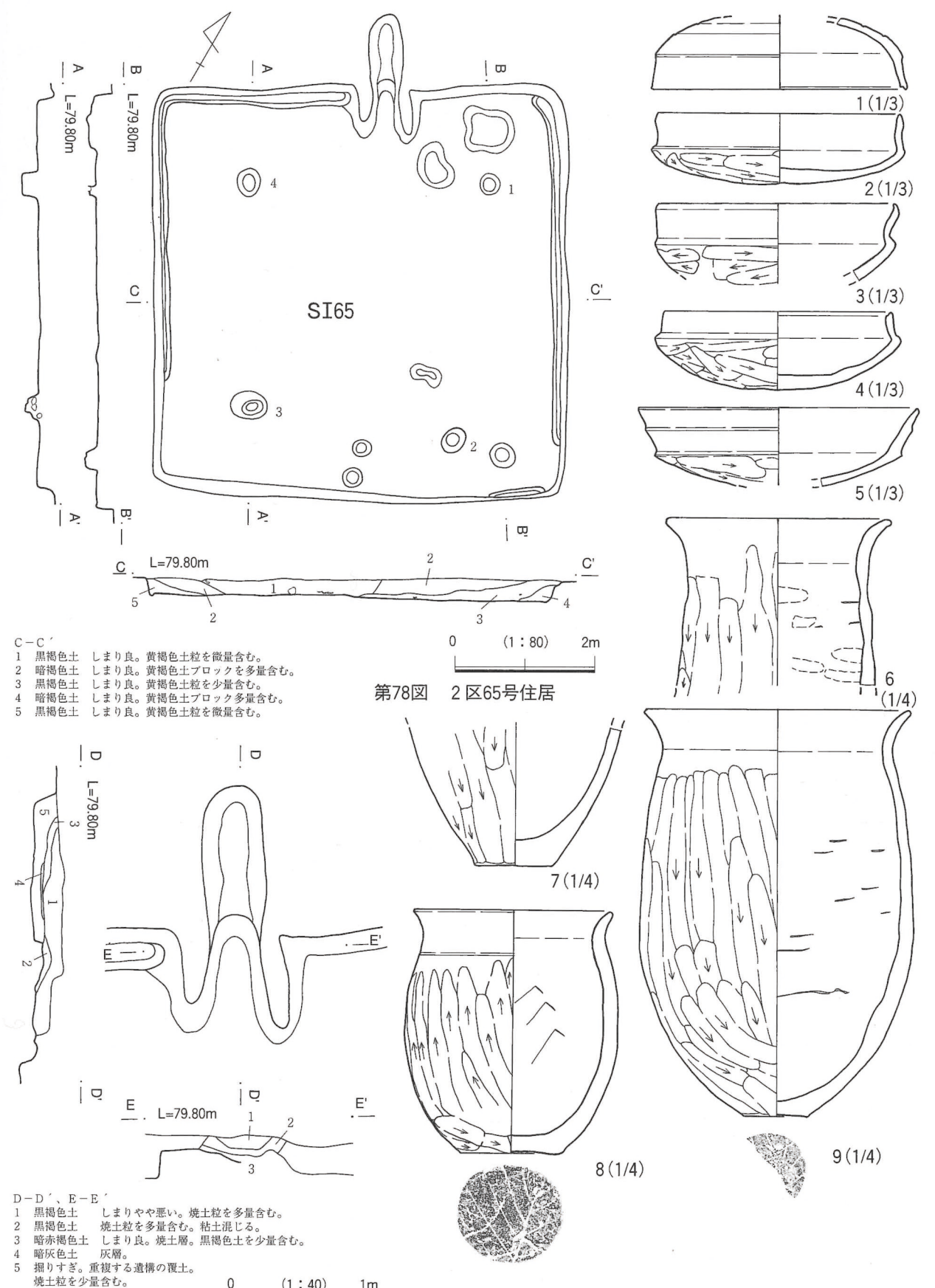
第75図 2区64号住居出土遺物



第77図 2区64号住居カマド

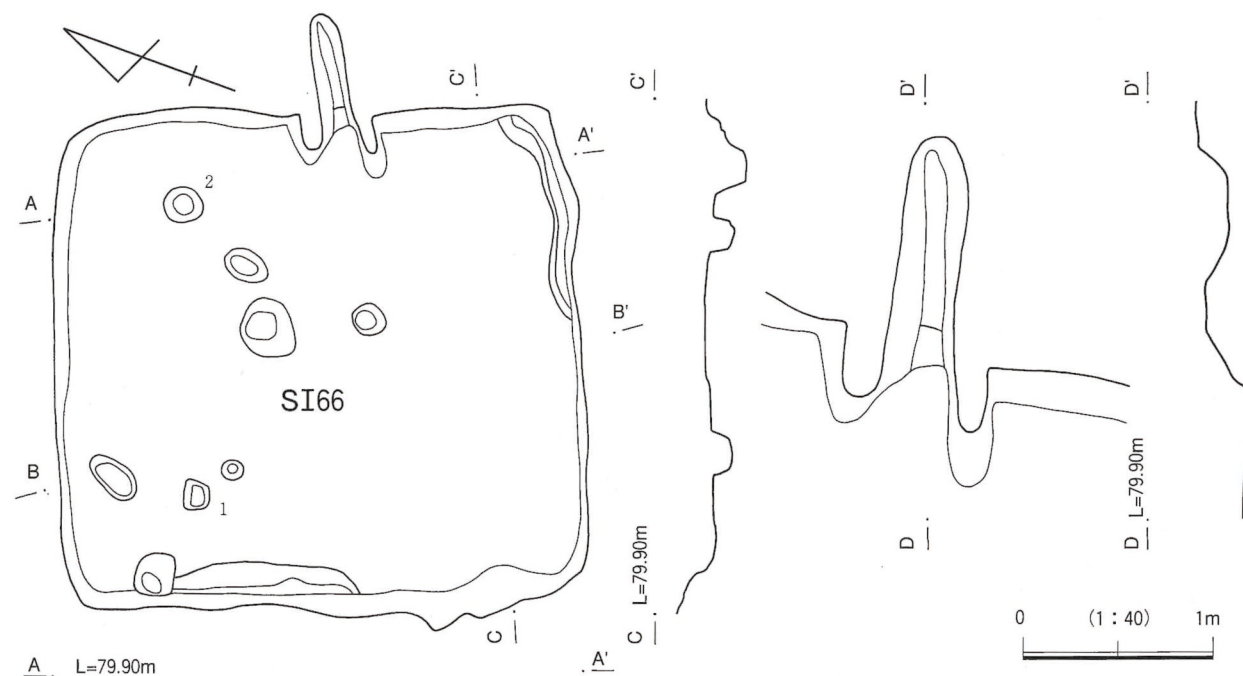
2区65号住居

位置 2区 規模形状 長辺5.95m、短辺5.90m正方形プランを呈する。残存壁高は0.30mを測る。 主軸方位 北-30°-西 重複 古墳前期の9号溝が埋没してからつくられ、70号住居を掘り込む。 床面 平坦面を形成している。 カマド 北壁中央やや東側に位置する。奥行0.90m、焚き口幅0.45m、煙道部長0.90mを測る。焚き口前に天井石と思われる凝灰岩がある。煙道は住居壁の外側に地山を掘って造られる。燃焼面から緩やか、その後水平に延びて緩やかに立ち上がっている。 柱穴 主柱穴4基、その他ピットを多数検出している。南東部の主柱穴は他に比べやや外側に出る。主柱穴 柱穴1 長軸0.30m、短軸0.28m、深さ0.16m 柱穴2 長軸0.39m、短軸0.33m、深さ0.19m 柱穴3 長軸0.54m、短軸0.40m、深さ0.22m 柱穴4 長軸0.40m、短軸0.34m、深さ0.25m 貯蔵穴 北東隅に位置する。楕円形を呈し、長軸0.70m、短軸0.60m、深さ0.16mを測る。また、カマド左袖の近くから楕円形を呈し、長軸0.66m、短軸0.44m、深さ0.17mのピットを検出している。これも、貯蔵穴として使われていた可能性がある。 その他付属施設 東・西壁、北・南壁の一部から壁周溝を検出している。幅0.20~0.30m、深さ0.05~0.10mである。 遺物 土師器甕・坏、須恵器蓋坏(蓋) 所見 須恵器蓋(1)はTK43併行期と考えられる。

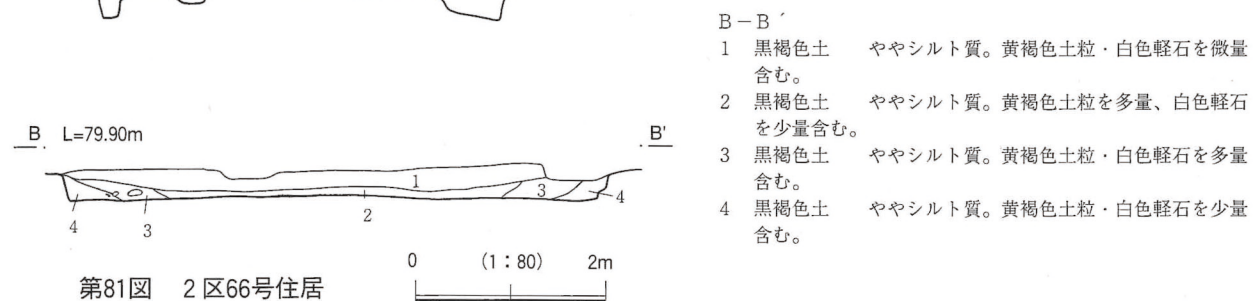


2区66号住居

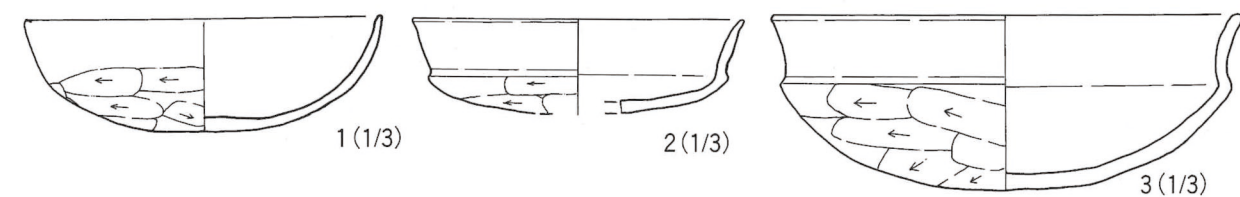
位置 2区 規模形状 長辺5.50m、短辺5.30mの正方形プランを呈す。残存壁高0.36mを測る。 主軸方位 東-23°-北 重複 67号住居を掘り込む。 床面 やや凹凸がある。 カマド 東壁中央やや南に位置する。奥行0.80m、焚き口幅0.45m、煙道部長1.00mを測る。煙道部は住居壁の外側につくられる。水平に伸びて緩やかに立ち上がっている。 柱穴 北側の主柱穴を検出している。南東・南西部の柱穴は確認できなかった。柱穴 1 長軸0.30m、短軸0.26m、深さ0.13m 柱穴 2 径0.40m、深さ0.19m 貯蔵穴 なし その他付属施設 南・西壁の一部から壁周溝を検出している。幅0.20~0.30m、深さ0.07~0.10mである。 遺物 土師器甕・坏・鉢 所見 6世紀末 備考 土師器坏は須恵器蓋坏(蓋)の模倣が主体である。有段口縁坏はない。土師器甕は、口縁が大きく外反し胴が長い。肩はあまり張らない。



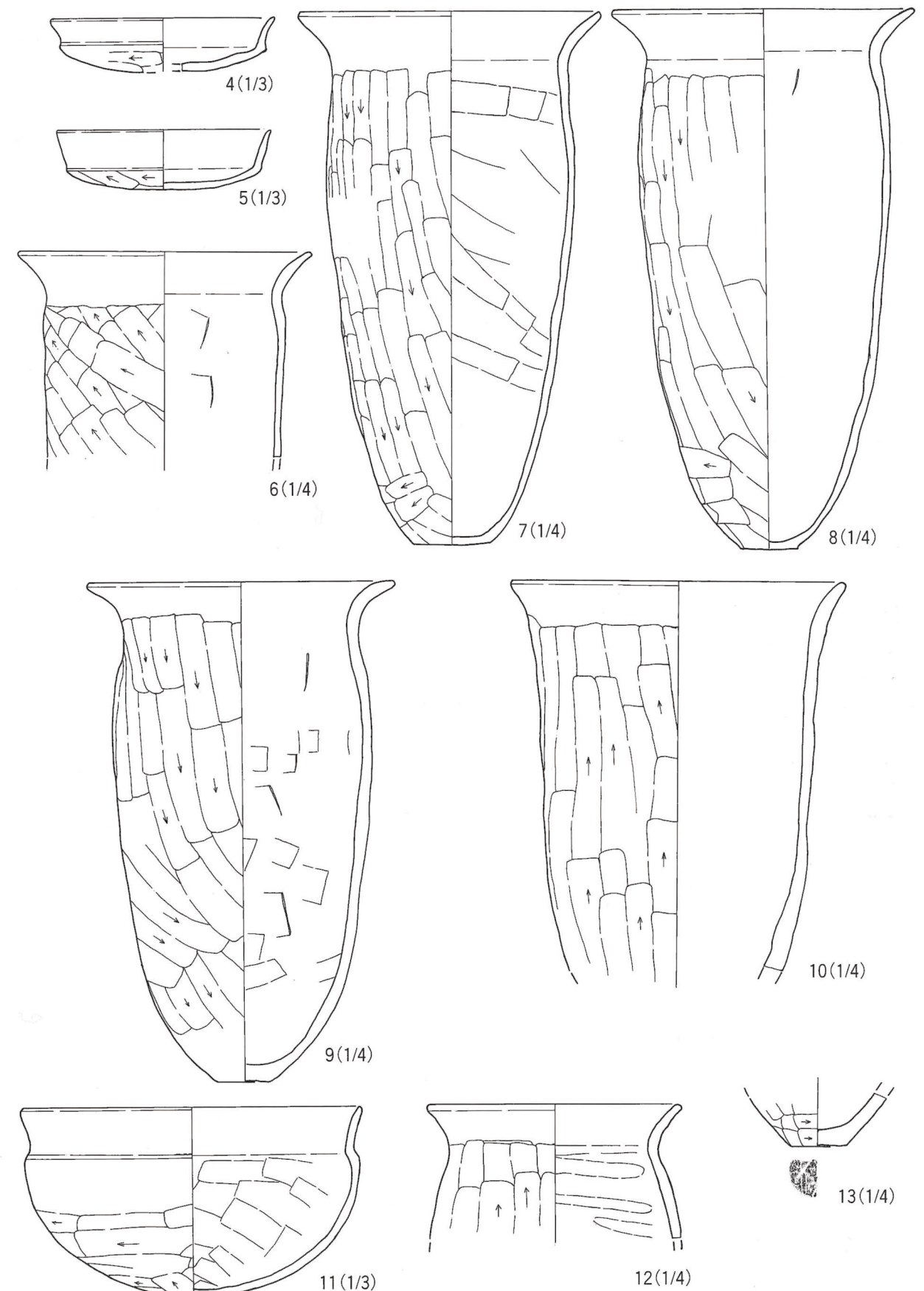
第82図 2区66号住居カマド



第81図 2区66号住居



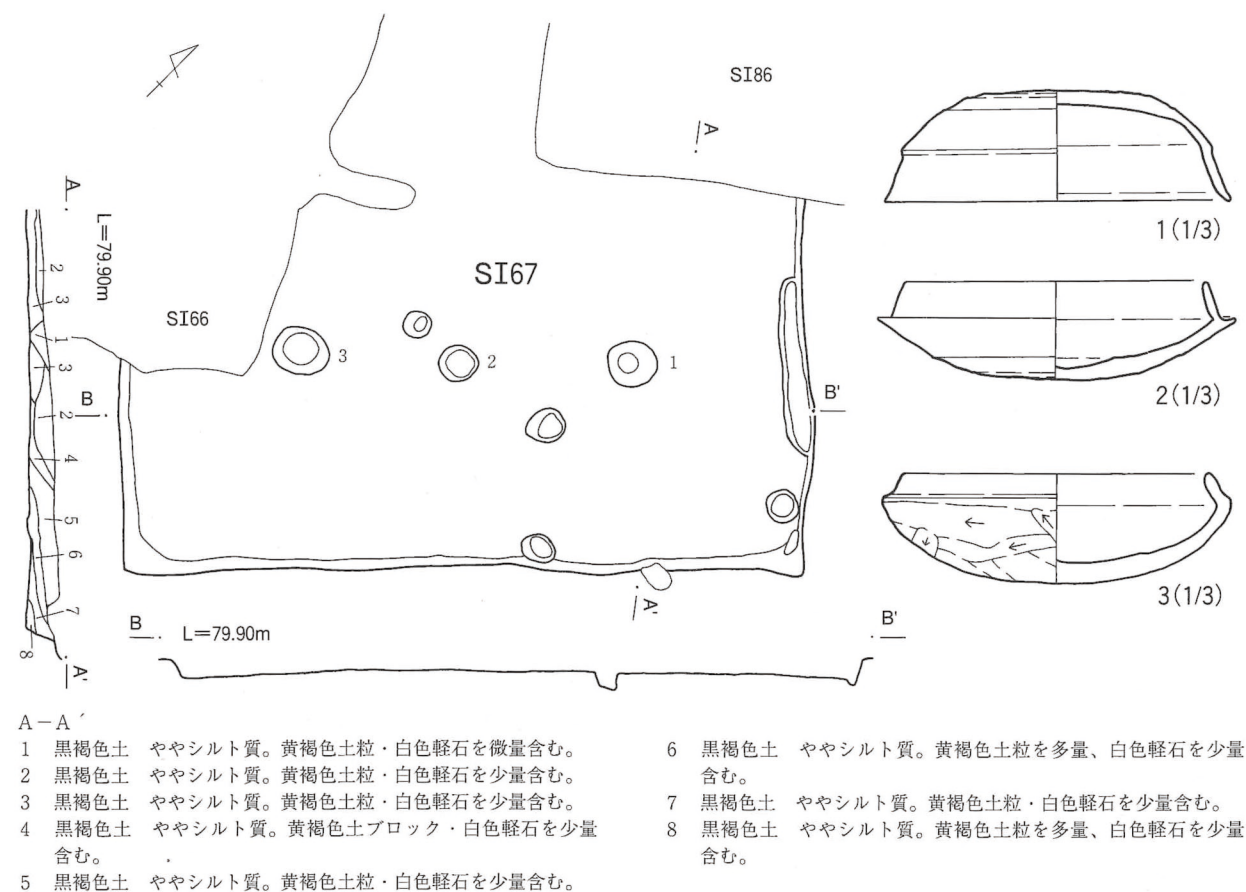
第83図 2区66号住居出土遺物-1



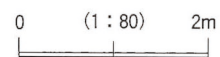
第84図 2区66号住居出土遺物-2

2区67号住居

位置 2区 規模形状 長辺7.40m、短辺4.00m+ α 、残存壁高0.35mを測る。形状は方形と推定される。主軸方位 東-35°-北 重複 66号住居に壊される。床面 ほぼ平坦である。カマド 不明 柱穴 東西に並ぶ3基と、小ピット多数を検出している。柱穴1 長軸0.54m、短軸0.48m、深さ0.33m 柱穴2 長軸0.48m、短軸0.40m、深さ0.47m 柱穴3 長軸0.60m、短軸0.50m 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器坏、須恵器蓋坏（蓋）（身） 所見 須恵器蓋坏の蓋と身は、その形態と製作技法からTK43併行期と考えられる。



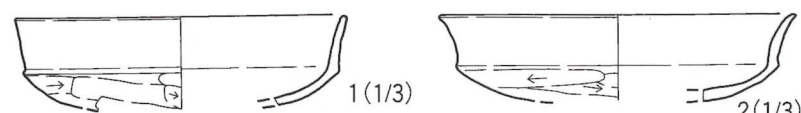
第85図 2区67号住居



第86図 2区67号住居出土遺物

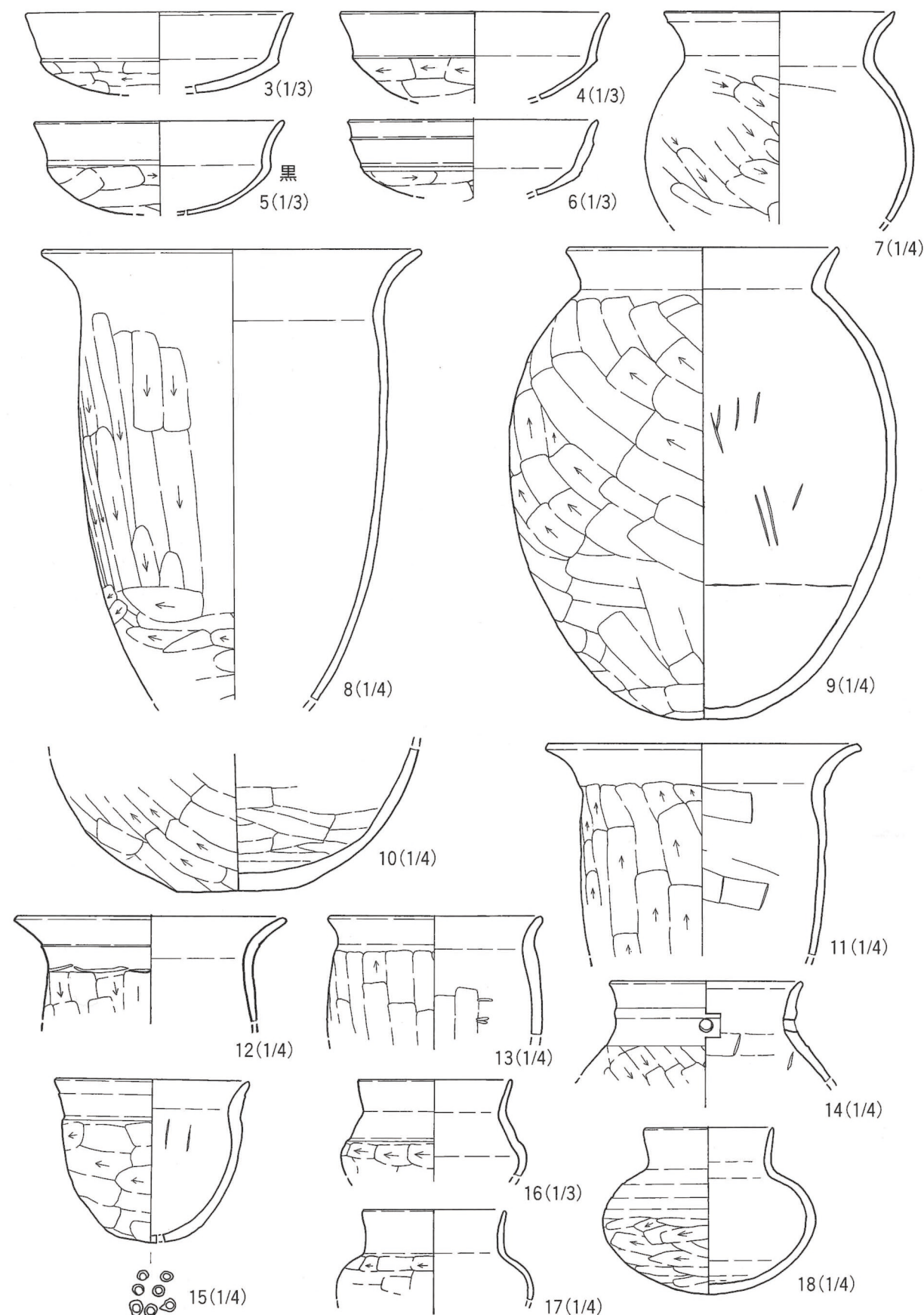
2区69号住居

位置 2区 規模形状 長辺3.56m、短辺3.45mの正方形を呈し、残存壁高0.44mを測る。主軸方位 東-17°-北 重複 64号住居を掘り込む。床面 平坦面を形成している。カマド 東壁中央部に位置する。煙道部を残すのみである。燃烧部は住居壁の内側と思われるが詳細は不明である。煙道部長は1.15mを測る。煙道住居壁の外側につくられ、水平に伸び緩やかに立ち上がっている。柱穴 3基検出している。南西部の柱穴は確認できなかった。柱穴1 長軸0.20m、短軸0.12m、深さ0.19m 柱穴2 径0.24m、深さ0.18m 柱穴3 長軸0.25m、短軸0.20m、深さ0.17m 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏・甑・短頸壺 所見 6世紀第4四半期 備考 住居中央部から北壁にかけて、覆土中から大量の川原石が出土している。

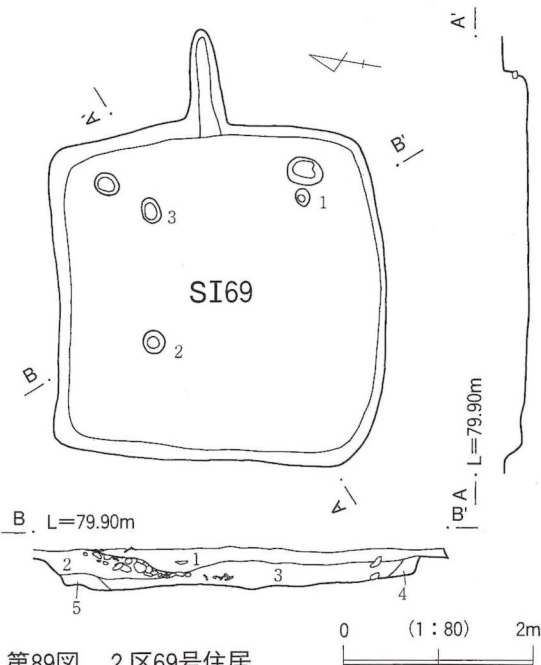


第87図 2区69号住居出土遺物-1

No16~18は、土師器短頸壺であるが、須恵器の模倣と考えられる。No14の土器は、頸部に焼成前一对の孔を穿っている。



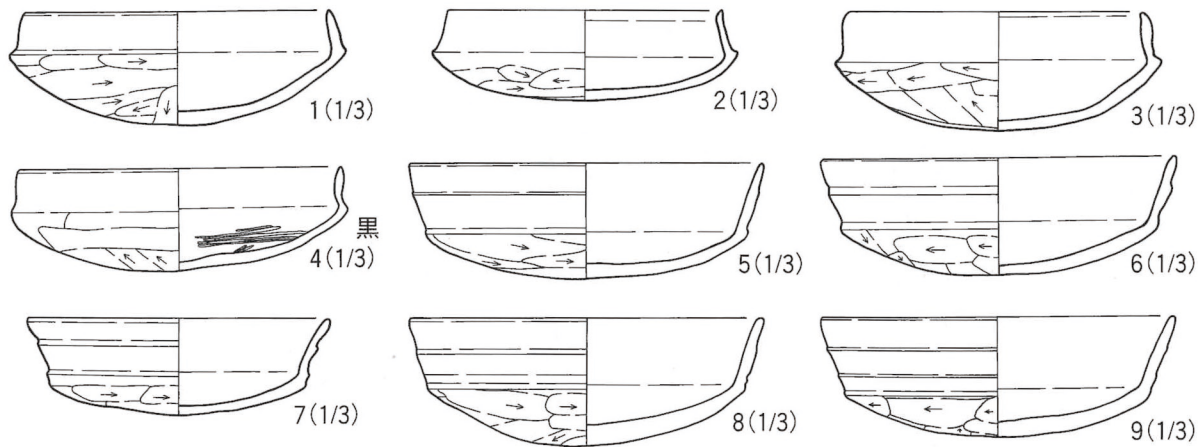
第88図 2区69号住居出土遺物-2



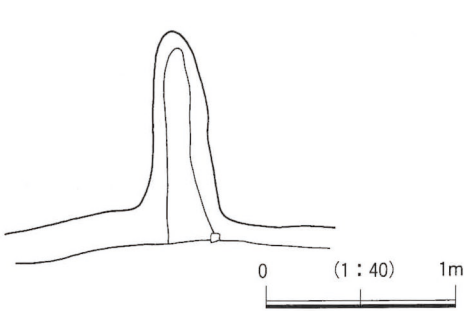
第89図 2区69号住居

2区70号住居

位置 2区 規模形状 長辺4.30m、短辺4.18mと方形を呈し、残存壁高0.20mを測る。 主軸方位 北-20°-西 重複 65号住居に壊される。 床面 平坦面を形成している。 カマド 北壁ほぼ中央部に位置する。両袖先端部と焚き口付近から凝灰岩が発見されている。袖石と天井石に凝灰岩使用と考えられる。奥行1.75m、焚き口幅は0.65m、煙道部長0.94mを測る。煙道は住居壁の外側につくられ、ほぼ水平に伸びている。 柱穴 4基検出されている。北東部の柱穴は他に比べやや内側に入る。柱穴1 径0.41m、深さ0.33m 柱穴2 長軸0.44m、短軸0.26m、深さ0.13m 柱穴3 径0.30m、深さ0.21m 柱穴4 長軸0.36m、短軸0.32m、深さ0.13m 貯蔵穴 カマド右斜め前に位置する。楕円形を呈し、長軸0.48m、短軸0.40m、深さ0.31mを測る。 その他付属施設 南・西壁と北壁一部から壁周溝が検出されている。幅0.20~0.30m、深さ0.03~0.05mである。 遺物 土師器杯・甕・甑 所見 6世紀後半

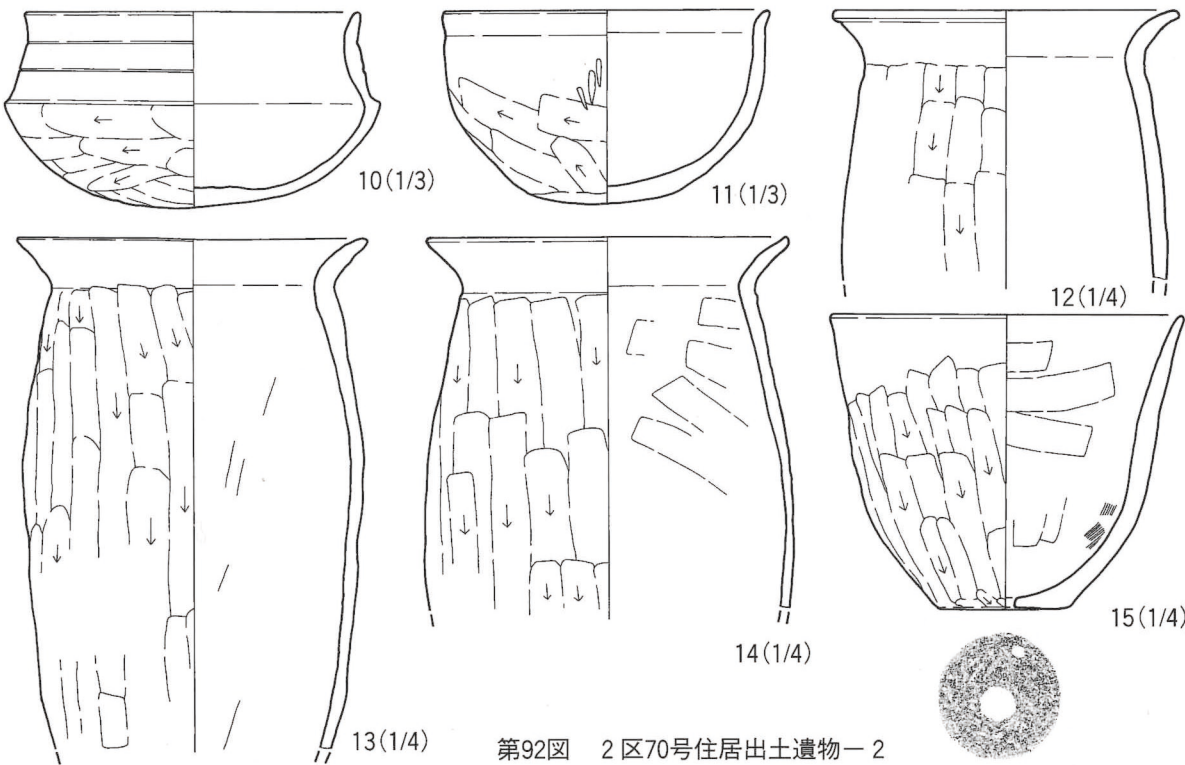


第91図 2区70号住居出土遺物-1

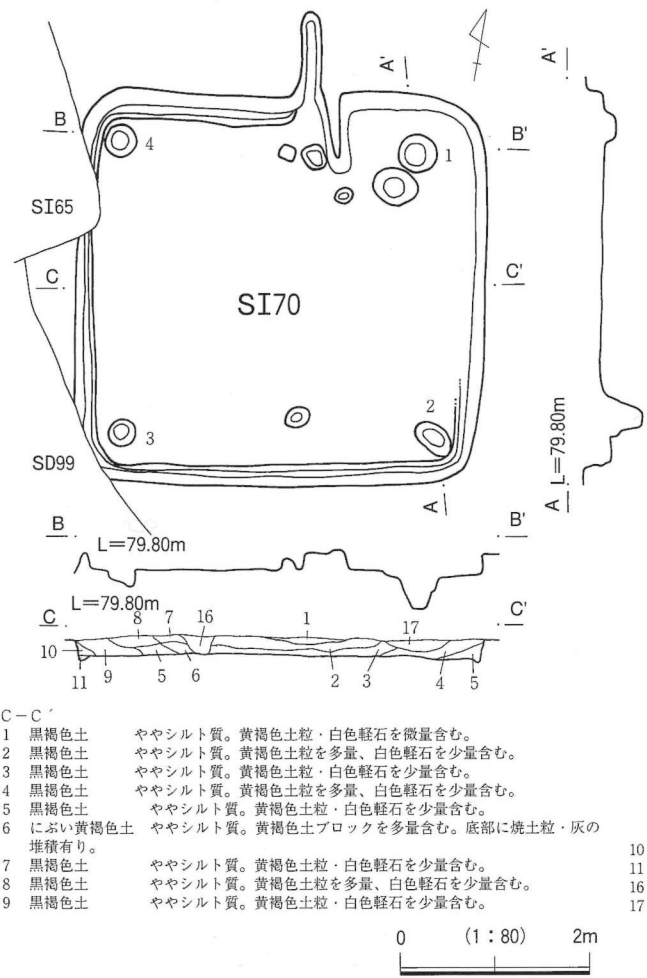


第90図 2区69号住居カマド

- B-B'
- 1 黒褐色土 しまり良。
 - 2 黒褐色土 しまり良。礫多量に含む。
 - 3 黒褐色土 しまり良。
 - 4 黒褐色土 しまり良。黄褐色土ブロックを多量含む。
 - 5 黒褐色土 しまり良。黄褐色土ブロックを多量含む。

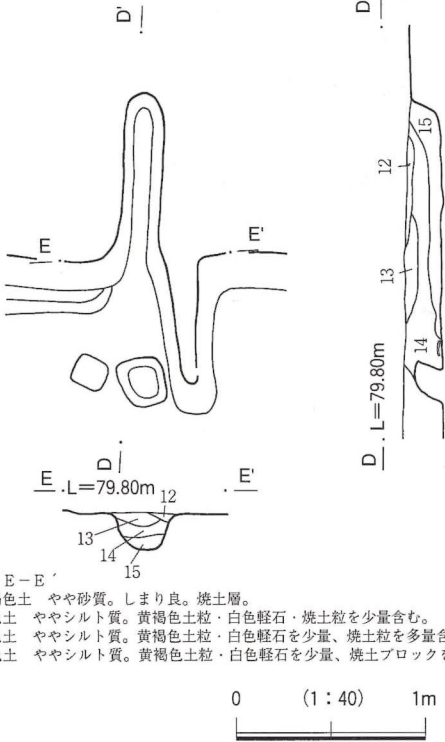


第92図 2区70号住居出土遺物-2



第93図 2区70号住居

- C-C'
- 1 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒・白色軽石を微量含む。
 - 2 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒を多量、白色軽石を少量含む。
 - 3 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。
 - 4 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒を多量、白色軽石を少量含む。
 - 5 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。
 - 6 にくい黄褐色土 ややしilt質。黄褐色土ブロックを多量含む。底部に焼土粒・灰の堆積有り。
 - 7 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。
 - 8 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒を多量、白色軽石を少量含む。
 - 9 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。

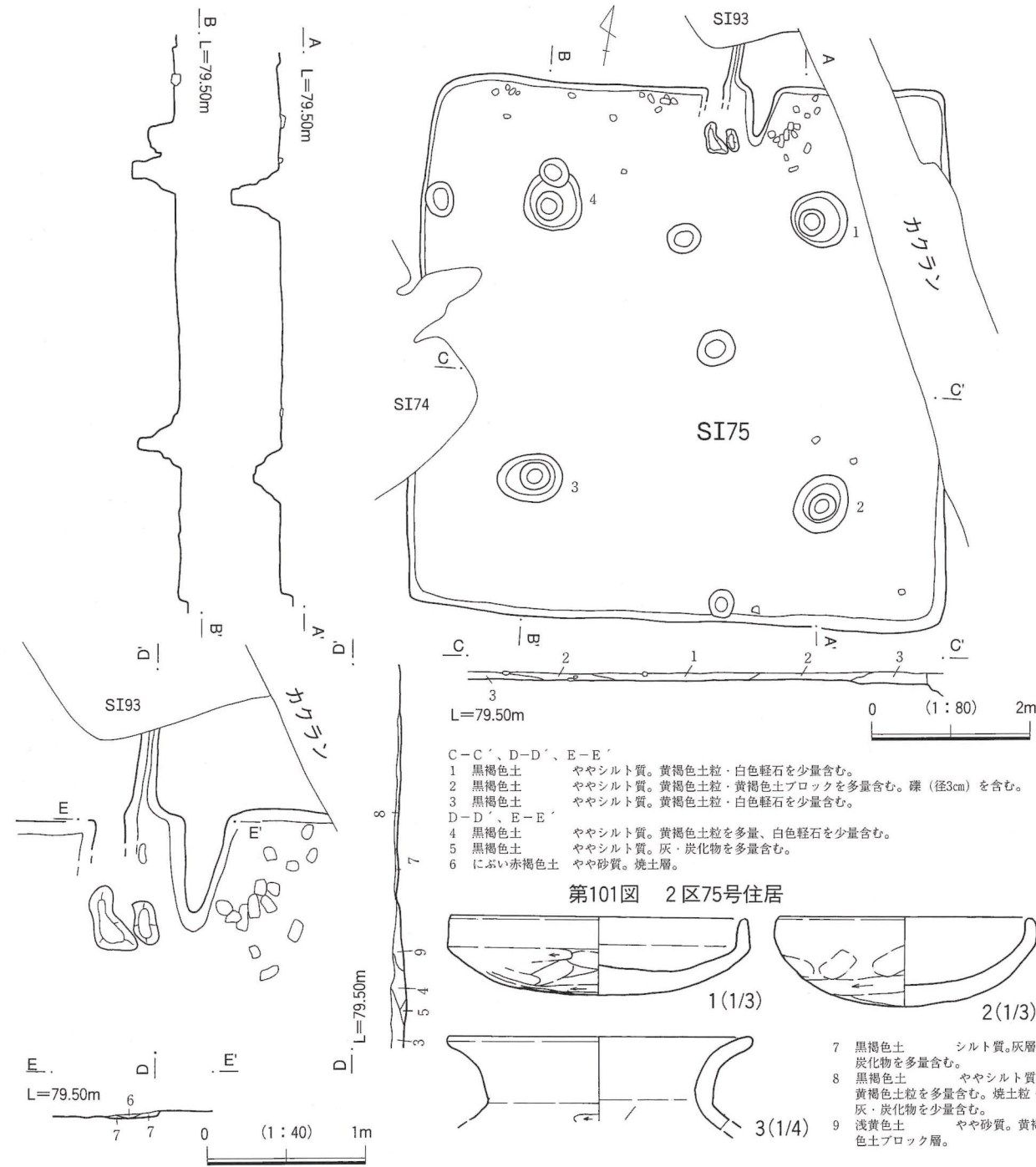


第94図 2区70号住居カマド

- D-D', E-E'
- 12 明赤褐色土 やや砂質。しまり良。焼土層。
 - 13 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒・白色軽石・焼土粒を少量含む。
 - 14 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒・白色軽石を少量、焼土粒を多量含む。
 - 15 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒・白色軽石を少量、焼土ブロックを多量含む。

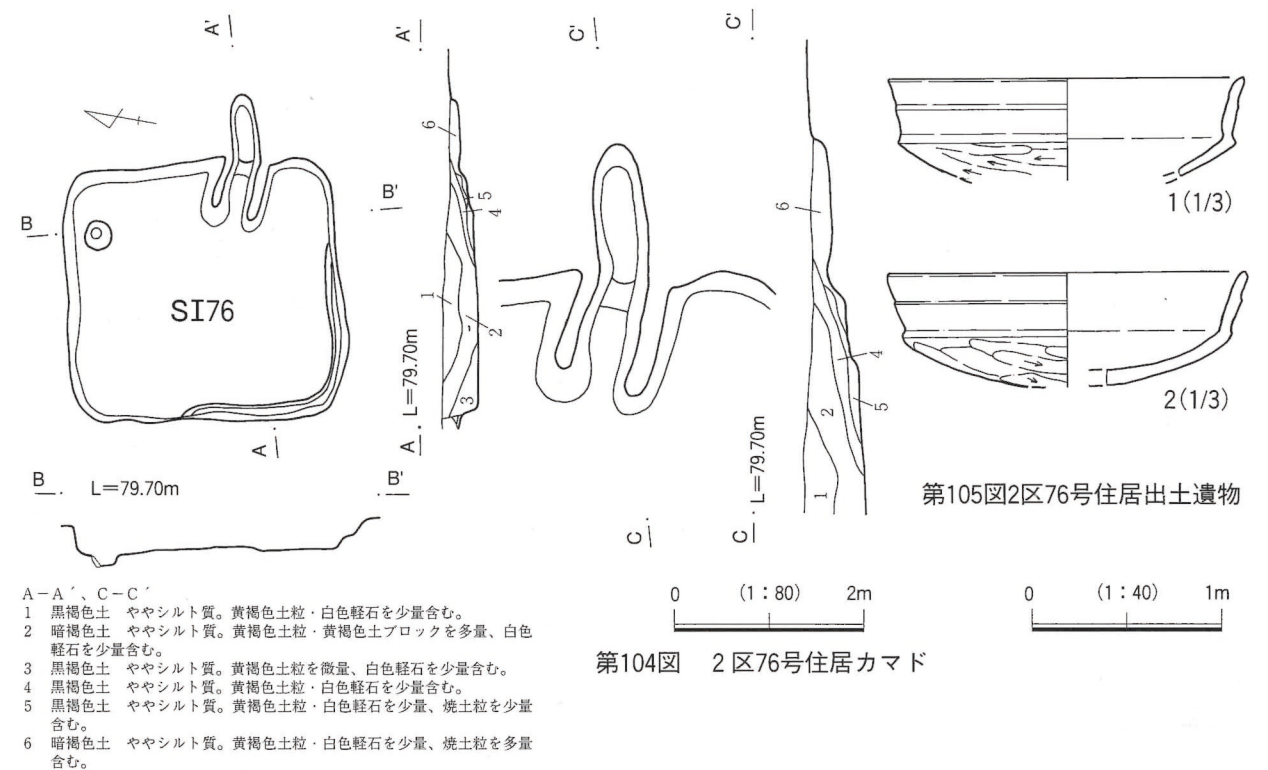
- 10 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒を多量、白色軽石を少量含む。
- 11 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒・黄褐色土ブロックを少量含む。
- 16 黒褐色土 やや砂質。黄褐色土粒・白色軽石を微量含む。
- 17 黒褐色土 ややしilt質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。

袖石に凝灰岩が使われていると考えられる。煙道部は住居壁の外側につくられる。 柱穴 主柱穴を4基と小ピットを幾つか検出している。柱穴1 長軸0.74m、短軸0.68m、深さ0.41m 柱穴2 長軸0.78m、短軸0.63m、深さ0.34m 柱穴3 長軸0.84m、短軸0.62m、深さ0.39m 柱穴4 長軸0.72m、短軸0.71m、深さ0.42m 貯蔵穴 カマド右脇にあると考えられるが、現代の溝に壊され不明である。 その他付属施設 なし 遺物 土師器坏・甕 所見 6世紀中葉



2区76号住居

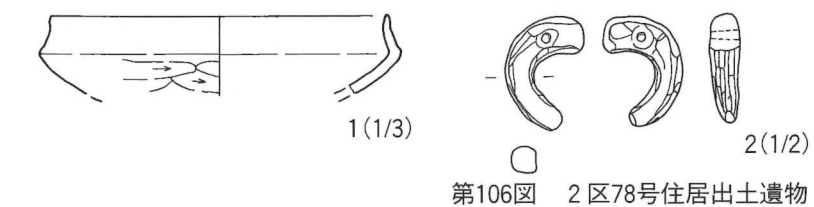
位置 2区 規模形状 一辺2.85mの正方形プランを呈す小形の住居跡である。残存壁高は0.40mを測る。 主軸方位 東-10°-北 重複 96号住居を掘り込む。 床面 ほぼ平坦面である。 カマド 東壁中央やや南に位置する。奥行0.70m、焚き口幅0.35m、煙道部長0.72mを測る。煙道は住居壁の外側につくられ、ほぼ水平に伸びている。 柱穴 1基検出。 貯蔵穴 不明 その他付属施設 南壁中央部から南西コーナー、西壁中央部までの間で壁周溝が検出されている。幅0.12~0.20m、深さ0.03~0.05mである。 遺物 土師器坏 所見 6世紀後半。土師器坏は有段口縁坏である。口径がかなり大きい。

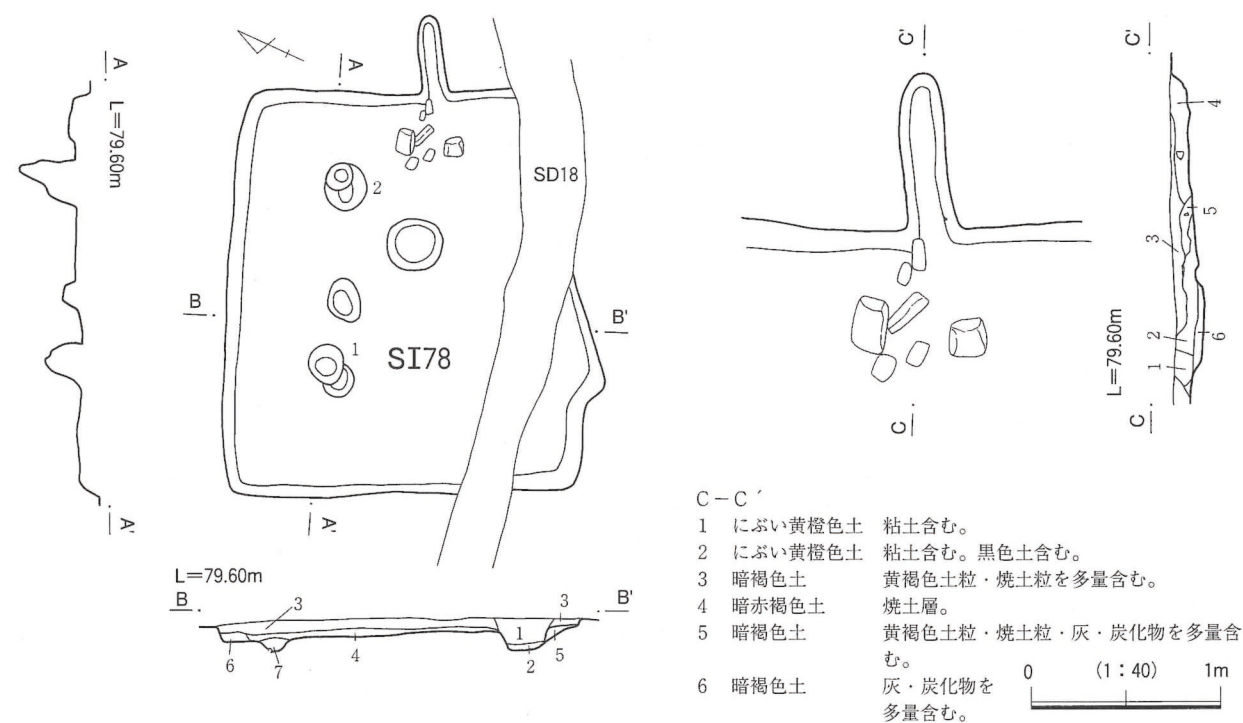


第104図 2区76号住居カマド

2区78号住居

位置 2区 規模形状 長辺4.20m、短辺4.02mとほぼ正方形プランを呈す。残存壁高は0.20mを測る。 主軸方位 東-30°-北 重複 18号溝に壊される。 床面 黄褐色土粒を含む黒褐色土で、厚さ0.05~0.10mの貼床としている。ほぼ平坦な床面で、よく踏み固められている。 カマド 東壁中央やや南に位置する。カマドは残りが悪い。燃烧部は殆ど残っていなかった。煙道部長0.95mを測る。袖石の凝灰岩が据えられた状態で、また天井石の凝灰岩が焚き口部分に落ちて碎けた状態で出土した。煙道は住居壁の外側につくられ、ほぼ水平に伸びている。 柱穴 北側で主柱穴が2基検出されている。住居南部が18号溝に壊されているため、南東・南西部の柱穴は確認できなかった。 柱穴1 長軸0.42m、短軸0.40m、深さ0.39m 柱穴2 長軸0.50m、短軸0.44m、深さ0.61m 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器坏、滑石製勾玉 所見 6世紀後半





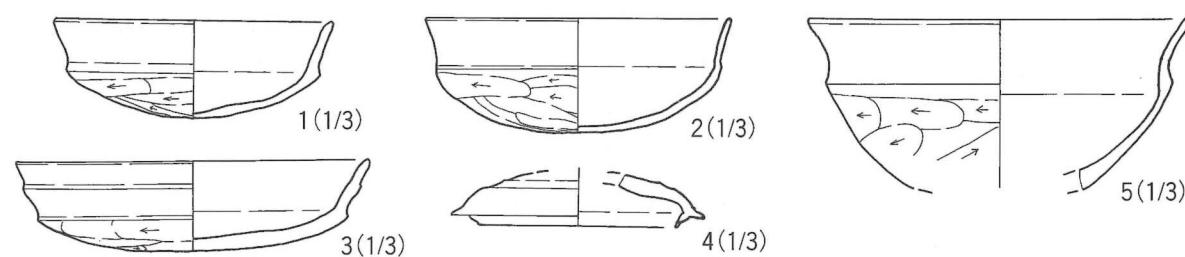
- B-B' 1 黒色土 しまり良。黄褐色土粒を少量、小礫（径0.5cm）を微量含む。 2 黒褐色土 しまり良。黄褐色土粒を多量含む。 3 黒褐色土 しまり良。黄褐色土粒を少量含む。 4 黒褐色土 しまり良。黄褐色土を層状に含む。
- C-C' 1 にぶい黄橙色土 粘土含む。 2 にぶい黄橙色土 粘土含む。黒色土含む。 3 暗褐色土 黄褐色土粒・焼土粒を多量含む。 4 暗赤褐色土 焼土層。 5 暗褐色土 黄褐色土粒・焼土粒・灰・炭化物を多量含む。 6 暗褐色土 灰・炭化物を多量含む。

0 (1:80) 2m

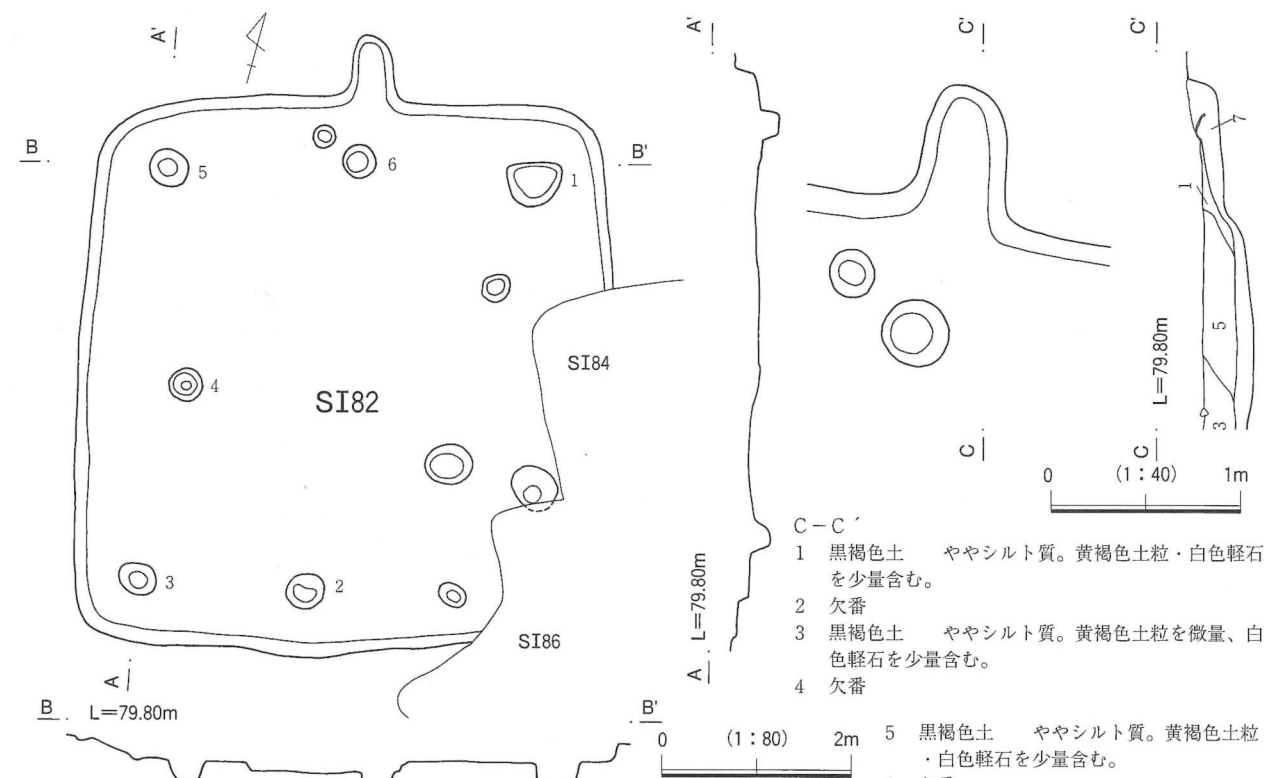
第107図 2区78号住居・カマド

2区82号住居

位置 2区 **規模形状** 長辺5.90m、短辺5.40mと方形プランを呈する。残存壁高は0.40mである。 **主軸方位** 北-30°-西 **重複** 83・86号住居を掘り込み、84号住居に壊される。 **床面** カマド前は黄褐色土粒を含む黒褐色土で厚さ0.10m程の貼床としており、よく踏み固められている。 **カマド** 北壁中央部に位置する。煙道部のみ残っている。焼土粒の堆積状況から燃焼部は住居壁の内側にあったと考えられる。 **柱穴** 6基検出されている。南東部は他の住居に壊されているため確認できなかった。 **柱穴1** 長軸0.48m、短軸0.46m、深さ0.37m **柱穴2** 長軸0.41m、短軸0.38m、深さ0.23m **柱穴3** 長軸0.42m、短軸0.32m、深さ0.22m **柱穴4** 径0.34m、深さ0.16m **柱穴5** 長軸0.42m、短軸0.38m、深さ0.22m **柱穴6** 径0.34m、深さ0.20m **貯蔵穴** 不明 **その他付属施設** なし **遺物** 土師器・鉢、須恵器高坏蓋、砥石 **所見** 須恵器の小型蓋（4）は、TK209併行期に位置づけられる。



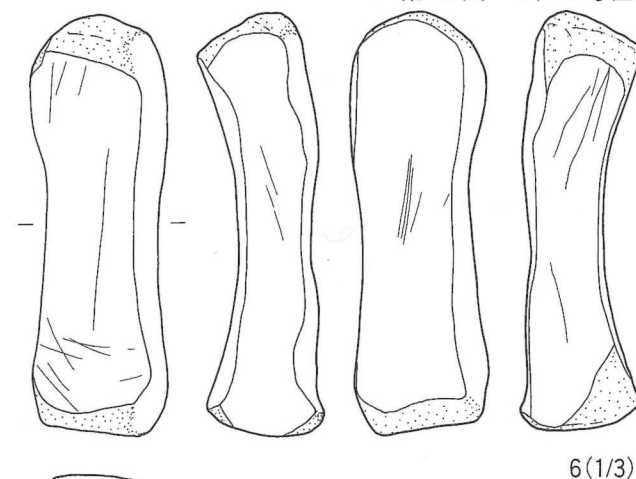
第108図 2区82号住居出土遺物



- C-C' 1 黒褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。 2 欠番 3 黒褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒を微量、白色軽石を少量含む。 4 欠番

B-B' 1 黒褐色土 しまり良。黄褐色土粒を少量、小礫（径0.5cm）を微量含む。 2 黒褐色土 しまり良。黄褐色土粒を多量含む。 3 黒褐色土 しまり良。黄褐色土粒を少量含む。 4 黒褐色土 しまり良。黄褐色土を層状に含む。

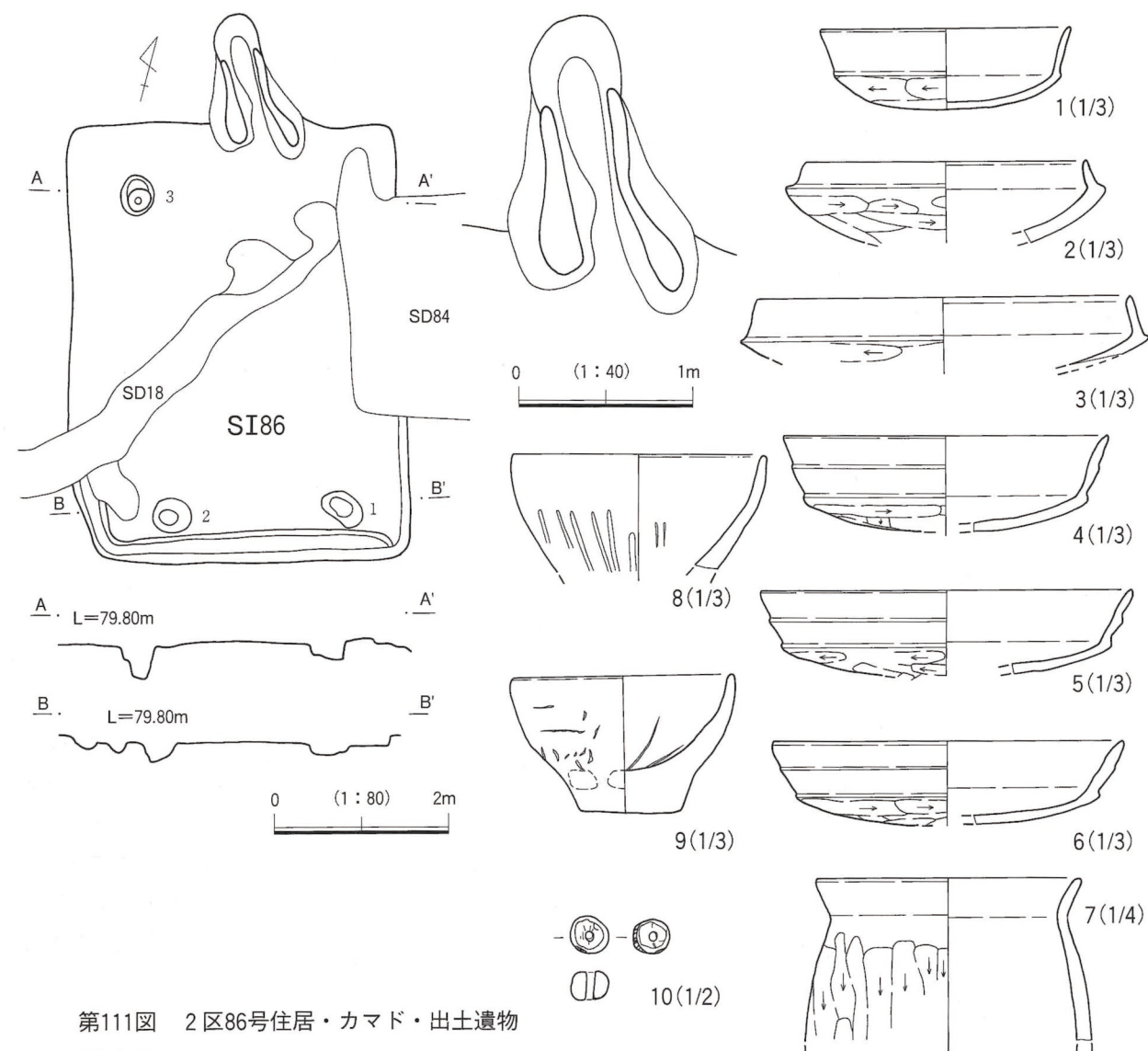
第109図 2区82号住居・カマド



第110図 2区82号住居出土遺物

2区86号住居

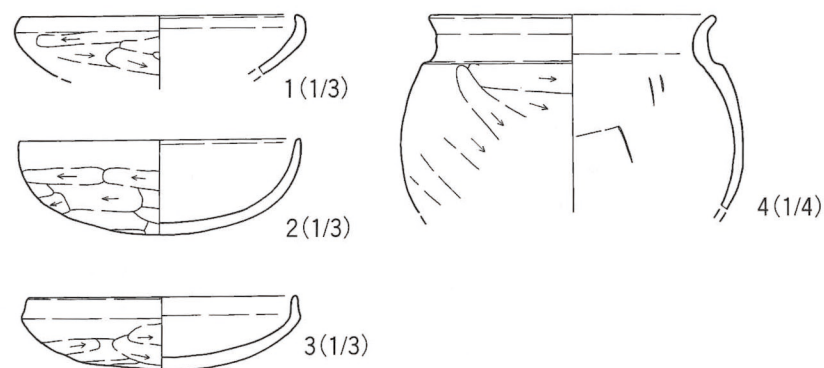
位置 2区 **規模形状** 長辺6.35m、短辺3.79mと長方形を呈する。残存壁高は0.10mを測る。 **主軸方位** 西-44°-南 **重複** 82号・85号住居を掘り込み、84号住居、18号溝に壊される。 **床面** ほぼ平坦であるが、多少の凹凸がみられる。 **カマド** 西壁中央やや北側に位置する。奥行1.76m、焚き口幅0.35mを測る。 **柱穴** 3基検出されている。北西部の柱穴は確認できなかった。 **柱穴1** 長軸0.50m、短軸0.30m、深さ0.14m **柱穴2** 長軸0.40m、短軸0.38m、深さ0.24m **柱穴3** 長軸0.45m、短軸0.38m、深さ0.36m **貯蔵穴** 不明 **その他付属施設** 東壁で壁周溝が検出されている。幅0.35m前後、深さ0.02~0.05mである。 **遺物** 土師器・甕、坏、小型粗製土器、石製模造品白玉 **所見** 6世紀中葉



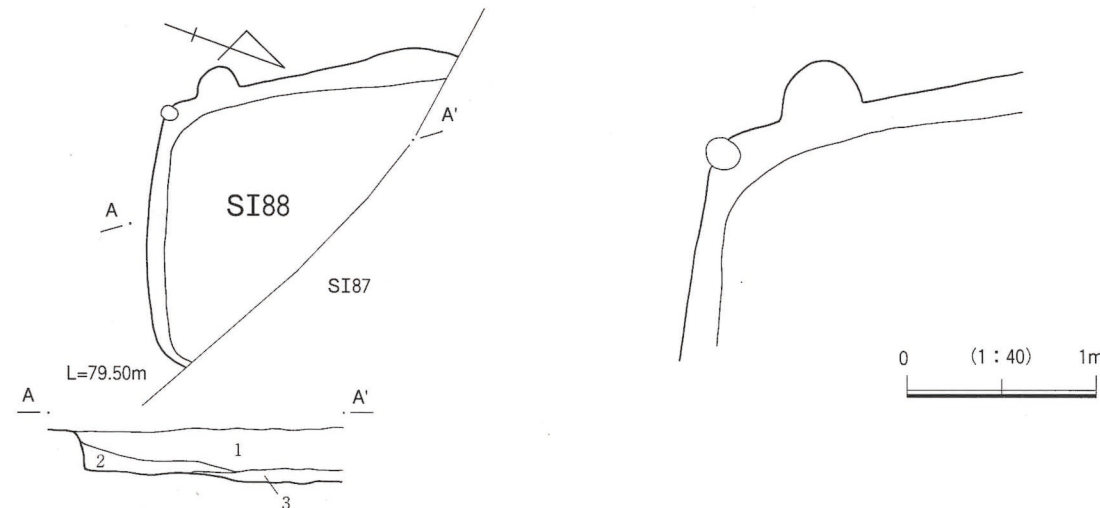
第111図 2区86号住居・カマド・出土遺物

2区88号住居

位置 2区 規模形状 長辺2.95m + α 、短辺2.90m + α 、残存壁高0.56mを測る。住居の半分以上が調査区外のため未調査であるが、形状は方形と推定される。 主軸方位 北 -40° - 西 重複 87号・94号住居を掘り込む。 床面 住居中央部では黄褐色土粒を含む黒褐色土で厚さ0.10~0.15mの貼床としている。 カマド 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏 所見 7世紀後半、No 1 は内屈口縁坏、No 2 は半球形、No 3 は口縁が小さく立つ。



第112図 2区88号住居出土遺物



第113図 2区88号住居・カマド

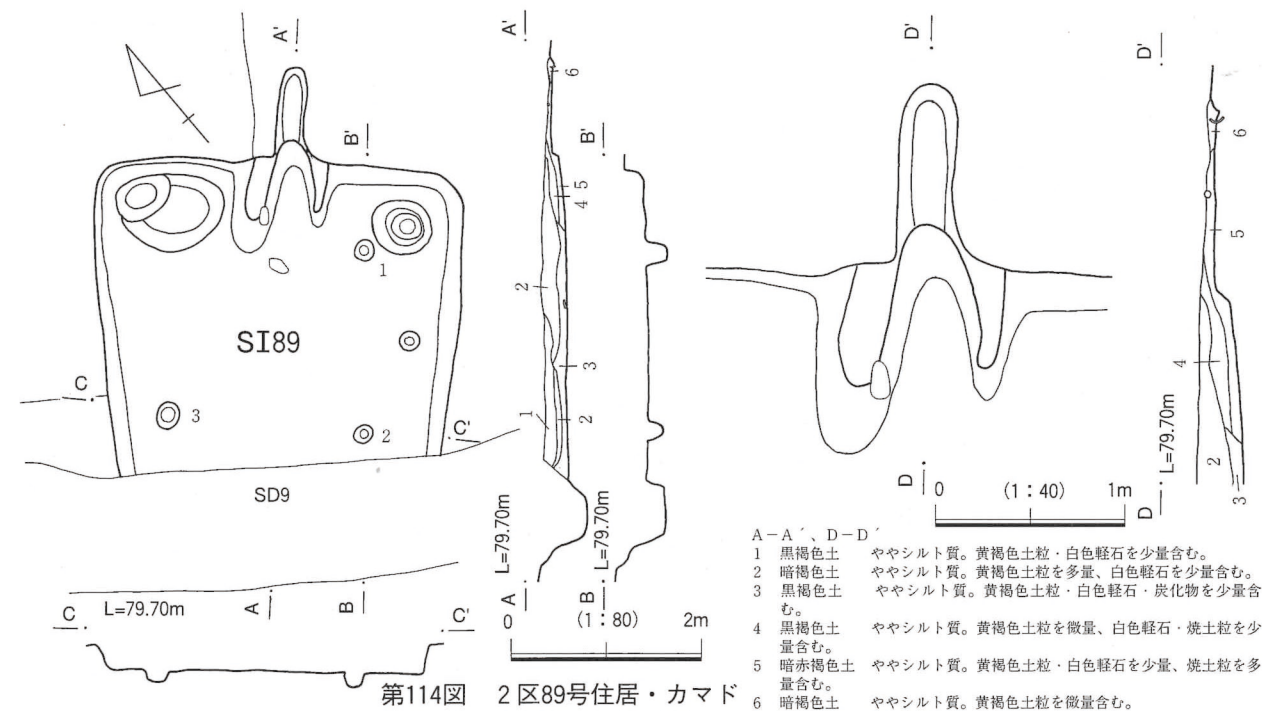
A-A'

- 1 暗褐色土 やや粘質。しまり良。黄褐色土粒を少量含む。小礫(径1~5cm)を少量含む。
2 暗褐色土 しまり良。黄褐色土粒を微量含む。
3 黒褐色土 やや粘質。しまり良。黄褐色土粒を少量含む。

0 (1:80) 2m

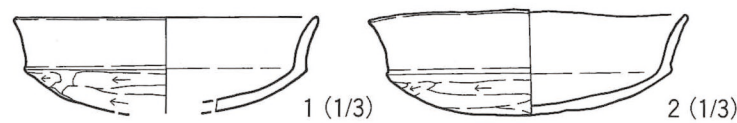
2区89号住居

位置 2区 規模形状 長辺4.19m + α 、短辺3.77m、残存壁高0.28mを測る。形状は長方形と推定される。 主軸方位 東 -30° - 北 重複 96号・97号住居を掘り込む。 床面 平坦面を形成している。 カマド 東壁中央部に位置する。奥行1.20m、焚き口幅0.50m、煙道部長0.75mを測る。煙道部は住居壁の外側つくられ、水平に伸びている。 柱穴 主柱穴が3基検出されている。 柱穴1 長軸0.22m、短軸0.20m、深さ0.05m 柱穴2 長軸0.20m、短軸0.18m、深さ0.13m 柱穴3 長軸0.28m、短軸0.24m、深さ0.16m 貯蔵穴 南東隅に位置する。楕円形を呈し、長軸0.60m、短軸0.58m、深さ0.26mを測る。 その他付属施設 なし 遺物 土師器坏 所見 6世紀末



第114図 2区89号住居・カマド

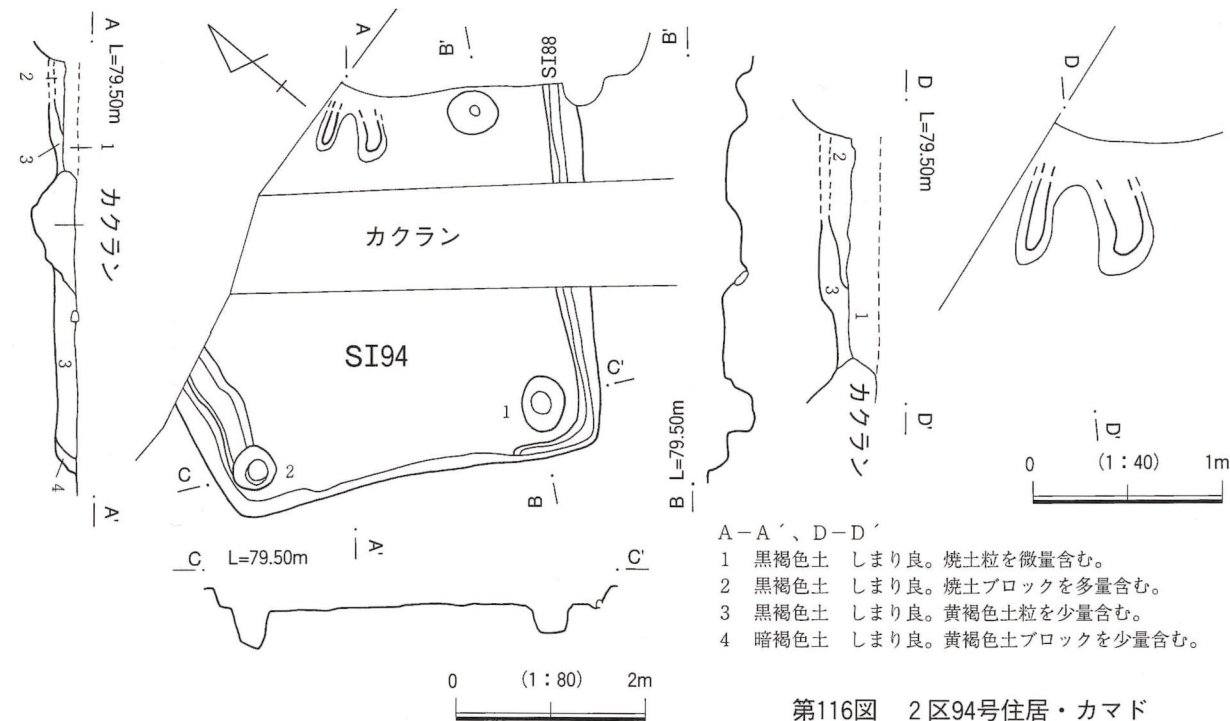
- A-A', D-D'
1 黒褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。
2 暗褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒を多量、白色軽石を少量含む。
3 黒褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒・白色軽石・炭化物を少量含む。
4 黒褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒を微量、白色軽石・焼土粒を少量含む。
5 暗赤褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒・白色軽石を少量、焼土粒を少量含む。
6 暗褐色土 ややシルト質。黄褐色土粒を微量含む。



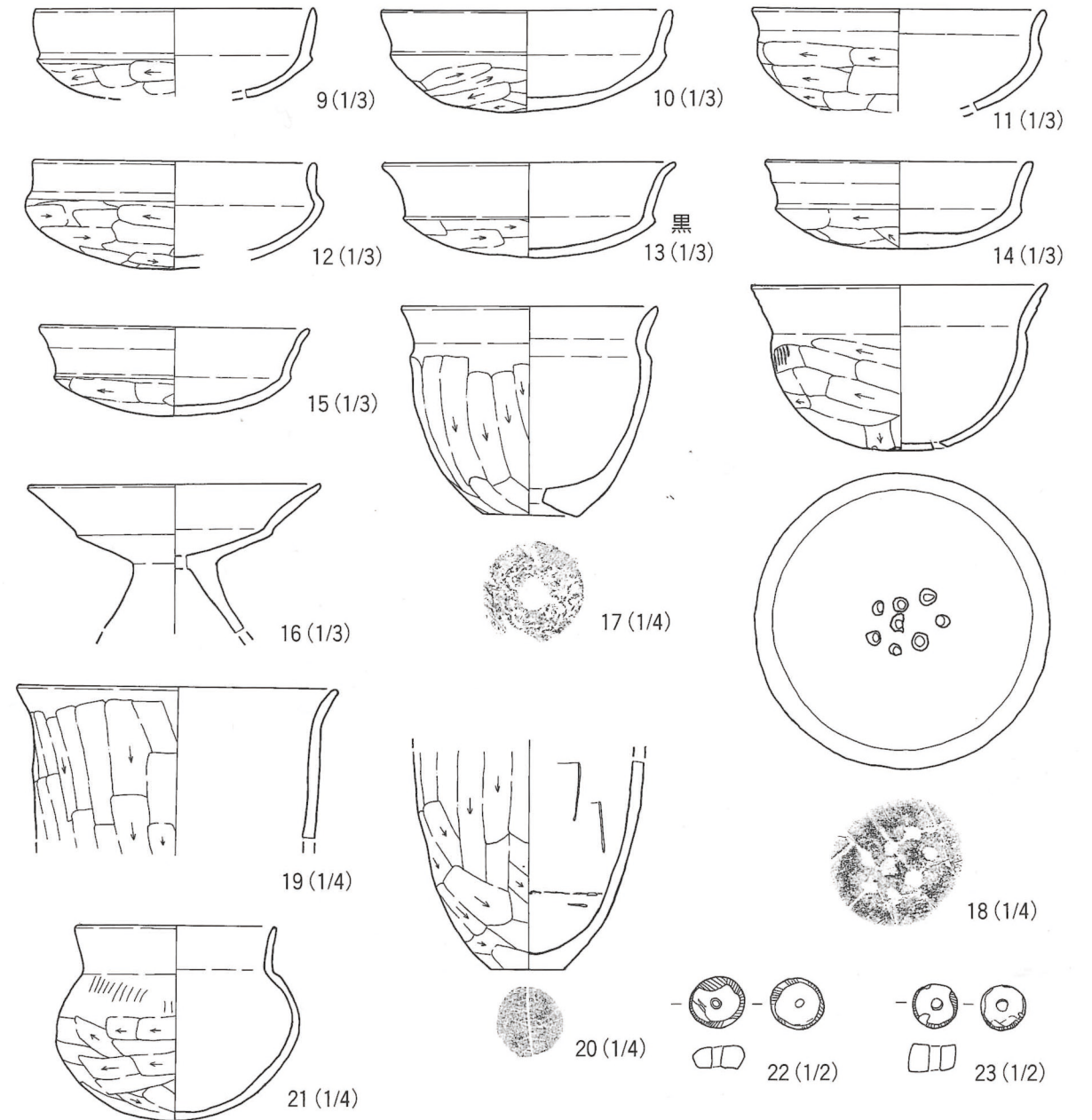
第115図 2区89号住居出土遺物

2区94号住居

位置 2区 規模形状 長辺4.51m、短辺3.98m+ α 、残存壁高0.20mを測る。形状は方形と推定される。主軸方位 東-38°-北 重複 88号住居、現況溝に壊される。床面 平坦面を形成している。カマド 東壁ほぼ中央に位置する。燃焼部の一部と煙道部は88号住居により壊されていた。奥行0.60m+ α 、焚き口幅0.35mを測る。両袖の残りも良くないが、先端部から袖石の凝灰岩がほぼ使用時の状態で出土した。柱穴 主柱穴は2基検出されている。柱穴1 長軸0.60m、短軸0.48m、深さ0.50m 柱穴2 長軸0.44m、短軸0.43m、深さ0.48m 貯蔵穴 カマドの右側に位置する。楕円形を呈し、長軸0.52m、短軸0.46m、深さ0.21mを測る。周辺からはほぼ完形の土師器坏が出土している。その他付属施設 北・南壁に壁周溝が巡っている。幅0.15~0.50m、深さ0.05~0.10mである。遺物 土師器甕・甔・坏・高坏、石製模造品白玉 所見 6世紀末 備考 ヒスイ製大珠（縄文）が出土。

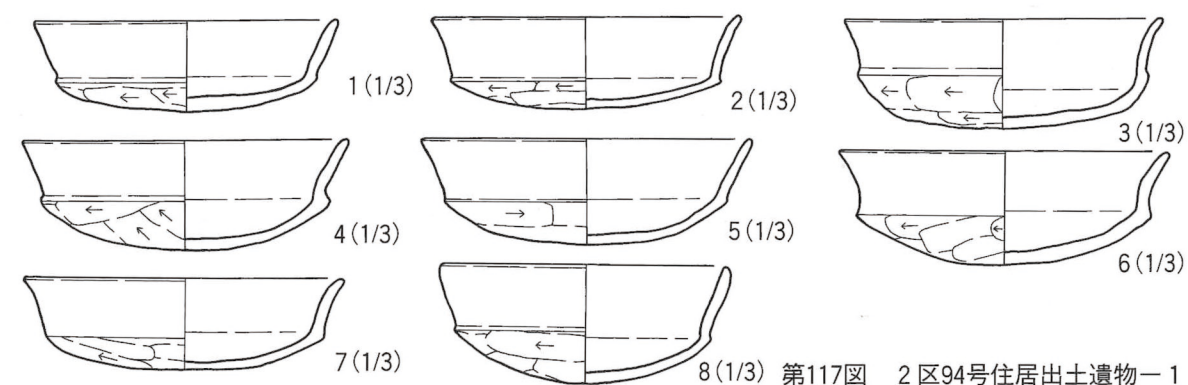


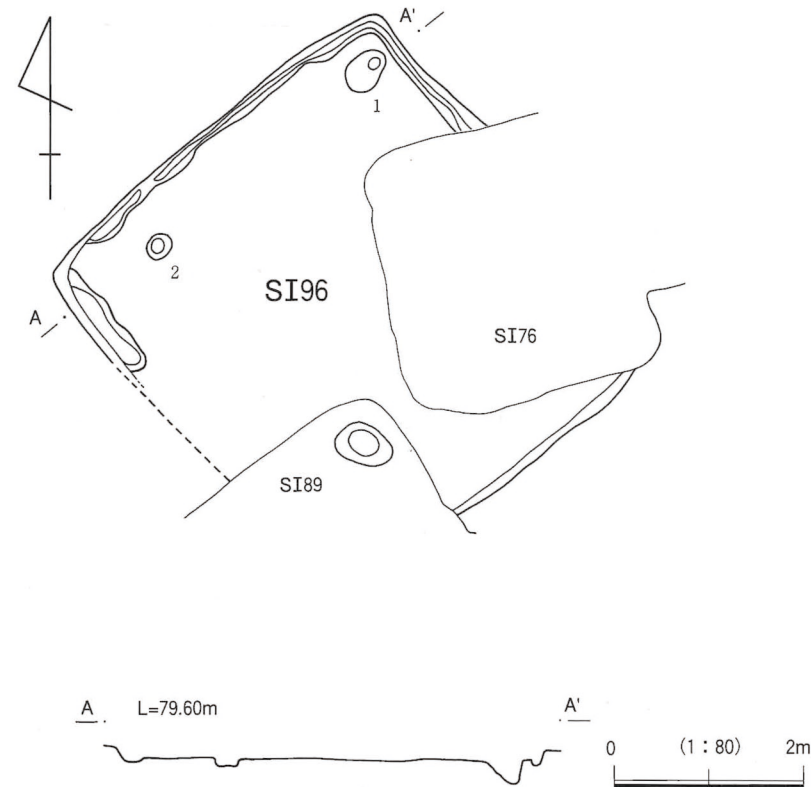
- A-A'、D-D'
- 1 黒褐色土 しまり良。焼土粒を微量含む。
 - 2 黒褐色土 しまり良。焼土ブロックを多量含む。
 - 3 黒褐色土 しまり良。黄褐色土粒を少量含む。
 - 4 暗褐色土 しまり良。黄褐色土ブロックを少量含む。



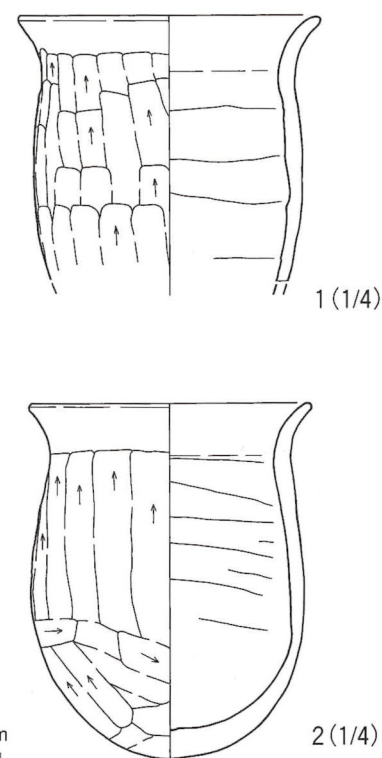
2区96号住居

位置 2区 規模形状 長辺4.97m、短辺4.53mとほぼ正方形プランを呈す。残存壁高0.28mを測る。主軸方位 北-45°-西 重複 97号住居を掘り込み、76・89号住居に壊される。床面 黄褐色土で厚さ0.03~0.07mの貼床としており、よく踏み固められている。カマド 不明 柱穴 主柱穴が2基検出されている。柱穴1 長軸0.50m、短軸0.28m、深さ0.26m 柱穴2 長軸0.29m、短軸0.22m、深さ0.11m 貯蔵穴 不明 その他付属施設 北・東・西壁で壁周溝が検出されている。幅0.20~0.30m、深さ0.10m程である。遺物 土師器甕 所見 6世紀後半





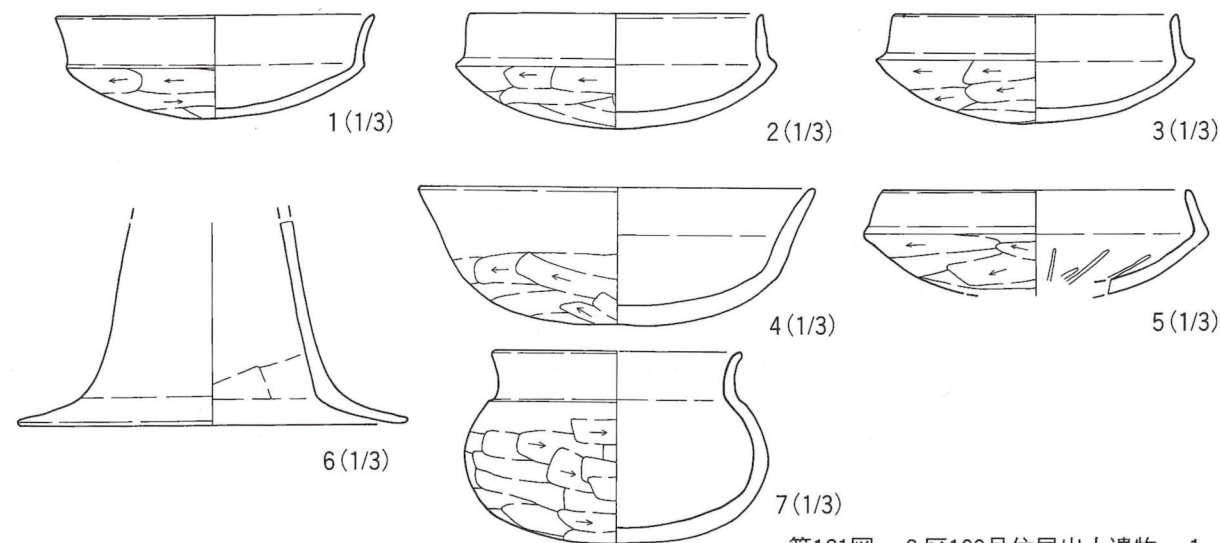
第119図 2区96号住居



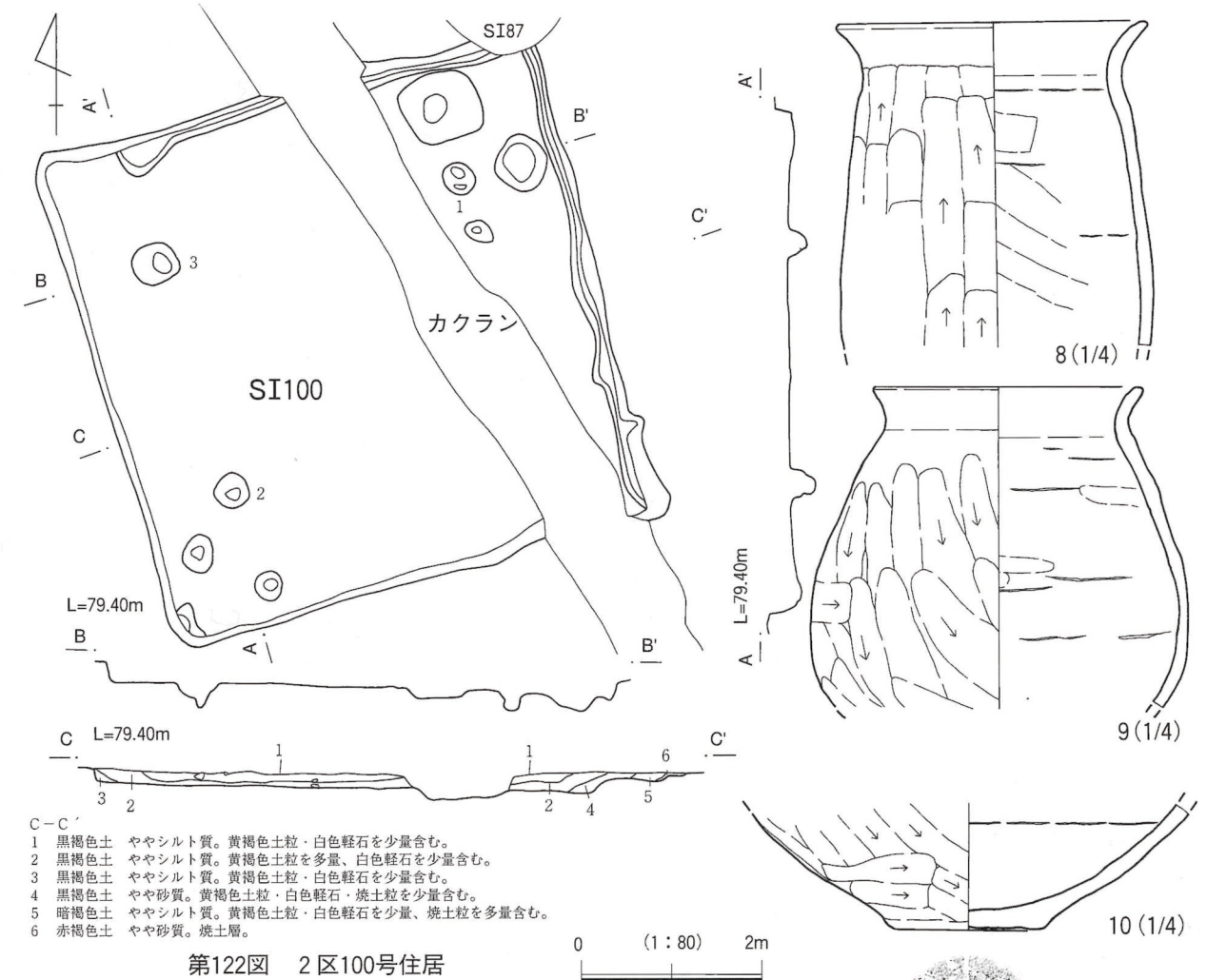
第120図 2区96号住居出土遺物

2区100号住居

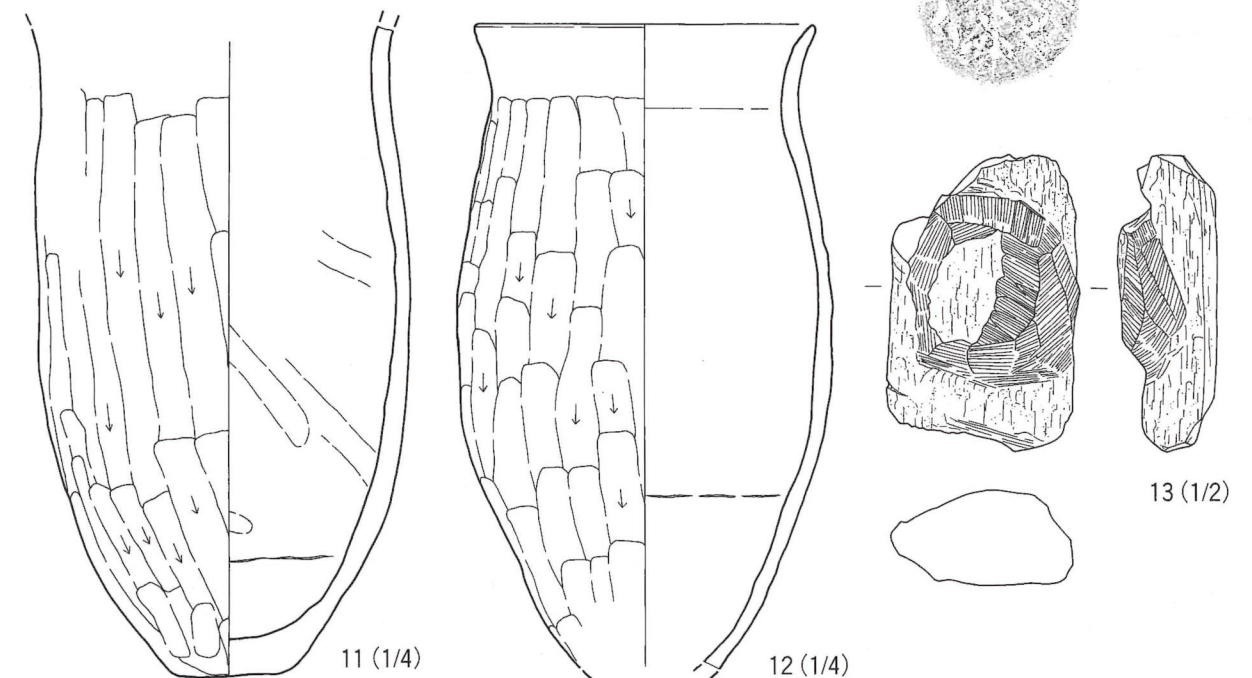
位置 2区 **規模形状** 長辺5.68m、短辺5.64mの正方形プランを呈する。残存壁高0.16mを測る。 **主軸方位** 北-16°-西 **重複** 93号・101号住居を掘り込み、現況溝に壊される。 **床面** 平坦面を形成している。 **カマド** 不明であるが、現況溝に壊された北壁中央部にあったと思われる。 **柱穴** 3基検出されている。南東部の柱穴は確認できなかった。柱穴1 長軸0.38m、短軸0.34m、深さ0.19m 柱穴2 長軸0.40m、短軸0.38m、深さ0.21m 柱穴3 長軸0.50m、短軸0.43m、深さ0.30m **貯蔵穴** 北東隅に位置する。方形を呈し、長軸0.84m、短軸0.78m、深さ0.53mを測る。 **その他付属施設** なし **遺物** 土師器甕・鉢・坏・高坏、石製紡錘車未製品 **所見** 6世紀第3四半期 **備考** No13の遺物は、蛇紋岩製の紡錘車をつくる過程と考えられる。



第121図 2区100号住居出土遺物-1



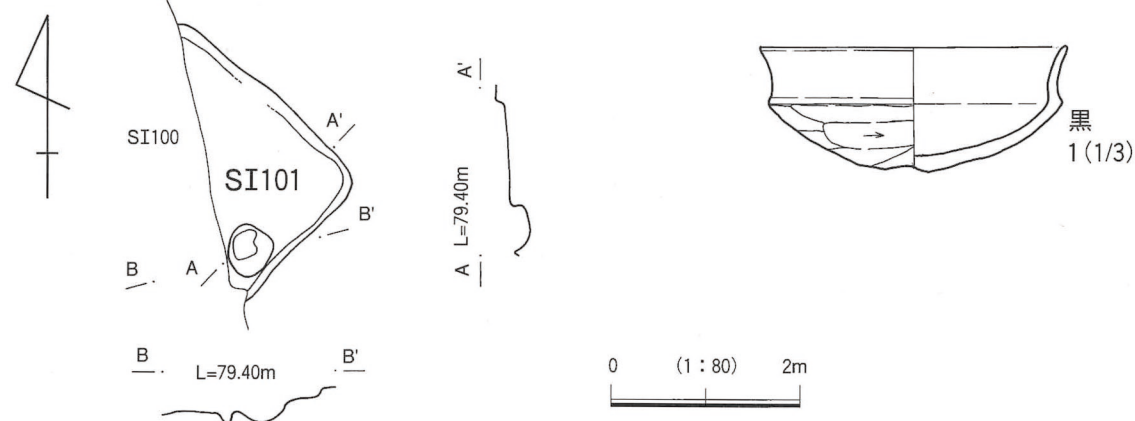
第122図 2区100号住居



第123図 2区100号住居出土遺物-2

2区101号住居

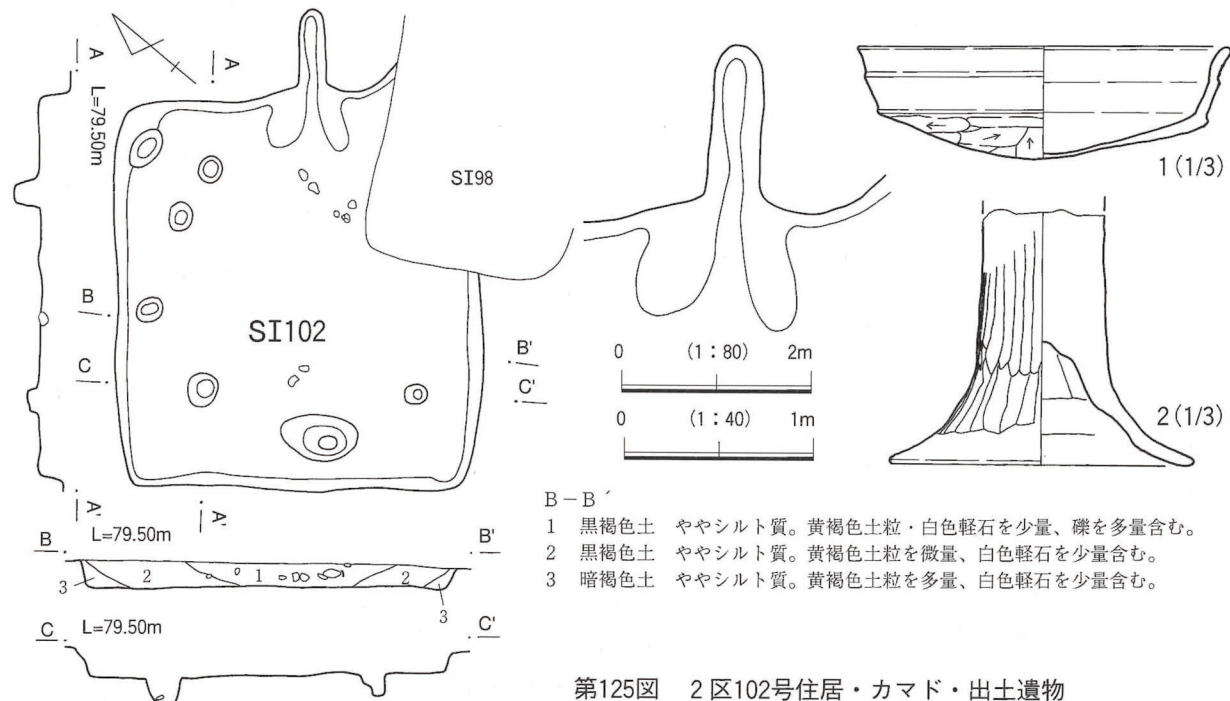
位置 2区 規模形状 長辺2.35m+ α 、短辺1.71m+ α 、残存壁高0.10mを測る。住居大半を100号住居に壊されるが、形状は方形と推定される。 主軸方位 北-45°-西 重複 93号住居を掘り込み、100号住居に壊される。 床面 平坦面を形成している。 カマド 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器坏 所見 6世紀前半



第124図 2区101号住居・出土遺物

2区102号住居

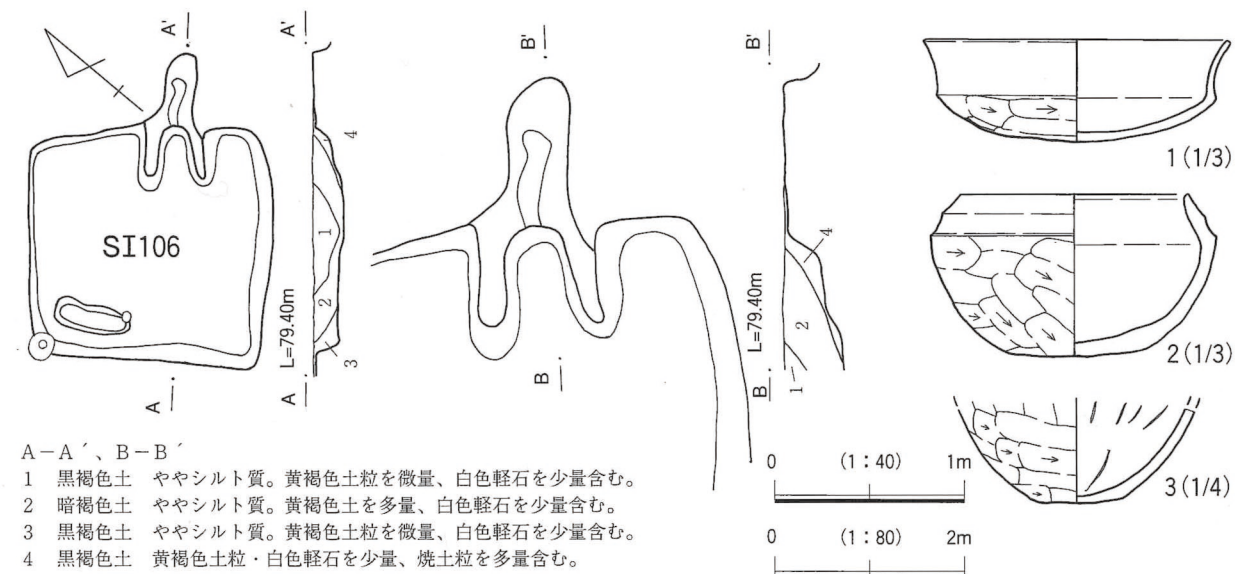
位置 2区 規模形状 長辺4.12m、短辺3.86mと方形を呈する。残存壁高は0.28mを測る。 主軸方位 東-35°-北 重複 98号住居に壊される。 床面 平坦面を形成している。 カマド 東壁中央部やや南側に位置する。奥行0.75m、焚き口幅0.40m、煙道部長0.80mを測る。煙道部は住居壁の外側に地山を削り出してつくられる。 柱穴 柱穴を3基検出されている。ほかは確認できなかった。 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器坏・高坏 所見 6世紀第3四半期



第125図 2区102号住居・カマド・出土遺物

2区106号住居

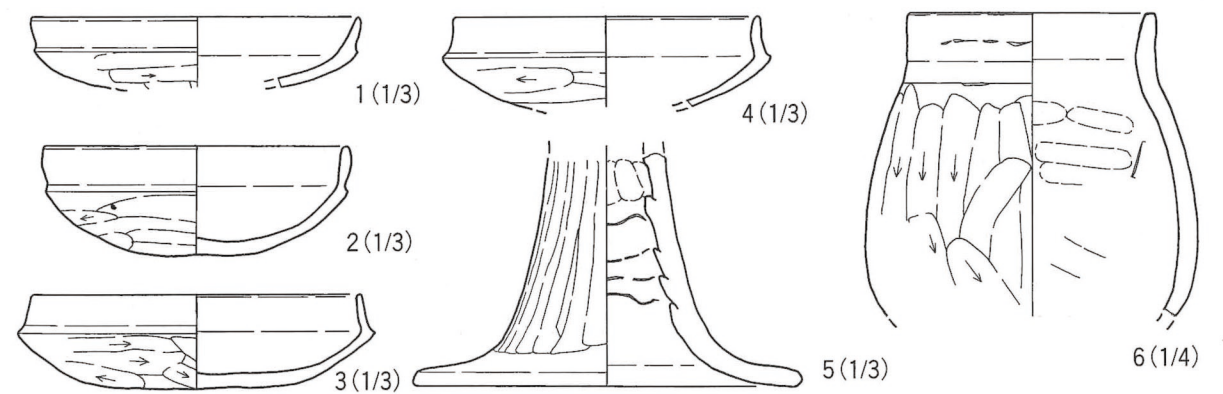
位置 2区 規模形状 長辺3.27m、短辺2.57mの長方形プランを呈す。残存壁高0.36mを測る。 主軸方位 東-35°-北 重複 17号溝が埋没してから構築される。 床面 多少の凹凸がみられる。 カマド 東壁中央やや南側に位置する。奥行0.65m、焚き口幅0.35m、煙道部長0.77mを測る。両袖先端部の袖石は凝灰岩でほぼ据えられた状態であった。煙道部は住居壁の外側につくられ、ほぼ水平に伸び緩やかに立ち上がっている。 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏・椀 所見 6世紀後半



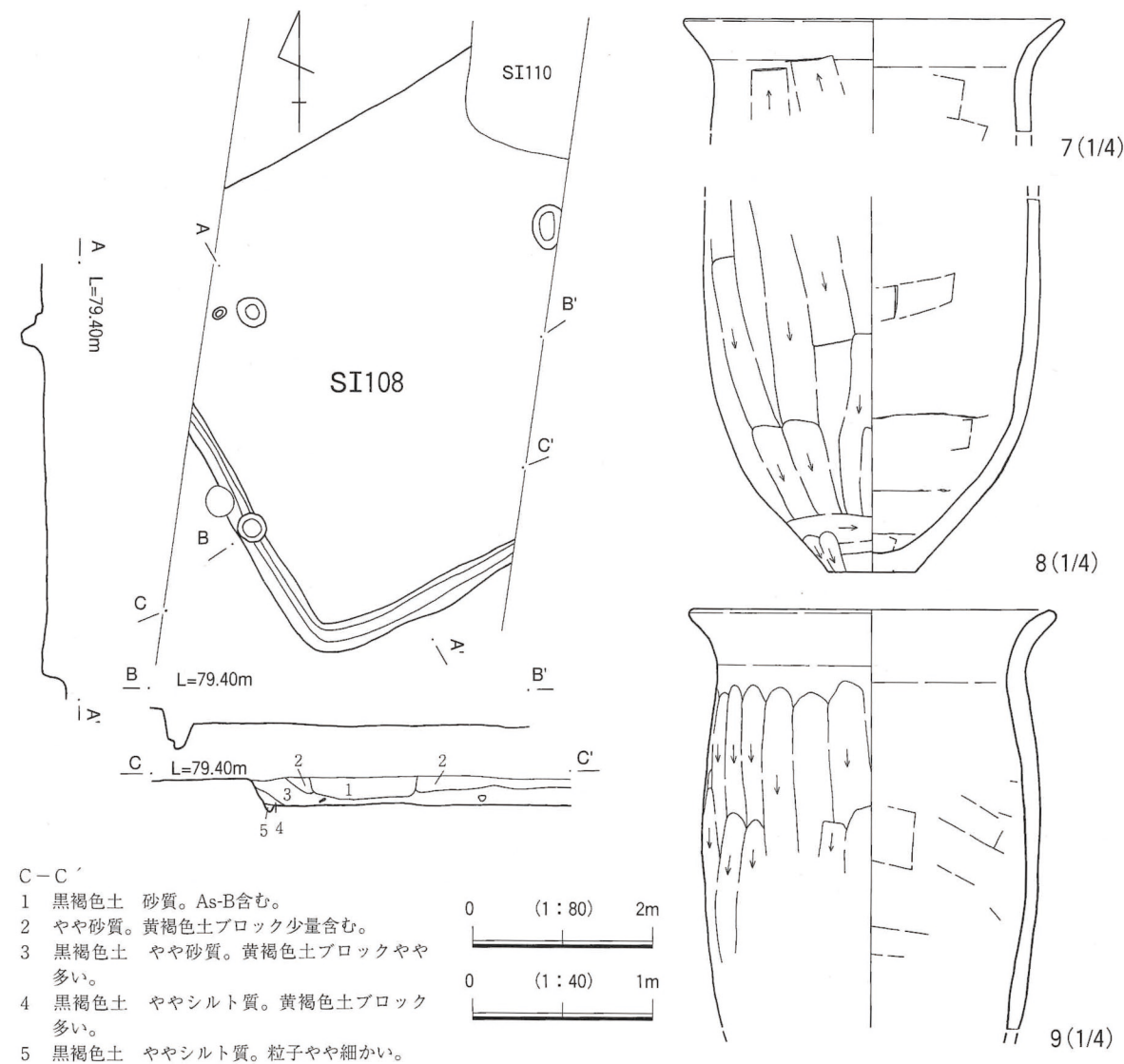
第126図 2区106号住居・カマド・出土遺物

8区108号住居

位置 8区 規模形状 1辺5.20m、他の辺は計測できない。残存壁高は0.29mを測る。形状は方形と推定される。 主軸方位 北-25°-西 重複 109号・112号住居を掘り込み、110号住居に壊される。 床面 平坦面を形成している。 カマド 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏・高坏 所見 6世紀後半



第127図 8区108号住居出土遺物-1

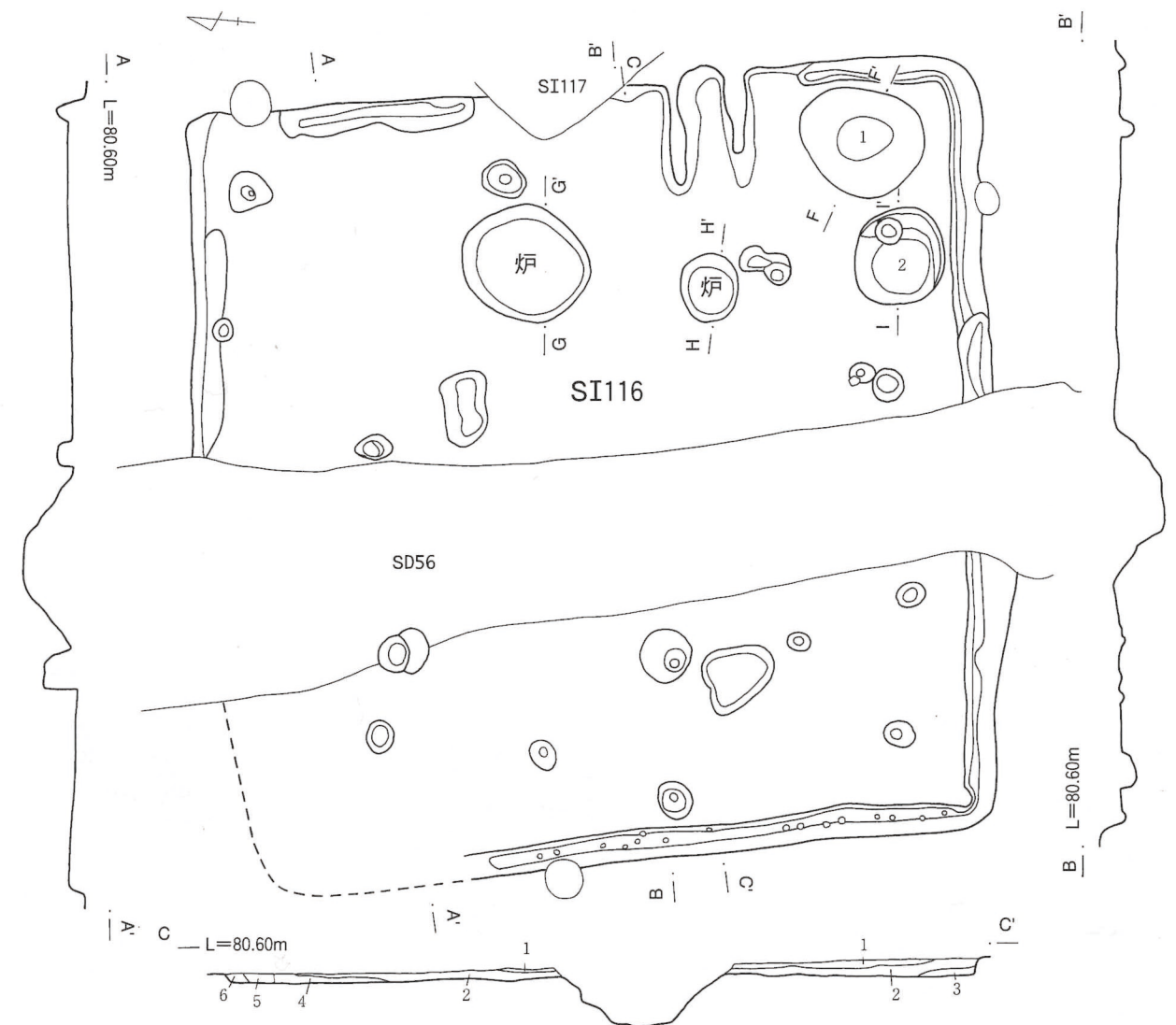


第128図 8区108号住居

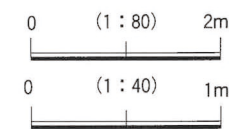
第129図 8区108号住居出土遺物—2

9区西116号住居

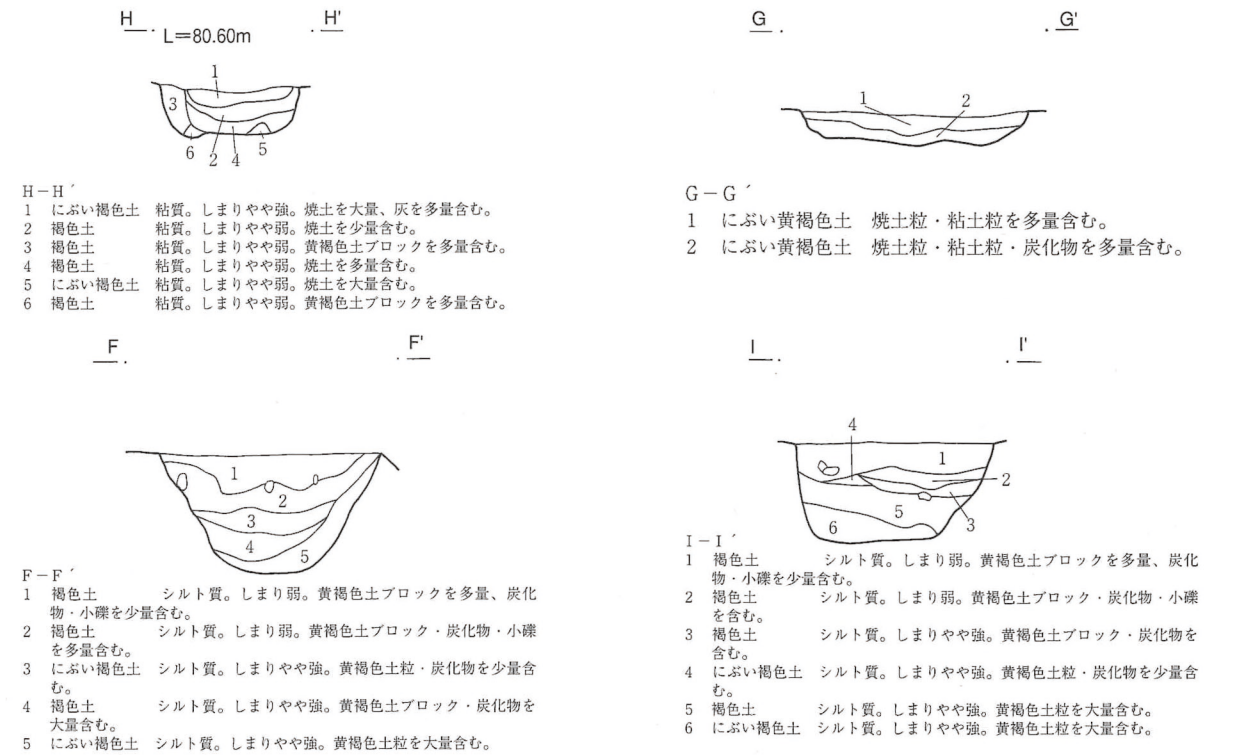
位置 9区西 規模形状 長辺9.10m、短辺8.90mとほぼ正方形の大型住居。残存壁高は0.14m。 主軸方位 東-14°-北 重複 117号住居、56号溝（中世館址の堀）に壊される。 床面 ほぼ平坦。 カマド 東壁中央部やや南側に位置する。奥行1.30m、焚き口幅0.50mを測る。煙道部は削平されており不明。袖は住居内に張り出す。燃烧面は床面より0.10～0.20m程低く、カマド奥で急に立ち上がる。カマドはよく焼けており、焚き口手前や袖両脇まで焼土と灰がひろがっていた。 炉 カマド前（0.78×0.66m深さ0.25m）とその北（1.47×1.30m深さ0.18m）と、2基の炉がある。壁はよく焼け、内部は焼土粒と炭化物混じりである。 柱穴 主柱穴9本検出。 貯蔵穴 住居隅にはほぼ円形で直径1.4m、深さ0.67mの貯蔵穴、その西に直径1.00m深さ0.55mとの2基がある。 その他付属施設 住居北部分を除いて壁周溝が巡る。幅0.10～0.30m深さ0.05～0.10m程度である。 遺物 土師器杯・甕・埴・甗、須恵器蓋坏・甕・ハソウ（28）、滑石製勾玉（36）、ガラス製小玉（37）、石製模造品剣形。 所見 須恵器蓋坏の蓋（25・26）はTK23段階併行期に位置づけられる。特に祭祀関連遺物が多いのが特徴的である。



- C-C'
- | | |
|-----------|-------------------------------------|
| 1 灰褐色土 | シルト質。しまりやや強。黄褐色土ブロックを少量含む。 |
| 2 灰褐色土 | シルト質。しまりやや強。黄褐色土ブロック・小礫を多量含む。 |
| 3 褐色土 | シルト質。しまりやや強。黄褐色土粒・黄褐色土ブロック・小礫を多量含む。 |
| 4 にぶい黄褐色土 | シルト質。しまりやや弱。黄褐色土ブロックを大量、小礫を多量含む。 |
| 5 灰黄褐色土 | シルト質。しまりやや強。黄褐色土粒を少量含む。 |
| 6 灰黄褐色土 | やや砂質。しまりやや強。黄褐色土粒を少量含む。 |
- D-D'
- | | |
|----------|----------------------------------|
| 1 橙色土 | シルト質。しまり弱。焼土を大量、灰を多量含む。 |
| 2 にぶい褐色土 | シルト質。しまり弱。黄褐色土ブロックを少量、焼土・灰を多量含む。 |
| 3 褐色土 | シルト質。しまり弱。焼土を大量、灰を少量含む。 |
| 4 橙色土 | シルト質。黄褐色土ブロック・灰を少量、焼土を多量含む。 |
| 5 にぶい橙色土 | シルト質。しまりやや強。灰を多量含む。 |

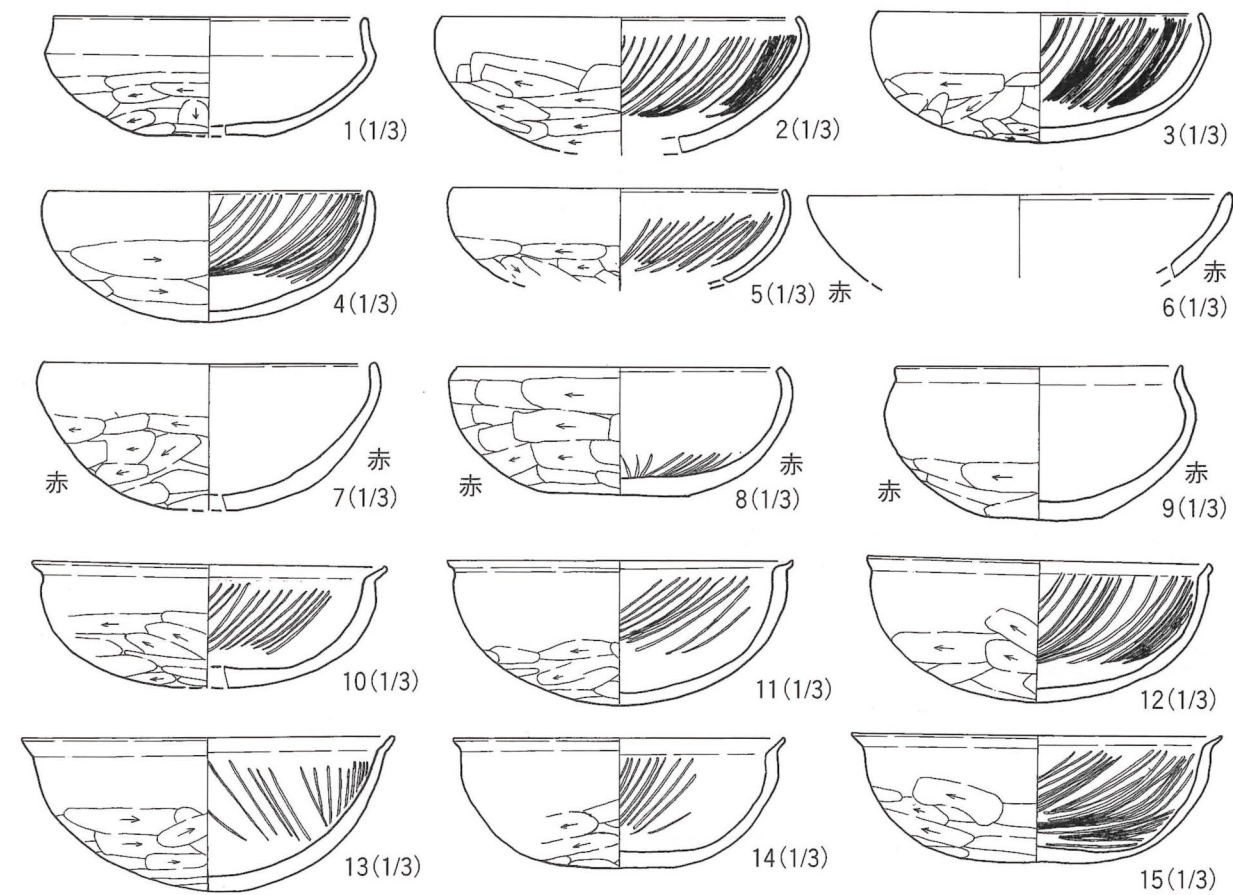


第130図 9区西116号住居・カマド

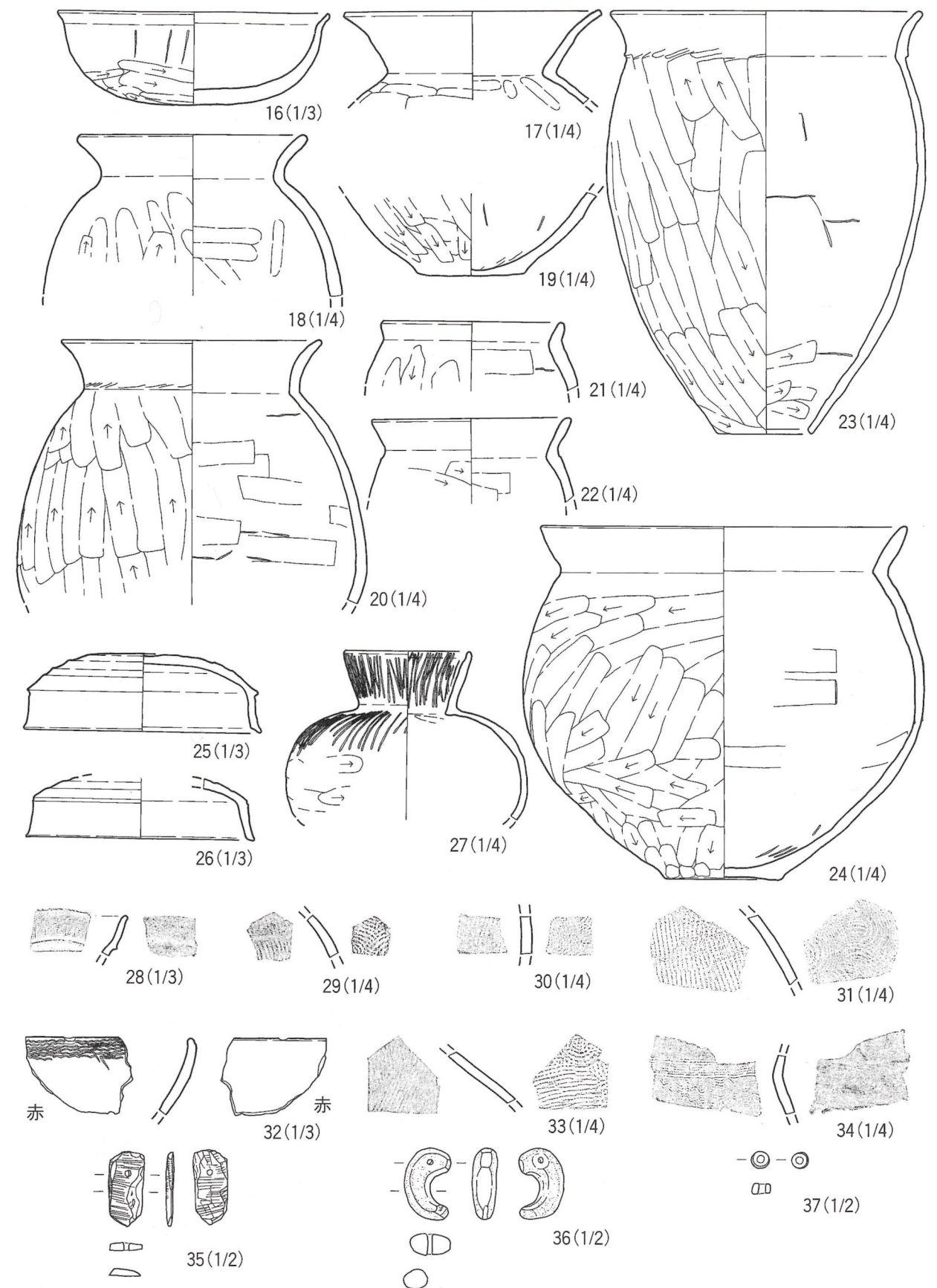


第131図 9区西116号住居・炉・貯蔵穴

0 (1:40) 1m



第132図 9区西116号住居出土遺物-1



第133図 9区西116号住居出土遺物-2